

1. 処務概要

1・1 役員に関する事項

1・1・1 役員就任者

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	現職	備考
理事	田口 裕也	2004年4月9日	会長	なし	(株)日立製作所 研究開発本部 技師長	
"	笠木 伸英	2005年4月8日	筆頭副会長	"	東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	
"	有信 睦弘	2004年4月9日	副会長	"	(株)東芝 執行役常務	
"	尾田 十八	2005年4月8日	"	"	金沢大学 教授、工学部長	
"	深野 徹	2004年4月9日	"	"	久留米工業大学 工学部 教授	
"	岡田 亮二	2005年4月8日	庶務理事	"	日立金属(株) 先端エレクトロニクス研究所 主管研究員	
"	工藤 一彦	2004年4月9日	"	"	北海道大学 大学院工学研究科 人間機械システムデザイン専攻 教授	
"	森下 信	2005年4月8日	"	"	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 人工環境と情報部門 教授	
"	矢部 彰	2004年4月9日	"	"	(独)産業技術総合研究所 中国センター 所長	
"	大澤 克幸	2005年4月8日	財務理事	"	(株)豊田中央研究所 シェネラルマネージャー	
"	香月 正司	2005年4月8日	"	"	大阪大学 名誉教授	
"	佐藤 順一	2004年4月9日	"	"	石川島播磨重工業(株) 技術開発本部 執行役員・副本部長	
"	波江野 勉	2005年4月8日	"	"	新日本製鐵(株) 監査役	
"	稲葉 英男	2005年4月8日	編修理事	"	岡山大学 理事、副学長	
"	川田 宏之	2004年4月9日	"	"	早稲田大学 理工学部 機械工学科 教授	
"	高柳 格	2005年4月8日	"	"	(株)いすゞ中央研究所 社長	
"	長南 征二	2004年4月9日	"	"	秋田県立大学 システム科学技術学部 機械知能システム学科 教授	
"	堤 正臣	2005年4月8日	"	"	東京農工大学 大学院 生物システム応用科学教育部 教授	
"	金子 成彦	2004年4月9日	企画理事	"	東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	
"	児玉 敏雄	2005年4月8日	"	"	三菱重工業(株) 高砂研究所 所長	
"	田中 啓介	2004年4月9日	"	"	名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授	
"	岸本 喜久雄	2004年4月9日	広報理事	"	東京工業大学 大学院理工学研究科 機械制御システム専攻 教授	
"	菱田 公一	2005年4月8日	"	"	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授	
"	鈴木 雅行	2005年4月8日	常勤理事	"	日本機械学会 常勤理事	
監事	北川 正樹	2005年4月8日	会務監査	"	石川島播磨重工業(株) 主席技監	
"	宮本 登	2004年4月9日	"	"	北海道大学 名誉教授	
評議員	雨森 宏一	2005年4月8日	重要事項評議	"	ヤンマー(株) 技術統括本部 常務取締役技術統括本部長	
"	有信 睦弘	"	"	"	(株)東芝 執行役常務	
"	安藤 栄	"	"	"	石川島播磨重工業(株) エネルギー・プラント事業本部 執行役員・副本部長	
"	飯田 訓正	"	"	"	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授	
"	飯野 利喜	"	"	"	東京大学 大学院 工学系研究科 特任教授	
"	池川 昌弘	"	"	"	北海道大学 大学院工学研究科 人間機械システムデザイン専攻 教授	
"	池崎 徹	"	"	"	新日本製鐵(株) プラント・環境事業部 製鉄プラント第二部連綿・圧延 Gr マネジャー	
"	池田 敏彦	"	"	"	信州大学 工学部 環境機械工学科 教授	
"	石田 幸男	"	"	"	名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授	
"	石塚 勝	"	"	"	富山県立大学 工学部 機械システム工学科 教授	
"	石橋 羊一	"	"	"	(株)本田技術研究所 朝霞研究所 第1研究ブロック チーフエンジニア	
"	石原 国彦	"	"	"	徳島大学 工学部 機械工学科機械システム講座 教授	
"	石本 礼二	"	"	"	石川島検査計測(株) 代表取締役社長	
"	板谷 真積	"	"	"	三井造船(株) 環境事業本部 技術開発部 部長	
"	一山 修一	"	"	"	日立建機(株) 執行役専務 CTO・事業統括本部長	
"	稲葉 英男	"	"	"	岡山大学 理事・副学長	
"	岩淵 明	"	"	"	岩手大学 大学院 工学研究科フロンティア材料機能工学専攻 教授	
"	上田 新次郎	"	"	"	日立プラント建設(株) 技術開発本部 本部長	
"	上田 建仁	"	"	"	トヨタ自動車(株) 東富士研究所 ハワートレイン制御開発部 常務役員	
"	上田 政博	"	"	"	アイシン精機(株) 技術開発部門 電子系技術部	
"	上野 恵尉	"	"	"	(株)日立製作所 生産技術研究所 主管研究員	
"	内本 恒男	"	"	"	アイシン精機(株) 取締役	
"	内山 勝	"	"	"	東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授	
"	内山田 竹志	"	"	"	トヨタ自動車(株) 本社 新車進行管理部 取締役副社長	
"	遠藤 隆	"	"	"	東日本旅客鉄道(株) JR東日本研究開発センター 所長	
"	遠藤 規美	"	"	"	東北電力(株) 火力原子力本部 火力部 副部長	
"	大岩 紀生	"	"	"	名古屋工業大学 大学院 工学研究科機能工学専攻(ながれ領域) 教授	
"	大久保 博志	"	"	"	大阪府立大学 大学院工学研究科機械系専攻 航空宇宙工学分野 教授	
"	大澤 克幸	"	"	"	(株)豊田中央研究所 シェネラルマネージャー	
"	大富 浩一	"	"	"	(株)東芝 研究開発センター 研究主幹	
"	大野 信忠	"	"	"	名古屋大学 大学院工学研究科 計算理工学専攻 教授	
"	大矢 弘史	"	"	"	石川島播磨重工業(株) 技術開発本部 スタッフグループ 技師長	
"	岡崎 健	"	"	"	東京工業大学 大学院理工学研究科 機械制御システム専攻 教授	
"	岡田 亮二	"	"	"	日立金属(株) 先端エレクトロニクス研究所 主管研究員	
"	岡本 勲	"	"	"	(財)鉄道総合技術研究所 理事	
"	小川 王幸	"	"	"	(株)デンソー 技術企画部 専務取締役	
"	尾田 十八	"	"	"	金沢大学 教授、工学部長	
"	小野 信市	"	"	"	(株)日本製鋼所 研究開発本部 水素エネルギー開発センター センター長	
"	大日方 五郎	"	"	"	名古屋大学 エコピア科学研究機構 先端技術共同研究センター知能システム分野 教授	
"	海堀 洋義	"	"	"	(株)小松製作所 栗津工場 特機事業本部技術研究所 システム開発部長	
"	景山 一郎	"	"	"	日本大学 生産工学部 機械工学科 教授	
"	笠木 伸英	"	"	"	東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授	
"	笠波 英雄	"	"	"	いすゞ自動車(株) 市場品質プロジェクトチーム T-RR0	
"	梶浦 健治	"	"	"	三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 技師長	
"	鹿島 光一	"	"	"	(財)電力中央研究所 材料科学研究所 研究参事	
"	香月 正司	"	"	"	大阪大学名誉教授	

加藤 正文			(株)豊田自動織機 コンプレッサ事業部 常務取締役コンプレッサ事業部長
門向 裕三			(株)日立製作所 オートモティブシステムグループ アドバンスト・テクニカルセンタ チーフプロジェクトリーダー
金井 誠太			マツダ(株) 車両コンポーネント開発本部 常務執行役員
金山 寛			九州大学 大学院工学研究院 知能機械システム部門 教授
金子 賢二			佐賀大学 工学部 機械システム工学科 教授
金子 成彦			東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授
金光 陽一			九州大学 大学院工学研究院 知能機械システム部門 教授
神谷 秀博			東京農工大学 大学院 生物システム応用科学研究科 教授
茅原 敏広			(株)三浦プロテック 常務取締役
川上 崇			(株)東芝 研究開発センター 機械・システムラボラトリー 研究主幹
河崎 照文			パプコック日立(株) 呉研究所 所長
川田 宏之			早稲田大学 工学部 機械工学科 教授
川端 信義			福井大学 工学部 機械工学科 教授
岸本 喜久雄			東京工業大学 大学院理工学研究科 機械制御システム専攻 教授
木須 博行			長崎大学 工学部 機械システム工学科 教授
京極 秀樹			近畿大学 工学部 機械工学科 教授
桐生 隆久			日立エンジニアリング(株) セキュリティシステム本部 本部長
工藤 勲			北海道大学 大学院工学研究科 機械科学専攻宇宙環境工学 教授
工藤 一彦			北海道大学 大学院工学研究科 人間機械システムデザイン専攻 教授
久保田 裕二			(株)東芝 研究開発センター 機械・システムラボラトリー 技監
久村 春芳			日産自動車(株) 総合研究所 VP総合研究所長 所長
黒田 通広			三洋電機(株) 研究開発本部 技術クロスファンクショナルユニット 課長
黒田 千秋			東京工業大学 大学院理工学研究科 化学工学専攻 教授
小泉 孝之			同志社大学 工学部 機械系学科 教授
河野 通方			東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 教授
小嶋 直哉			山口大学 工学部 機械工学科 教授
小島 史夫			(株)デンソー 生産技術部 部長
五嶋 孝仁			富山大学 工学部 機械知能システム工学科 教授
児玉 敏雄			三菱重工業(株) 高砂研究所 所長
古藤 広之			三菱重工業(株) 名古屋研究所 所長室 次長
後藤 新一			(独)産業技術総合研究所 エネルギー利用部門 クリーン動力研究グループ センター長
小西 義昭			日機装(株) 流体技術カンパニー 技術企画担当 参事
小林 正生			石川島播磨重工業(株) 技術開発本部 技師長
小林 睦夫			新潟大学 工学部 機械システム工学科 教授
小吹 信三			トヨタ自動車(株) 本社技術 常務役員
菅田 登			住友金属工業(株) 総合技術研究所 厚板建材研究開発部 主任研究員
近藤 良之			九州大学 大学院工学研究院 知能機械システム部門 教授
斉藤 忍			石川島播磨重工業(株) 技術開発本部 主席技監
斉藤 純夫			東京工業大学 工学部 機械工学科
斎藤 義夫			東京工業大学 大学院理工学研究科 機械制御システム専攻 教授
三枝 省三			広島大学 産学連携センター 教授
坂田 信二			(株)日立インダストリイズ 開発研究所 主管技師長
桜井 茂雄			(株)日立製作所 電力・電機グループ火力・水力事業部 日立生産本部 主管技師
佐々木 則夫			(株)東芝 電力・社会システム社 原子力事業部長
佐田 豊			(株)東芝 研究開発センター 通信プラットフォームラボラトリー 主任研究員
佐藤 巖			北海道旅客鉄道(株) 運輸部 運用車両課 専任課長
佐藤 和恭			(株)日立製作所 機械研究所 第2部 部長
佐藤 順一			石川島播磨重工業(株) 技術開発本部 執行役員・副本部長
澤田 恵介			東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授
塩田 和則			(株)東芝 経営監査部 経営監査第二担当 参事
篠原 稔			日産自動車(株) 常務
渋谷 陽二			大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授
清水 優史			東京工業大学 大学院情報理工学研究科 情報環境学専攻 教授
下河辺 明			東京工業大学 精密工学研究所 教授
庄子 哲雄			東北大学 大学院工学研究科附属 エネルギー安全科学国際研究センター 教授
庄司 正弘			(独)産業技術総合研究所 エネルギー利用研究部門 招聘研究員
白石 哲郎			愛媛大学 工学部 機能材料工学科 教授
白國 紀行			東海旅客鉄道(株) 総合技術本部 リニア開発本部山梨実験センター 所長
菅 泰雄			慶應義塾大学 工学部 機械工学科 教授
鈴木 浩平			東京都立大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授・工学研究科長・工学部長
鈴木 雅行			(社)日本機械学会 常勤理事
須藤 亮			(株)東芝 電力・社会システム技術開発センター センター長
李木 経孝			広島国際学院大学 工学部 機械工学科 教授
諏訪部 仁			金沢工業大学 工学部 機械工学科 助教授
芹澤 昭示			京都大学 大学院工学研究科 原子核工学専攻 教授
相馬 和夫			三菱重工業(株) 長崎造船所 第一工作部 部長
曾我部 雄次			愛媛大学 工学部 機械工学科 教授
田井 一郎			(株)東芝 電力・社会システム社 執行役常務/統括技師長
大聖 泰弘			早稲田大学 工学部 機械工学科 教授
高尾 健一			弓削商船高等専門学校 電子機械工学科 教授
高木 亨之			(株)日立製作所 機械研究所 技術主幹
高木 祥三			早稲田大学 工学部 経営システム工学科 教授
高柳 格			(株)いすゞ中央研究所 社長
田口 裕也			(株)日立製作所 研究開発本部 技師長
竹内 正雄			(独)産業技術総合研究所 エネルギー技術研究部門 燃焼評価グループ 主任研究員
竹内 芳美			大阪大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授
武田 展雄			東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻 教授
竹中 健二			(株)豊田自動織機 取締役
竹森 利和			大阪ガス(株) エネルギー技術研究所 シニアリサーチャー
田坂 英紀			宮崎大学 工学部 機械システム工学科 教授
田多井 俊夫			セイコーエプソン(株) 知的財産本部 副本部長

田中 取	三浦工業(株) 三浦研究所 技術推進室長 主席 研究員
田中 啓介	名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授
田中 俊光	(株)神戸製鋼所 理事・機械研究所 研究首席
田中 豊	岡山大学 大学院自然科学研究科 基盤生産システム科学専攻 教授
谷川 義信	大阪府立大学 大学院工学研究科 機械系専攻機械工学分野 教授
谷下 一夫	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授
長南 征二	秋田県立大学 システム科学技術学部 機械知能システム学科 教授
拓植 綾夫	内閣府総合科学技術会議 議員
葛原 道久	神戸大学 大学院自然科学研究科 機械システム科学専攻 教授
土屋 和雄	京都大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授
堤 正臣	東京農工大学 大学院 生物システム応用科学教育部 教授
坪内 邦良	(有)インテロウ・エージェンシー (株)日立製作所 電力・電機開発研究所 ガスタービン研究開発センター 主管研究員
寺山 孝男	寺山技術士事務所
徳本 恒徳	東京ガス(株) 常勤監査役
鳥居 太始之	岡山大学 大学院 自然科学研究科 教授
鳥越 邦和	ダイキン工業(株) 常務執行役員
中井 善一	神戸大学 工学部 機械工学科 教授
中川 紀壽	広島大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻 教授
中嶋 新一	新潟工科大学 機械制御システム工学科 教授
中島 正貴	豊田工業高等専門学校 機械工学科 教授
中橋 和博	東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授
仲町 英治	大阪工業大学 工学部 機械工学科固体力学研究室 教授
仲村 巖	日産ディーゼル工業(株) 社長
中村 友道	大阪産業大学 工学部 機械工学科 教授
中村 徳彦	トヨタ自動車(株) 東富士研究所 FC技術企画部 技監
苗村 康次	三菱電機(株) 通信機製作所 ISS部 主管技師長
西 道弘	九州工業大学 工学部機械知能工学科 機械工学教室 教授
西井 理治	(株)アドヴィックス 常務執行役員
西岡 純二	北海道電力(株) 総合研究所 次長
西田 晴茂	(株)小松製作所 大阪工場 検査部運転検査課
西脇 一宇	立命館大学 理工学部 機械工学科 教授
野口 徹	北海道大学 大学院工学研究科 機械科学専攻 教授
則次 俊郎	岡山大学 大学院自然科学研究科 産業創成工学専攻知能機械システム学講座 教授
波江野 勉	新日本製鐵(株) 監査役
萩原 一郎	東京工業大学 大学院理工学研究科 機械物理工学専攻 教授
橋本 彰	三菱重工業(株) 長崎研究所 所長室 次長
橋本 律男	三菱重工業(株) 技術本部 広島研究所 所長
花井 嶺郎	(株)デンソー 電機企画部 常務役員
濱 純	(独)産業技術総合研究所 つくば エネルギー技術研究部門 副部門長
林 一夫	東北大学 流体科学研究所 極限流研究部門 教授
林 眞琴	(株)日立製作所 電力グループ 日立事業所 主管技師
早山 徹	(独)防災科学技術研究所 理事
速水 洋	九州大学 先端物質化学研究所 先端素子材料部門 教授
原 文雄	東京理科大学 工学部 機械工学科 教授
菱田 公一	慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 教授
姫野 龍太郎	(独)理化学研究所 情報基盤センター センター長
平尾 隆	日鐵住金溶接工業(株) 代表取締役社長
平尾 雅彦	大阪大学 大学院基礎工学研究科 機能創成専攻 教授
平木 彦三郎	(株)小松製作所 建機エレクトロニクス事業部 技師監
平子 廉	三菱自動車工業(株) パワートレイン研究部 部長
平澤 茂樹	神戸大学 工学部 機械工学科 教授
廣江 哲幸	熊本大学 工学部 知能生産システム工学科 教授
広瀬 茂男	東京工業大学 大学院理工学研究科 機械宇宙システム専攻 教授
深野 徹	久留米工業大学 工学部 教授
福井 泰好	鹿児島大学 工学部 機械工学科 教授
福岡 俊道	神戸大学 海事科学部 海洋機械工学講座 教授
福島 康雄	(株)日立インダストリアルズ 社会・産業システム事業部 主管技師長
福永 久雄	東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授
富士 明良	北見工業大学 工学部 機械システム工学科 教授
藤江 正克	早稲田大学 理工学部 機械工学科 教授
藤岡 健彦	東京大学 大学院工学系研究科 産業機械工学専攻 助教授
藤本 英雄	名古屋工業大学 大学院 工学研究科(おもひ領域) 教授
船崎 健一	岩手大学 工学部 機械工学科・航空宇宙システム部門 教授
古澤 邦夫	九州電力(株) 火力発電本部 執行役員火力部長
古寺 雅晴	Hitz日立造船(株) 技術本部技術研究所 製品・システムセンター センター長
堀江 知義	九州工業大学 情報工学部 機械システム工学科 教授
前田 啓成	宇部興産機械(株) 生産本部 購買部 部長
牧野 啓二	石川島播磨重工業(株) エネルギープラント事業本部 理事・技監
升谷 五郎	東北大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授
松岡 信一	富山県立大学 工学部 機械システム工学科 教授
松下 修己	防衛大学校 機械工学科 教授
松日 楽 信人	(株)東芝 研究開発センター ヒューマンセントリックラボラトリー 研究主幹
松村 修二	富士重工業(株) スバル技術研究所 プロジェクトマネージャ
松本 和男	(株)デンソー 生産技術部 取締役副社長
松本 将	早稲田大学 大学院 情報生産システム研究科 教授
松本 洋一郎	東京大学 大学院工学系研究科 機械工学専攻 教授
丸田 芳幸	(株)荏原総合研究所 機械研究室 室長
内山 重直	東北大学 流体科学研究所 極限流研究部門 教授
三浦 昭人	アルプス電気(株) 北原工場 生産技術開発センター加工技術G 主任技師
水野 明哲	工学院大学 工学部 機械工学科 教授
水町 渉	(独)原子力安全基盤機構 安全情報部長

皆川 龍司	三宅 俊也	宮崎 則幸	宮近 幸逸	武藤 陸治	村上 俊明	森 淳暢	森 英明	森 英夫	森下 信	森光 信孝	矢川 元基	八塚 隆	矢部 彰	山内 裕	山果 秀司	山口 幸蔵	山崎 政男	山下 直之	山下 博史	山科 忠	山田 一郎	山田 修一	横堀 壽光	横山 孝男	吉岡 純夫	吉廻 秀久	吉田 憲一	吉田 敏雄	吉田 英生	吉田 秀則	吉田 総仁	吉村 允孝	脇坂 知行	和田 耕	渡辺 敏	(株)東芝 電力・社会システム社 火力・水力事業部 (株)神戸製鋼所 技術開発本部 機械研究所 流熱技術研究室室長 京都大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授 鳥取大学 工学部 機械工学科 教授 長岡技術科学大学 工学部 機械系 教授 (株)東芝 電力・産業システム技術開発センター 技監 関西大学 工学部 機械システム工学科 教授 (株)日立製作所 機械研究所 企画室 室長 九州大学 大学院工学研究院 機械科学部門 教授 横浜国立大学 大学院環境情報研究院 人工環境と情報部門 教授 トヨタ自動車(株) 本社技術 エンジン企画部 シニア・スタッフエンジニア 東洋大学 計算力学研究センター 教授 新日本製鐵(株) 棒線事業部室蘭製鐵所 製品技術部 部長 (独)産業技術総合研究所 中国センター 所長 三菱重工(株) 神戸造船所 副所長 カルソニックカンセイ(株) 副社長 アイシン・エイ・ダブリュ(株) 取締役 東陶機器(株) 衛陶企画部 部長 関西電力(株) 火力事業本部 建設グループ チーフマネージャー 名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授 トヨタ自動車(株) 常務役員 東京大学 大学院工学系研究科 産業機械工学専攻 教授 (株)クボタ エンジン事業部 エンジン技術部 担当部長 東北大学 大学院工学研究科 ナノメクス専攻 教授 山形大学 工学部 機械システム工学科 教授 三菱電機(株) 生産システム本部(先端総研駐在) 技師長 パプコック日立(株) 呉研究所 火力研究部 部長 徳島大学 工学部 機械工学科 教授 三井造船(株) 技術本部 技術総括部 センター長 京都大学 大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授 川崎重工(株) 技術研究所 機械・流体研究部 部長 広島大学 大学院工学研究科 機械システム工学専攻 教授 京都大学 大学院工学研究科 機械工学群航空宇宙工学専攻 教授 大阪市立大学 大学院工学研究科 機械物理系専攻 教授 ダイハツ工業(株) パワートレーン開発部 パワートレーン開発室(滋テク) 担当役員 アスモ(株) 取締役社長
-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------	---

1.1.2 評議員・監事の選挙結果

第84期評議員・監事の選挙は2005年11月28日(月)で投票を締め切り、11月29日に開票を行ない、集計は電算機で処理した。投票数その他の結果は下記(a)~(c)のとおりである。

(a)有効票数

地区別	期別	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
0区A(学界・官界等)		45,693	40,046	41,255	40,605	37,426
0区B(産業界等)		87,859	76,226	79,602	81,366	72,407
1区(東北)		3,440	3,610	4,120	3,610	3,795
2区(北海道)		1,488	1,488	1,304	1,408	1,408
3区(東海)		38,376	40,248	41,860	37,518	35,906
4区(関西)		32,770	32,016	31,117	29,008	27,076
5区(中国)		6,173	5,304	5,473	5,564	4,788
6区(四国)		1,463	1,484	1,582	1,575	1,645
7区(北陸信越)		3,564	3,322	3,201	3,223	3,384
8区(九州)		12,120	10,665	9,765	9,720	9,150
部門		70,089	109,887	111,955	107,230	100,645
監事		14,810	14,106	14,168	13,552	13,104
計		317,845	338,402	345,402	334,379	310,734

1.2 職員に関する事項

2006年2月現在

職名	氏名	職員採用・起任年月日	担当業務
事務局長	寿山 正博	1969.6.1	事業運営
	宮原 ふみ子	1971.6.1	総合企画
事務局長	福澤 清和	1972.4.1	字会運営
	尾崎 雅	1972.7.1	総務
総務グループ課長補佐	佐藤 秋雄	1972.12.1	総合企画
	大室 孝幸	1973.1.1	財務
財務グループ課長	星野 美代子	1973.4.1	出版・販売
	増田 一夫	1974.7.1	総合企画
財務グループ課長補佐	小泉 真理子	1976.4.1	財務
	村山 ゆかり	1976.8.1	総務
出版・販売グループ課長	磯野 梓一	1986.3.1	出版・販売
	野口 明生	1987.4.1	会員・情報管理
会員・情報管理グループ課長	遠藤 貴子	1988.4.1	出版・販売
	加藤 佐知子	1991.5.1	会員・情報管理
総合企画グループ課長	桑原 武夫	1992.4.1	会員・情報管理
	高橋 正彦	1992.4.1	総合企画
	川崎 さおり	1993.4.1	出版・販売
	留根原 雅代	1993.4.1	出版・販売
	長野 奈穂美	1993.4.1	財務
	熊谷 理香	1993.5.1	総合企画
	高杉 史靖	1998.4.1	総務
	田中 克	2001.9.1	総務
	小坂 雅裕	2002.4.1	総合企画
	滝本 真也	2003.4.1	財務
濱谷 明子	2003.4.1	出版・販売	
石山 知明	2004.10.1	総合企画	
小重 忠司	2004.10.1	出版・販売	
井上 理	2006.7.1	会員・情報管理	
担当課長(出向)	渡邊 和範	2003.10.1	発電用設備課
担当課長(出向)	鎌原 健志	2005.7.1	発電用設備課

(b)投票率

地区別	有権者(正員) A						有効枚数						無効枚数						投票総数 B						投票率 B/A						当選者最低得票数											
	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年						
全国	34,383	33,363	32,632	31,968	31,738		517	517	553	478	365		8,084	7,570	7,637	7,254	6,917		6,047	5,241	5,905	4,930	5,452		23.5%	22.7%	23.4%	22.7%	21.8%		23.4%	22.7%	23.4%	22.7%	21.8%		6,047	5,241	5,905	4,930	5,452	
監事	34,383	33,363	32,632	31,968	31,738		7,405	7,053	7,084	6,776	6,552		8,084	7,570	7,637	7,254	6,917		23.5%	22.7%	23.4%	22.7%	21.8%		23.4%	22.7%	23.4%	22.7%	21.8%		6,047	5,241	5,905	4,930	5,452							
0区A(学界・官界等)	15,615	15,110	14,754	14,368	14,149		3,001	2,401	2,506	2,428	2,332		3,169	2,544	2,674	2,584	2,489		20.3%	16.8%	18.1%	18.0%	17.6%		18.1%	16.8%	18.1%	18.0%	17.6%		952	728	736	719	737							
0区B(産業界等)																															1,296	1,095	977	929	920							
1区(東北)	1,194	1,210	1,237	1,243	1,267		344	362	412	361	345		347	368	422	367	358		29.1%	30.4%	34.1%	29.5%	28.3%		34.1%	30.4%	34.1%	29.5%	28.3%		252	247	318	278	259							
2区(北海道)	603	596	590	572	549		186	166	163	176	176		190	188	163	179	179		31.5%	31.5%	27.6%	31.3%	32.6%		27.6%	31.5%	27.6%	31.3%	32.6%		138	121	112	109	124							
3区(東海)	5,182	5,042	4,927	4,869	4,858		1,476	1,542	1,610	1,443	1,381		1,577	1,623	1,695	1,526	1,453		30.6%	32.2%	34.4%	31.3%	29.9%		34.4%	32.2%	34.4%	31.3%	29.9%		1,006	867	917	744	794							
4区(関西)	5,739	5,486	5,294	5,206	5,195		1,130	1,104	1,073	1,036	967		1,223	1,168	1,137	1,100	1,028		21.3%	21.3%	21.5%	21.1%	19.8%		21.5%	21.3%	21.5%	21.1%	19.8%		849	748	769	723	703							
5区(中国)	1,790	1,727	1,671	1,642	1,649		475	408	421	428	399		487	414	439	437	413		27.2%	24.0%	26.3%	26.6%	25.0%		26.3%	24.0%	26.3%	26.6%	25.0%		304	350	307	294	296							
6区(四国)	668	659	661	649	671		209	212	226	225	235		211	214	228	227	239		31.6%	32.5%	34.5%	35.0%	35.6%		34.5%	32.5%	34.5%	35.0%	35.6%		124	157	115	184	143							
7区(北陸信越)	1,381	1,359	1,357	1,349	1,352		324	303	291	293	282		330	312	301	303	291		23.9%	23.0%	22.2%	22.5%	21.5%		22.2%	23.0%	22.2%	22.5%	21.5%		194	200	207	204	204							
8区(九州)	2,241	2,174	2,141	2,070	2,048		808	711	651	648	610		835	734	806	660	621		37.3%	33.8%	37.6%	31.9%	30.3%		37.6%	33.8%	37.6%	31.9%	30.3%		480	513	457	403	356							
部門	34,383	33,363	32,632	31,968	31,738		7,606	7,120	7,278	6,994	6,683		7,798	7,261	7,425	7,093	6,811		22.7%	21.8%	22.8%	22.2%	21.5%		22.8%	21.8%	22.8%	22.2%	21.5%		706	381	663	779	728							

(c)勤務先別の候補者・当選者数(評議員)

地区別	当選者数/候補者数						当選者数/候補者数						当選者数/候補者数					
	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	02年	03年	04年	05年	06年	07年
0区A(学界・官界等)	18	66	14	52	16	50	16	49	15	44	46	76	46	68	46	73	47	85
0区B(産業界等)																		
1区(東北)	10	12	9	11	8	11	8	10	9	11	0	0	0	1	1	2	2	2
2区(北海道)	6	8	5	7	5	8	4	8	4	7	2	4	3	4	3	4	4	4
3区(東海)	10	23	10	22	7	19	7	23	8	20	16	18	16	21	19	21	19	22
4区(関西)	13	23	13	22	14	20	11	17	14	17	16	20	16	21	15	19	17	22
5区(中国)	8	11	8	11	8	11	8	11	7	10	5	5	5	5	5	5	5	5
6区(四国)	5	6	6	7	5	8	5	8	6	8	2	3	1	2	2	2	2	2
7区(北陸信越)	8	10	8	9	10	9	10	10	10	12	2	5	3	5	2	4	2	4
8区(九州)	9	15	10	16	11	12	10	14	10	16	6	7	5	6	4	7	5	8
部門	34	75	36	70	34	66	36	68	34	63	19	26	15	17	15	19	14	20
計	121	249	119	228	117	215	114	218	117	208	114	164	111	150	113	155	117	174

1・3 役員会等に関する事項

理事会・所管理事会開催一覧

月別	理事会			所管理事会										
	回数	出席者	議案	所管理事承認事項	庶務理事会		財務理事会		編修理事会		企画理事会		広報理事会	
					回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者	回数	出席者
2005. 3	1	19	6	73	1	3	1	4	1	6	1	3		
4	1	25	5											
5	(政策財務部会)				1	5	1	5(内1)	1	6	1	4		1
6	(政策財務部会)				1	5	1	6(内2)	1	4	1	3		
7	1	24	5	5	1	5	1	6(内2)	1	5	1	4	1	3
8														
9	(政策財務部会)				1	4	1	5(内1)	1	4	1	4		1
10	1	23	12	87	1	5	1	6(内2)	1	5	1	3	1	2
11	(政策財務部会)				1	5	1	6(内2)	1	5	1	2		1
12	1	21	8	186	1	4	1	7(内2)	1	5	1	3		
2006. 1	(政策財務部会)				1	5	1	7(内2)	1	5	1	2		
2	1	20	11	67	1	5	1	4(内1)	1	4	1	3	1	2

* (内数は監事出席者)

1・3・1 理事会

1・3・2 評議員会

1・3・3 通常総会

表一覧に拠る。

開催日	会議事項	会議の結果	会場	出席者
2005. 4. 8	1. 第82期事業報告 2. 第82期会計報告 3. 名誉員推薦 4. 第83期事業計画 5. 第83期事業予算 6. 第83期理事・監事選出	いずれも原案どおり可決	アルカディア市ヶ谷 (私学会館)	29名 委任状提出者 125名

1・4 許可・認可・承認に関する事項

年月日	申請事項	許可等年月日	備考
2005. 4. 19	理事ならびに資産総額変更登記	2005年5月12日	

1・5 契約に関する事項

年月日	相手方	契約の概要 ()内単位:円
2005. 4. 1	日本規格協会	①TC30, TC108, TC108/SC2, TC108/SC3, TC108/SC4, TC108/SC5, TC108/WG26, TC123 国際規格回答原案調査費 TC108/SC2/WG7 幹事国業務 (2,810,450)
	"	②国際規格適正化調査研究 (1,639,002)
	"	③アジア太平洋地域標準化体制整備 (3,000,000)
	"	④JIS原案作成 (制定1件) (278,000)
2005. 4. 1	文部科学省	平成17年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」 (B)中学生・高校生向けシンポジウム あの製品はどんな方法で作っているのだろう (820,000)
	"	(B)第11回流れのふしぎ展 (1,430,000)
	"	(B)第9回ロボットグランプリ (1,480,000)
	"	(C)第3回アジア多体系動力学国際会議 (1,000,000)
2005. 6. 21	日本技術者教育認定機構	平成17年技術者教育プログラム認定審査業務 (25,462,500)
2005. 6. 3	日本学術振興会	平成17年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」 JSME International Journalデータベース (5,500,000)
2005. 7. 1	物質・材料研究機構	データシート活動とその研究に関する世界の動向調査 (3,000,000)
2005. 10. 21	化学工学会	環境人材育成戦略に関する調査研究 (1,811,250)
2005. 9. 27	原子力安全基盤機構	平成17年度原子力先進国の安全規制等に関する調査 (9,870,000)
2005. 9. 26	経済産業省	平成17年度産学連携製造中核人材育成事業実現可能性調査 (5,610,000)
2005. 11. 1	日本機械工業連合会	ものづくり基盤技術者スキル評価に関する調査研究 (4,000,000)

1・6 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	領 収 金 額	備 考
機械工学振興事業資金	個人会員 1,041名	3,445,500円	2005年度
フェロー寄付金	個人会員 488名	5,160,300円	"
日本機械学会島山賞の資金	(財)島山文化財団	2,000,000円	"
Dynamics & Design Conference 2005	新潟県観光振興課	1,067,145円	"
第3回JSMB先端生産技術に関する国際会議 (LEM21 in Nagoya)	(財)新潟観光コンベンション協会	570,000円	"
ロボティクス・メカトロニクス講演会2005	(財)名古屋観光コンベンションビューロー	433,000円	"
第18回バイオエンジニアリング講演会	神戸国際観光コンベンション協会	850,000円	"
	中内力コンベンション振興財団	1,700,000円	"
	新潟県	845,744円	"
	新潟観光コンベンション協会	310,000円	"

1・7 文部科学省指示に関する事項

指 定 年 月 日	指 示 事 項	履 行 状 況
	第82期事業報告書、収支決算報告書	2005年 5月12日
	第83期理事就任、資産総額変更	2005年 5月12日
	第84期収支予算書、事業計画書	2006年 2月24日

1・8 理事会処理事項

項 目	概 要
1. 部門、委員会、分科会、研究会の設置、解散	設置分科会：部門協議会関係 2、出版事業部会関係 0、技術開発支援センター関係 8 設置研究会：部門協議会関係 7 解散分科会：部門協議会関係 6、出版事業部会関係 1、技術開発支援センター関係 7 解散研究会：部門協議会関係 4
2. 前会長・監事懇談会	2005-5-10
3. 名誉員候補者選考会議	2005-11-8
4. 集会事業	2005年度年次大会 (2005.9.19~22) メカライブの世界展 (大学祭・高専祭などのタイアップ行事)
5. 助 成	機械工学振興事業資金助成 8件
6. 表 彰	2004年度日本機械学会賞贈賞 [技術功績3件, 論文16件, 技術8件] " 日本機械学会奨励賞贈賞 [研究20件, 技術17件] " 日本機械学会教育賞贈賞 [5件] 2004年度日本機械学会島山賞贈賞 [353名] " 日本機械学会三浦賞 [168名] " 日本機械学会船井賞 [船井特別賞(1件), 船井賞(3件)] 2005年度日本機械学会フェロー賞 (若手優秀講演) 55件 " 会員増強功労表彰 51件
7. 会 員	永年会員 {222名 (2005年度永年会員総数3,141名)}, 帰国留学生会員1名, フェロー {73名 (2005年度フェロー会員総数798名)}
8. 編 修・出版	学会誌 (2006年) の発行計画 論文集 (2006年) の発行計画, 英文誌 (2006年) の発行計画
9. 役員選挙	評議員・監事選挙及び筆頭副会長候補者選挙時の選挙管理委員委嘱
10. 対 外	他機関各賞の受賞候補者推薦 日本学士院会員候補者推薦
11. 事 務 局	退職職員1名, 採用職員1名

1・9 臨時委員会・WG

- フェロー選考委員会

委員長 笠木伸英 他12名 開催2回

フェロー候補者の公募, 選定, 審査を行い, 73名の候補者を理事会を経て評議員会に推薦を行った。また, フェロー候補者推薦の依頼にあたり, 推薦書フォーマットの見直しをした。
- 機械記念日制定委員会

委員長 笠木伸英 他8名 開催3回

理事会傘下の臨時委員会として,

 - “機械”の意義や役割, 関連の技術者・研究者や企業・機関の活躍の様子を広く社会に発信して理解を得ると共に, 人間と機械の相応しい関係を模索するため, 記念日および記念週間を制定し各種の事業を企画開催することにし, 2005年11月19日に委員会が発足した。
 - 日本機械工業連合会の賛同を得て, 2006年度に調査・試行活動を行うことにした。
 - 七夕にちなんだ7月7日の中暦 (一月遅れ) として8月7日を記念日, 8月1日~7日を記念週間として, 2006年度に制定し, 2007年度から, 広く産官学と連携して記念行事を行うことを骨子とする原案を策定した。
- 創立110周年記念事業委員会

委員長 長島昭 他14名 開催2回

 - 2005年4月設置
 - 2007年110周年記念事業の実施を目的に設置し, 下記の小委員会を設け検討をした。
 - ①式典・表彰, ②普及事業, ③集会等, ④出版, ⑤機械遺産
 - 2005年7月27日第1回を開催, 委員会を構成して, 検討内容について意見交換を行い, 審議スケジュールを決めた。各小委員会委員長に委員構成, 並びに活動内容の検討を依頼した。
 - 2005年12月6日第2回を開催。各小委員会から検討結果の報告の後, 実施計画および予算の審議を行ない理事会へ上申した。

第83期理事会・評議員会議案一覧

平成17年度(2005年度)

開 閉 日	理 事 会 (田口 裕也 会長)			評 議 員 会			
	議案	結果	話 題	報告・その他	議案	結果	
2005年4月9日	1. 第83期(2005年度) 理事会運営方針の件	承認	1. 第83期予算について	1. 第83期(2005年度) 理事会等の日程について			
	2. 部長及び担当理事の件	承認	2. 第83期事業計画並びに前期より申し送り事項に關しての意見交換	その他			
	3. 入退会及び資格変更の件	承認	3. 大学評価・学位授与機構より「機関別認証評価に係る専門委員候補者の推薦依頼」について本会から候補者推薦の件	1. 会誌5月号用理事監事紹介記事について			
	4. 創立110周年記念事業WG検討結果並びに記念事業委員会設置の件	承認		2. 国立科学博物館で「今期受賞の日本機械学会賞(技術)の展示」			
	5. 第83期(2005年度) 第1回評議員会開催・議案	承認		3. 大学院教育懇談会の位置づけについて			
				4. 4月8日開催COE大集合15件、シンポジウムの全体的総括			
					5月11日	1. 日本機械学会創立110周年記念事業委員会設置の件	承認
7月5日	1. 入退会及び資格変更の件	承認	1. 本部組織の見直し	1. 第84期(2006年) 評議員選考関係事項(選挙実施日程、選挙実施方針、候補者選考内規等)			
	2. 第84期(2006年度) 監事候補者選出の件	承認	2. 引継ぎ事項、懸案事項の取扱について	2. 部門英文誌発行、機械工学便覧発行・販売状況			
	3. 選挙管理委員選出の件	承認	3. 部門会計制度の取扱いについて	3. 募金届出者の報告について			
	4. 日本機械学会優秀製品賞設置の件	継続審議	4. 会員認証システムによる会員サービスの向上策について	4. JABEE現状について			
	5. 拠点代表委員の終了の件	承認		5. 世界物理年関連行事			
				6. 機械系製造中核人材の強化プログラム事業実施計画書			
				7. 今期設置委員会委員構成			
				その他			
				1. 2006年度年次大会(熊本)理事会企画行事について			
				2. 機械の日制定について			
				3. 今期開催年次大会での特別企画無料公開について			
10月4日	1. 入退会及び資格変更の件	承認	1. 2006年版「会員名簿」発行の可能性検討について	1. 第83期(2005年度) 中間収支報告(3~8月)			
	2. 第84期(2006年) 評議員候補者の件	承認	2. 会員認証システムによる会員サービス向上について	2. 会員増強表彰枝の訪問調査報告から			
	3. 2006年1月から永年会員該当者の件	承認	その他	3. 2006年4月開催の通常総会・付随行事			
	4. 法工学部門試行設置終了後の取扱の件	一部修正		4. 創立110周年記念事業各委員会の構成			
	5. 日本機械学会の組織改革の件(細則一部変更)	一部修正		5. 機械工学便覧発行・販売状況			
	6. 名誉員候補者及び名誉員選考会議(開催・構成)の件	承認		6. JSME Int. Journal電子アーカイブ対象誌選定報告			
	7. 部門の会計処理方針改訂案の件	承認		7. ICOMES会合報告			
	8. 2006年度予算編成方針・日程の件	一部修正		8. 第83期年次大会報告			
	9. 日本機械学会優秀製品賞設置の件	一部修正		9. 面白メカニカルワールドの報告			
	10. 第2回評議員会開催及び議案の件	承認		10. 受賞事業・平成17年度産学連携製造中核人材事業実現可能性調査			
	11. 本会経理事務規定、同細則の一部変更の件	承認		11. 日本学術会議第20期会員について			
	12. 部門英文Journalの新設(編集委員会暫定規定)	承認		12. 事務局職員関係(人事院勧告、定昇)			
12月13日	1. 入退会及び資格変更の件	承認	1. 本会和文論文集の編纂方針の改革について	1. 本会の財務状況	1. 名誉員推薦の件	承認	
	2. 本会組織変更に伴う関連規定新設並びに変更の件	承認	2. 機械の状態監視診断技術士認定制度の実施技術資料等の韓国振動騒音学会への供与について	2. 2005年度年次大会決算報告	2. 第83期通常総会議案の件	承認	
	3. 分野横断的・新領域対応型研究活動組織規定新設の件	承認	3. 本部組織見直しアンケート結果	3. 税務調査、文科省実施検査結果報告	3. 本会一部組織変更に伴う細則変更の件	承認	
	4. 国際チャプター設置関連規定の件	承認		4. タイ国工学会との協力協定締結			
	5. 創立110周年記念事業委員会実施計画・予算の件	承認		5. 2006年版会員名簿発行について			
	6. IT業務統合化システム構築に関する提案	承認		6. 会員増強枝への会長による訪問調査報告			
	7. 第84期(2006年度) 新規事業予算案	承認		7. 第83期理事会引継書審議日程			
	8. 最高裁から依頼の知的財産権司法支援「専門委員」推薦の件	承認		8. 事務局関連事項(年末手当等)			
			9. 事務局職員年末手当				
2006年2月7日	1. 入退会及び資格変更の件	承認	1. 第83期理事会引継書案について	1. 第84期(2006年度) 評議員・監事選挙結果			
	2. 第84期(2006年度) 事業計画案の件	承認	2. 機械の日制定の提案	2. JSME International Journal の電子版移行報告			
	3. 第84期(2006年度) 事業予算案の件	承認		3. 便覧出版と販売状況			
	4. 日本機械学会フェロー候補の件	承認		4. 計測力学技術者認定試験の結果報告			
	5. 日本機械学会賞受賞候補の件	承認		5. 機械状態監視診断技術者(振動)資格認定試験の結果報告			
	6. 学生員増強功労者表彰の件	承認		6. 日本学士院会員候補の推薦			
	7. 日本機械学会船井賞受賞者表彰の件	承認		7. 第83期通常総会、付随行事開催次第(2006年4月7日)			
	8. 法工学専門会議設置提案の取扱の件	承認		その他			
	9. 第3回評議員会の開催・議案の件	承認		1. 万能の天才 レオナルド・ダ・ヴィンチ展について			
	10. 組織変更に伴う関連規定変更の件	一部修正		2. IT業務統合化システム報告			
	11. 組織改革に伴う人事の件	承認					
3月22日	1. 入退会・除名及び資格変更の件	承認		1. 第83期通常総会(2006年4月7日)の進行	1. 第83期(2005年度) 事業報告の件	承認	
	2. 第83期(2005年度) 事業報告の件	承認		2. 2006年度機械工学振興事業資金の助成の件	2. 第83期(2005年度) 会計報告の件	承認	
	3. 第83期(2005年度) 会計報告の件	承認		3. 会誌広告の課題点と今後の対応について	3. 第84期(2006年度) 事業計画案の件	承認	
	4. 第84期(2006年度) 理事・監事候補者の件	承認		4. 2005年度受託事業報告	4. 第84期(2006年度) 事業予算案の件	承認	
	5. 第83期(2005年度) 理事会引継書の件	承認		5. 新組織長人事の報告	5. 第84期(2006年度) 理事・監事候補者選出の件	承認	
	6. 日本機械学会機械遺産認定基準の件	承認		6. 技術倫理協議会活動報告	6. 日本機械学会フェロー選出の件	承認	
	7. 論文編修部会規定一部変更の件	承認		7. 職員給与(定昇)並びに事務局組織の一部変更	7. 2005年度日本機械学会賞受賞者の件	承認	
	8. 日本機械学会船井賞規定一部変更の件	承認					
	9. アジア諸国からの留学生会員に対する帰国後の会費 免除規定一部変更の件	承認					
	10. 職員就業規則一部変更並びに嘱託顧問総経理任の件	承認					

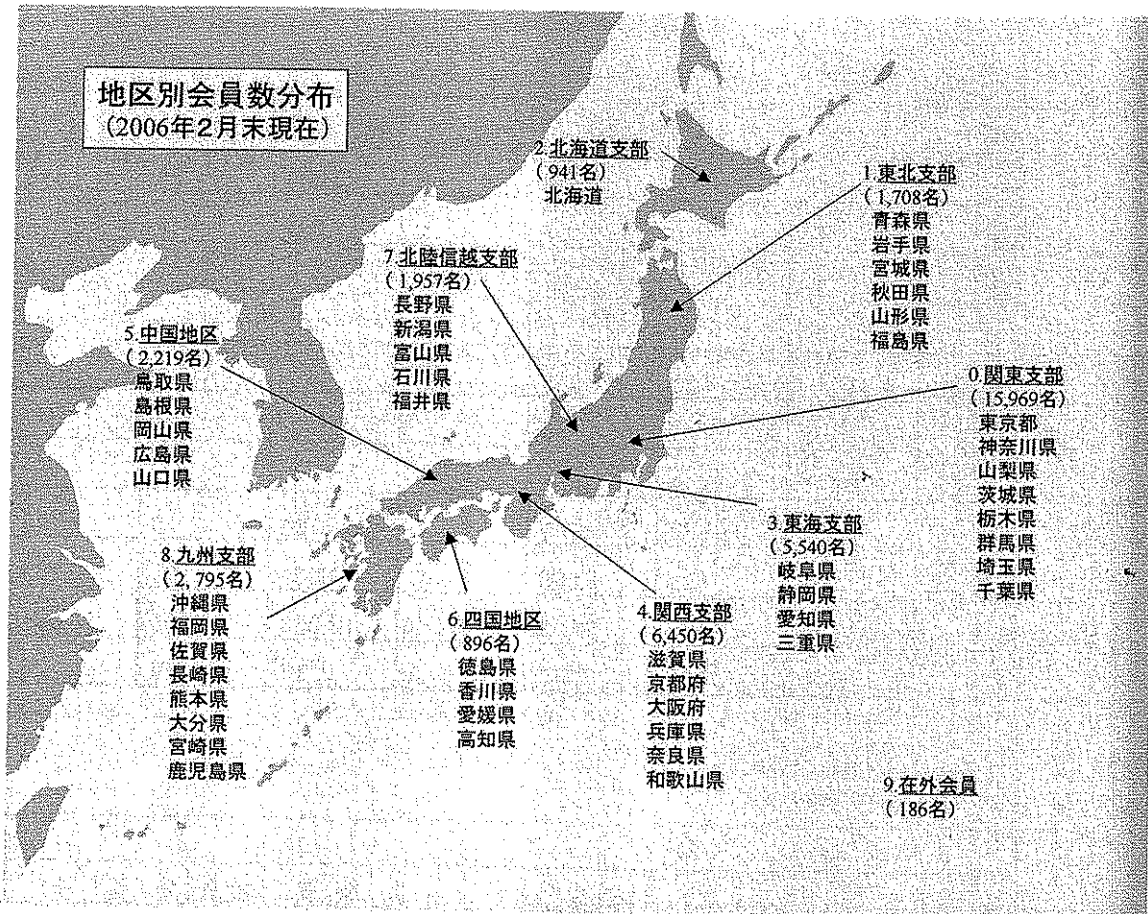
1・10 会 員 数

第83期における入退会・資格変更等

摘 要	正 員	准 員	学生員	会友	個人会員	特別員	総合計
入 会	815	14	2,555	5	3,389	24	3,413
退 会	-1,343	-234	-1,017	0	-2,594	-18	-2,612
復 活	87	1	21	0	109	3	112
死 亡	-93	0	0	0	-93		-93
資格	学 → 准		833	-833			
	学 → 正	55		-55			
変更	准 → 正	644	-644				
除 名	-517	-37	-241	0	-795	0	-795
前期末会員数	31,860	889	5,085	3	37,837	798	38,635
今期末会員数	31,510	822	5,513	8	37,853	808	38,661
増 減	-350	-67	428	5	16	10	26

第83期における月別入退会者数

	入 会						退 会				
	正 員	准 員	学生員	会友	特別員	合計	正 員	准 員	学生員	特別員	合計
2005年3月	72	1	148	1	1	223	51	8	108	4	171
4月	84	1	87	0	1	173	7	10	32	0	49
5月	82	0	160	0	5	247	14	4	19	1	38
6月	105	1	155	0	3	264	48	10	22	2	82
7月	82	4	209	0	4	299	25	3	9	1	38
8月	58	1	110	4	1	174	53	6	22	0	81
9月	57	1	70	0	1	129	27	1	17	0	45
10月	45	1	103	0	1	150	16	5	17	0	38
11月	55	0	187	0	1	243	38	13	34	0	85
12月	50	0	438	0	1	489	992	150	685	10	1,837
2006年1月	65	0	474	0	0	539	65	21	41	0	127
2月	60	4	414	0	5	483	7	3	11	0	21
合計	815	14	2,555	5	24	3,413	1,343	234	1,017	18	2,612
月平均入退会	68	1	213	0	2	284	112	20	85	2	218



地区別・資格別会員数

	0区(関東)	1区(東北)	2区(北海道)	3区(東海)	4区(関西)	5区(中国)
正員	14,019	1,266	554	4,754	5,145	1,616
准員	236	56	44	134	118	74
学生員	1,289	362	329	557	1,064	494
会友	7	0	0	1	0	0
個人計	15,551	1,684	927	5,446	6,327	2,184
特別員	418	24	14	94	123	35
総合計	15,969	1,708	941	5,540	6,450	2,219

	6区(四国)	7区(北信)	8区(九州)	在外会員	総合計
正員	647	1,325	2,004	180	31,510
准員	30	52	74	4	822
学生員	208	537	671	2	5,513
会友	0	0	0	0	8
個人計	885	1,914	2,749	186	37,853
特別員	11	43	46	0	808
総合計	896	1,957	2,795	186	38,661

部門登録者数

部門名	第1位	第2位	第3位	第1～3位合計	第4位	第5位	第1～5位合計
計算力学	1,823	1,757	1,681	5,261	140	103	5,504
バイオエンジニアリング	787	556	584	1,927	91	81	2,099
材料力学	2,703	1,725	1,089	5,517	83	52	5,652
機械材料・材料加工	1,615	1,871	1,295	4,781	101	74	4,956
流体工学	3,306	2,010	1,369	6,685	114	67	6,866
熱工学	2,459	2,186	1,396	6,041	94	64	6,199
エンジンシステム	1,568	818	590	2,976	72	54	3,102
動力エネルギーシステム	1,340	1,914	1,602	4,856	104	71	5,031
環境工学	851	1,388	1,688	3,927	140	120	4,187
機械力学・計測制御	2,374	2,161	1,790	6,325	115	115	6,555
機素潤滑設計	1,245	1,000	817	3,062	55	45	3,162
設計工学・システム	925	1,460	1,626	4,011	116	124	4,251
生産加工・工作機械	1,447	1,186	907	3,540	86	54	3,680
生産システム	596	1,046	808	2,450	61	54	2,565
ロボティクス・メカトロニクス	1,483	1,775	1,716	4,974	105	71	5,150
情報・知能・精密機器	829	1,245	1,720	3,794	130	92	4,016
産業・化学機械と安全	560	537	790	1,887	40	69	1,996
交通・物流	1,236	922	1,209	3,367	63	56	3,486
宇宙工学	354	498	936	1,788	55	86	1,929
技術と社会	363	546	1,384	2,293	75	151	2,519
合計	27,864	26,601	24,997	79,462	1,840	1,603	82,905

(法工学部門登録第1～5位合計 545名)

会員数(2006年2月末日)	
正員	31,510 名
准員	822 名
合計	32,332 名

第1位登録者数	27,864 名
第1位登録率	86.2 %

1・11 出版事業

1・11・1 定期刊行物

<p>(a) 日本機械学会誌 今期に発行した会誌は第1036号～第1047号の12冊で、そのうちつぎのテーマで編集した。</p> <p>2005年3月号 特集 機械系学生へのメッセージ 〔メカライフ編集委員会〕</p> <p>4月号 特集 摩擦制御利用の技術</p> <p>5月号 小特集 高齢社会のための機械テクノロジー —社会への寄与と産業としての期待—</p> <p>6月号 特集 世界に挑む 〔メカライフ編集委員会〕</p> <p>7月号 小特集 ナノ・マイクロテクノロジーの視点から見た材料加工技術の最前線</p> <p>8月号 特集 機械工学年鑑</p> <p>9月号 特集 すごく小さいもの 〔メカライフ編集委員会〕</p> <p>10月号 特集 理学と工学、科学と技術をつなぐマルチスケールモデリング</p> <p>11月号 小特集 紙ハンドリングのからくり</p> <p>12月号 特集 エネルギー 〔メカライフ編集委員会〕</p> <p>2006年1月号 特集 明日の日本のものづくり技術を提案する</p> <p>2月号 小特集 医療工学—工学による医療の再編—</p> <p>本文1008ページ、会告376ページ、広告516ページ、差込み広告104ページで、総ページ2000ページである。詳細は表1参照。</p>	<p>(b) 日本機械学会論文集 今期に発行した論文集A編、B編、C編は第703号～第714号の合計36冊である。 詳細は表2参照。</p> <p>(c) JSME International Journal 今期に発行したJSME International Journalは、Series A, B, Cのおおの4冊の合計12冊で、そのうちつぎのテーマの特集号を発行した。</p> <p>i) 2005年3月号 Series C 「Advanced Production Scheduling」</p> <p>ii) 2005年5月号 Series B 「Advanced Fluid Information」</p> <p>iii) 2005年6月号 Series C 「The Latest Frontiers of CAD/CAE/CG」</p> <p>iv) 2005年8月号 Series B 「Advanced Fusion of Functional Fluids Engineering」</p> <p>v) 2005年9月号 Series C 「The Frontier of Research and Development on Information Devices in the Pacific Rim」</p> <p>vi) 2005年10月号 Series A 「Recent Advances in Materials and Processing [I]」</p> <p>vii) 2005年11月号 Series B 「Advanced Combustion Technology in Internal Combustion Engines」</p> <p>viii) 2005年12月号 Series C 「Bioengineering」</p> <p>ix) 2006年1月号 Series A 「Recent Advances in Materials and Processing [II]」</p> <p>x) 2006年2月号 Series B 「Urban Air and Environment Control Technologies」</p> <p>詳細は表3参照。</p>
---	--

表1 日本機械学会誌

(数値はページ数)

項目	記事 〔()内は編数〕	ピックス	委員会 報告、 支部・ 部門だ より	その他	会報	小計	会告	広告	合計	差込 広告	総ページ数
No.1036	3月号 70 (30)	0	1	32	5	108	28	40	176	14	190
No.1037	4月号 55 (16)	5	4	15	3	82	30	40	152	6	158
No.1038	5月号 41 (16)	4	2	56	5	108	24	40	172	8	180
No.1039	6月号 69 (32)	0	3	13	19	104	20	48	172	6	178
No.1040	7月号 31 (10)	6	2	18	7	64	32	40	136	8	144
No.1041	8月号 83 (24)	0	3	9	1	96	48	48	192	6	198
No.1042	9月号 53 (28)	0	2	17	2	74	42	40	156	10	166
No.1043	10月号 55 (18)	5	1	14	1	76	28	40	144	16	160
No.1044	11月号 33 (12)	7	3	8	3	54	34	48	136	4	140
No.1045	12月号 76 (37)	0	2	22	6	106	18	48	172	6	178
No.1046	1月号 59 (22)	5	4	14	2	84	20	44	148	6	154
No.1047	2月号 33 (16)	4	2	10	3	52	52	40	144	10	154
計	658 (261)	36	29	228	57	1008	376	516	1900	100	2000
前年度合計	734 (241)	33	26	215	54	1062	378	464	1904	104	2008

表2 日本機械学会論文集

巻一 号 年月	編	巻頭言 研究随想 研究展望		論文		技術報告		誌上討論		目次 広告 等	総ページ		総ページ		
		頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	編数	頁数	頁数	編数	頁数	編数	
71 - 703 2005年 3月	A	3	1	204	28	0	0	0	0	9	216	29	832	110	
	B	0	0	255	34	0	0	0	0	9	264	34			
	C	3	1	341	46	0	0	0	0	8	352	47			
71 - 704 2005年 4月	A	6	1	114	16	0	0	0	0	8	128	17	648	85	
	B	0	0	207	28	0	0	0	0	9	216	28			
	C	10	2	283	38	0	0	0	0	11	304	40			
71 - 705 2005年 5月	A	6	1	163	23	0	0	0	0	7	176	24	848	111	
	B	0	0	280	37	0	0	0	0	8	288	37			
	C	8	2	366	48	0	0	0	0	10	384	50			
71 - 706 2005年 6月	A	3	1	106	14	0	0	0	0	7	116	15	668	88	
	B	3	1	227	30	0	0	0	0	6	236	31			
	C	6	1	303	41	0	0	0	0	7	316	42			
71 - 707 2005年 7月	A	3	1	98	14	0	0	0	0	7	108	15	676	90	
	B	5	1	223	30	0	0	0	0	8	236	31			
	C	3	1	320	43	0	0	0	0	9	332	44			
71 - 708 2005年 8月	A	0	0	93	13	0	0	0	0	7	100	13	592	78	
	B	0	0	241	33	4	1	0	0	7	252	34			
	C	0	0	234	31	0	0	0	0	6	240	31			
71 - 709 2005年 9月	A	2	1	88	13	0	0	0	0	6	96	14	456	63	
	B	0	0	162	22	8	2	0	0	6	176	24			
	C	3	1	171	23	0	0	1	1	9	184	25			
71 - 710 2005年 10月	A	0	0	135	19	0	0	0	0	5	140	19	636	86	
	B	0	0	224	31	0	0	0	0	8	232	31			
	C	3	1	253	35	0	0	0	0	8	264	36			
71 - 711 2005年 11月	A	0	0	181	25	0	0	0	0	7	188	25	640	85	
	B	9	1	205	28	0	0	0	0	6	220	29			
	C	0	0	226	31	0	0	0	0	6	232	31			
71 - 712 2005年 12月	A	0	0	130	18	0	0	0	0	6	136	18	712	96	
	B	0	0	253	35	0	0	0	0	7	260	35			
	C	0	0	309	43	0	0	0	0	7	316	43			
72 - 713 2006年 1月	A	0	0	153	21	0	0	0	0	7	160	21	684	91	
	B	0	0	215	30	0	0	0	0	5	220	30			
	C	0	0	297	40	0	0	0	0	7	304	40			
72 - 714 2006年 2月	A	0	0	118	16	0	0	0	0	6	124	16	860	115	
	B	0	0	339	47	4	1	0	0	5	348	48			
	C	0	0	381	51	0	0	0	0	7	388	51			
総計	A	23	6	1583	220	0	0	0	0	82	1688	226	8252	1098	
	B	17	3	2831	385	16	4	0	0	84	2948	392			
	C	36	9	3484	470	0	0	1	1	95	3616	480			
	A+B+C	76	18	7898	1075	16	4	1	1	261	8252	1098			
前年度			81	19	8903	1213	7	1	6	2	419	9416	1235		

表3 JSME International Journal

巻号 (Series)	年月	Reviews・巻頭言		Papers		Discussion		目次 索引	論文集目次	その他	総ページ数
		件数	件数	件数	件数						
48-1 (C)	2005-3	1	1	109	15	0	0	20	6	4	140
2 (A)	4	0	0	61	8	0	0	0	3	4	68
2 (B)	5	10	2	165	27	0	0	0	5	4	184
2 (C)	6	1	1	189	25	0	0	0	5	1	196
3 (A)	7	0	0	38	6	0	0	0	3	3	44
3 (B)	8	16	2	243	32	0	0	0	4	3	266
3 (C)	9	25	5	45	6	0	0	0	5	3	78
4 (A)	10	1	1	303	50	0	0	0	4	4	312
4 (B)	11	1	1	250	31	0	0	0	6	3	260
4 (C)	12	1	1	406	50	0	0	0	6	3	416
49-1 (A)	2006-1	0	0	156	25	0	0	0	3	3	162
1 (B)	2	1	1	174	21	0	0	0	5	4	184
計		57	15	2139	296	0	0	20	55	39	2310
前年度合計		57	14	2474	327	0	0	61	52	34	2678

1・11・2 その他の出版物
 定期刊行物のほか、下記図書を発行した。

(a) 新刊

書 籍 名	判型・本文ページ	発 行 年 月
機械工学便覧 基礎編α9「単位・物理定数・数学」	A4 85ページ	2005年 3月
JSME テキストシリーズ 伝熱工学	A4 233ページ	2005年 3月
JSME テキストシリーズ 流体力学	A4 198ページ	2005年 3月
機械工学便覧 基礎編α8「電気・電子の基礎、化学の基礎」	A4 158ページ	2005年 3月
機械工学便覧 基礎編α3「材料力学」	A4 202ページ	2005年 4月
発電用原子力設備規格 維持規格 (2004)	A4 バインダー形式 約1 200ページ	2005年 4月
機械工学便覧 応用システム編γ5「エネルギー供給システム」	A4 267ページ	2005年 5月
発電用設備規格 配管減肉管理に関する規格	A4 13ページ	2005年 7月
機械工学便覧 デザイン編β7「生産システム工学」	A4 185ページ	2005年 7月
JSME テキストシリーズ 振動学	A4 164ページ	2005年 9月
機械工学便覧 デザイン編β4「機械要素・トライボロジー」	A4 232ページ	2005年 10月
機械工学便覧 基礎編α1「機械工学総論」	A4 128ページ	2005年 10月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 第Ⅰ編 軽水炉規格 S NC-1 2005	A4 バインダー形式2冊 約2 000ページ	2005年 10月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 第Ⅱ編 高速炉規格 S NC-2 2005	A4 バインダー形式2冊 約2 000ページ	2005年 10月
機械工学便覧 応用システム編γ3「熱機器」	A4 142ページ	2005年 11月
機械工学便覧 応用システム編γ8「情報・メディア機器」	A4 159ページ	2005年 12月
機械工学便覧 基礎編α4「流体工学」	A4 229ページ	2006年 1月

(b) 重版

書 籍 名	刷 数	発 行 年 月
JSMEテキストシリーズ 熱力学	4刷	2005年 3月
機械実用便覧 第6版 生体機械工学	10刷	2005年 4月
CAIシリーズ 機械システムのダイナミクス入門	5刷	2005年 4月
JSMEテキストシリーズ 伝熱工学	5刷	2005年 5月
金属材料 疲労強度の設計資料 II 表面状態、表面処理	2刷	2005年 8月
JSMEテキストシリーズ 制御工学	6刷	2005年 9月
JSMEテキストシリーズ 流体力学	3刷	2005年 9月
伝熱工学資料 第4版	2刷	2005年 9月
基準S012 配管内円柱状構造物の流体力学評価指針	10刷	2005年 9月
JSMEテキストシリーズ 熱力学	3刷	2005年 12月
発電用原子力設備規格 溶接規格 改訂第2版	5刷	2006年 1月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年版) 第Ⅱ編	1刷	2006年 1月
発電用原子力設備規格 溶接規格 改訂第2版	2刷	2006年 1月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年版) 第Ⅰ編	2刷	2006年 2月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年版) 第Ⅱ編	2刷	2006年 2月
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年版) 第Ⅱ編	3刷	2006年 2月

企画部門	開催年/月/日	行事No.	講演会名	講演 題数	依頼 講演	参加数	開催地
機械力学・計測制御部門	2005 11 28 , 29	05-43	第4回評価・診断に関するシンポジウム	30	1	71	津
機械力学・計測制御部門	2005 12 8 , 9	05-44	福祉工学シンポジウム2005	72	13	148	津
設計工学・システム部門	2005 8 3 ~ 5	05-27	第15回設計工学・システム部門講演会	183	6	250	札幌
生産加工・工作機械部門(生産システム部門)	2005 10 19 ~ 22	05-204	第3回JSME先端生産技術に関する国際会議(LEM21)	219	4	290	名古屋
生産システム部門	2005 6 25	05-25	生産システム部門講演会2005	41	2	73	東京
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 6 9 ~ 11	05-4	ロボティクス・メカトロニクス講演会2005(RoboMec05)	876	2	1437	神戸
情報・知能・精密機器部門	2005 3 21 , 22	05-6	IIP2005情報・知能・精密機器部門講演会	86	11	167	東京
交通・物流部門	2005 12 7 ~ 9	05-52	第14回交通・物流部門大会(TRANSLOG2005)	116	8	272	川崎
交通・物流部門	2006 1 19	05-68	技術講演会「昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩」	10	1	102	東京
宇宙工学部門	2005 12 16	05-56	第14回スペース・エンジニアリング・コンファレンス(SEC'05)	12	0	20	東京
技術と社会部門	2005 12 10	05-86	公開研究会・講演会「技術と社会の関連を巡って:過去から未来を訪ねる」	32	0	99	東京

1・12・4 講習会

企画部門	開催年/月/日	行事No.	講習会名	題数	参加数	開催地
計算力学部門	2005 9 29 , 30	05-59	構造解析のための有限要素法入門-ひとり一台のパソコンによる演習付き-	5	5	横浜
計算力学部門	2005 11 11	05-70	計算力学技術者2級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	90	横浜
計算力学部門	2005 11 18	05-71	計算力学技術者2級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	71	名古屋
計算力学部門	2005 11 25	05-72	計算力学技術者2級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	33	大阪
計算力学部門	2005 11 25	05-73	計算力学技術者2級(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験対策講習会	6	24	福岡
機械材料・材料加工部門	2005 9 9 , 10	05-78	「やり直し金属・鉄鋼材料」-機械・製造技術者のための基礎講座-	4	55	東京
機械材料・材料加工部門	2005 10 28	05-100	締結・接合・接合部のプロセス・強度・設計の実際と今後の展開	8	30	岐阜
流体工学部門	2005 7 6 , 7	05-50	流体工学基礎講座	8	52	東京
流体工学部門	2005 7 28 , 29	05-51	マイクロ混相流の新展開-分子シミュレーションからマイクロバブルまで-	6	36	東京
流体工学部門	2005 9 26	05-82	手軽にできる立体視の産業応用から最先端の活用まで	7	50	東京
流体工学部門	2005 12 5	05-102	CFD基礎講座~設計者に求められるCFDの基礎的知識から設計への適用方法~	4	48	東京
熱工学部門	2005 7 5 , 6	05-5	「熱設計の基礎と応用」演習・懇親会つき(有料)	8	55	東京
エンジンシステム部門	2005 3 11	05-22	基礎教育講習会-エンジンにおける実験・計測の基礎と応用(その11)	5	34	大阪
エンジンシステム部門	2005 4 25	05-28	ディーゼルエミッション低減技術の最新動向	5	69	東京
エンジンシステム部門	2005 11 16	05-95	基礎教育講習会-エンジンにおける実験・計測の基礎と応用(その12)	5	72	東京
エンジンシステム部門	2006 1 27	05-96	基礎教育講習会-エンジンにおける実験・計測の基礎と応用(その13)	5	64	大阪
動力エネルギーシステム部門	2005 6 17	05-49	配管の高サイクル熱疲労に関する評価指針	8	49	東京
動力エネルギーシステム部門(産業・化学機械と安全部門)	2005 9 7	05-74	点検整備とリスクマネジメントの最前線3-ライフラインのリスクマネジメント-(見学会付)	4	15	東京
環境工学部門	2005 3 10	05-18	特別セミナー「安全と環境技術」	6	58	東京
機械力学・計測制御部門	2005 3 3 , 4	05-14	運動方程式の立て方七変化-3次元拘束力学系の運動方程式の立て方-	8	59	東京
機械力学・計測制御部門	2005 5 25 , 26	05-20	振動モード解析実用入門-実習付き-	6	44	東京
機械力学・計測制御部門	2005 10 24	05-83	すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション	4	76	東京
機械力学・計測制御部門	2005 12 2	05-109	すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション	3	31	福井
機械力学・計測制御部門	2006 1 26 , 27	05-110	運動方程式の立て方七変化-3次元拘束力学系の運動方程式の立て方-	8	60	東京
機素潤滑設計部門	2005 5 20	05-23	次世代アクチュエータ	11	56	横浜
機素潤滑設計部門(ロボティクス・メカトロニクス部門)	2005 6 9	05-45	ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ	11	69	神戸
機素潤滑設計部門	2005 10 27 , 28	05-48	歯車技術基礎講座	7	86	東京
機素潤滑設計部門	2005 11 22	05-98	マイクロ機械システムを支えるメカトロニクス技術-実用領域におけるマイクロ・ナノメカニズム開発事例-	7	53	東京
設計工学・システム部門	2005 8 2	05-67	設計に使える設計手法	6	35	札幌
設計工学・システム部門	2005 9 1	05-62	革新的ものづくりのための技術シーズの育成とシステム統合技術	6	21	東京
生産加工・工作機械部門	2005 3 3 , 4	05-12	「生産加工基礎講座-実習で学ぼう『切削加工, びびり振動の基礎知識』	3	13	名古屋
生産加工・工作機械部門	2005 6 17	05-252	2005自動車部品生産システム展 特別企画「先端技術フォーラム」(II) 世界をリードする日本の最先端加工技術	6	113	東京
生産加工・工作機械部門	2005 11 24	05-97	先端生産加工技術を支える工具の開発と応用の最前線	6	23	東京

企画部門	開催年/月/日	行事No.	講習会名	題数	参加数	開催地
生産加工・工作機械部門	2005 12 15	05-103	ここまで進んだ超精密マイクロ加工技術	5	36	東京
生産システム部門	2005 6 16	05-251	2005自動車部品生産システム展 特別企画「先端技術フォーラム」(I) 実用化時代を迎えた新生産システム	6	102	東京
生産システム部門	2006 1 18	05-107	最先端の現場ではRFIDをこう活用している！-生産システムにおける活用法の実際と動向-	6	30	東京
情報・知能・精密機器部門	2005 3 22, 23	05-8	電子写真技術のシミュレーションに関する講習会	9	61	東京
情報・知能・精密機械部門	2005 11 17	05-89	車はどこまで賢くなるのか？そして今、開発が必要な技術は何か？	4	19	東京
情報・知能・精密機械部門	2006 1 30	05-114	家庭における情報化・知能化	4	21	東京
産業・化学機械と安全部門	2005 6 10	05-47	食品安全のための包装とその関連技術	4	26	東京
交通・物流部門	2005 11 8	05-79	どこどんわかる自動車のモデリングと制御2005	6	149	東京
技術開発支援センター標準事業部会	2005 5 19	05-36	発電用原子力設備規格 維持規格(2004年版)	7	32	広島
技術開発支援センター標準事業部会	2005 6 1	05-37	発電用原子力設備規格 維持規格(2004年版)	7	66	東京
技術開発支援センター標準事業部会	2005 6 17	05-38	発電用原子力設備規格 維持規格(2004年版)	7	54	仙台
技術開発支援センター標準事業部会	2006 1 16	05-120	発電用原子力設備規格 設計・建設規格(2005年版)	13	67	東京
技術開発支援センター標準事業部会	2006 2 10	05-123	発電用原子力設備規格 設計・建設規格(2005年版)	13	44	広島

1・12・5 特別講演会・見学会・他

企画部門	開催年/月/日	行事No.	行事名	題数	参加数	開催地
計算力学部門	2005 8 2	05-60	特別講演会：ミニ企画「Multidisciplinary Lecture Series 14」	4	19	札幌
計算力学部門	2005 9 2	05-85	特別講演会「流体CAEへのご招待」	2	47	春日
計算力学部門	2005 11 19, 20	05-61	第18回計算力学講演会 ビジュアライゼーション・コンテスト	1	60	つくば
計算力学部門	2005 12 8	05-113	第10回CAE活用事例セミナー	11	145	北九州
バイオエンジニアリング部門	2005 4 4	05-40	第25回バイオサロン	1	22	東京
バイオエンジニアリング部門	2006 1 12	05-112	第26回バイオサロン	1	18	新潟
機械材料・材料加工部門	2005 12 2	05-108	技術フォーラム「マグネシウム合金の成形加工技術の最先端」	6	28	東京
流体工学部門	2005 8 27, 28	05-55	第11回流れのふしぎ展	3	4400	東京
流体工学部門	2005 10 29	05-41	第5回流れの夢コンテスト	2	200	金沢
熱工学部門	2005 3 8	05-21	熱工学の新領域に関するクライミング・セミナー(第2回)	4	51	横浜
熱工学部門	2005 11 4	05-42	熱工学の新領域に関するクライミング・セミナー in 岐阜	3	60	岐阜
動力エネルギーシステム部門	2005 7 21	05-58	JSME ジュニア会友向け 筑波宇宙センター親子見学会	2	62	つくば
動力エネルギーシステム部門	2005 7 25, 26	05-63	見学会「南九州における動力・エネルギー・環境施設」～南九州における地熱発電、鉱山、焼酎粕処理～		18	鹿児島
動力エネルギーシステム部門	2005 10 21	05-90	第15回セミナー&サロン 将来のエネルギー供給と分散型エネルギーシステム-クリーンエネルギー社会を目指して-	2	88	東京
機素潤滑設計部門	2006 2 3	05-118	特別講演会 実機摺動面設計に学ぶ境界潤滑・流体潤滑	4	30	東京
生産加工・工作機械部門	2005 8 2	05-46	高校生セミナー「コンピュータを使ったモノづくり体験」	1	15	鹿児島
生産加工・工作機械部門	2005 8 8 10	05-77	実習 ものづくりに挑戦！(未来への体験)		113	名古屋
生産加工・工作機械部門	2005 10 29	05-91	大学生(3年次)・大学院生(修士1年)を対象としたセミナー「モノづくり最前線」	6	51	京都
生産加工・工作機械部門	2005 11 12	05-92	中学生・高校生シンポジウム「あの製品はどんな方法でつくっているのだろう」	3	39	名古屋
生産システム部門	2005 11 7, 8	05-88	特別講演会 中堅技術者セミナー-部下がいる、上司がいる、私がいる-	1	10	京都
生産システム部門	2005 12 2	05-94	森精機製作所 設備技術講演&最新設備/工場見学会		18	伊賀
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 3 18	05-34	東北ロボメカ特別講演会	1	11	仙台
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 3 21, 26, 27	05-7	第8回ロボットグランプリ		1250	名古屋
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 7 22	05-76	けいはんな学研都市研究施設のロボット関連最新研究活動の見学会		19	京都府精華町
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 8 30	05-84	平成17年度第2回統合知能メカトロシステム見学会		24	名古屋
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 10 18	05-101	YRP ユビキタスネットワークング研究所の見学会		18	東京

企画部門	開催年/月/日	行事 No.	行事名	題数	参加数	開催地
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 12 9	05-105	特別講演会 フィールドロボティクスに関する研究開発～惑星ローバーとレスキューロボット～	1	18	岡山
ロボティクス・メカトロニクス部門	2005 12 21	05-111	第17年度第3回統合知能メカトロシステム見学会	2	51	各務原
ロボティクス・メカトロニクス部門	2006 1 19	05-119	特別講演会—ネットワークと制御：情報システムと制御の新しい関係—	4	37	仙台
ロボティクス・メカトロニクス部門	2006 1 24	05-117	北陸信越ロボメカ特別講演会	1	41	金沢
産業・化学機械と安全部門	2005 9 2	05-75	特別講演会「運輸系の安全確保に関する現状」	3	24	東京
産業・化学機械と安全部門	2005 10 24	05-93	講演・見学会 JAPAN ブランドを支える大田区における金属加工の「匠の技」	3	25	東京
産業・化学機械と安全部門	2005 11 5	05-99	市民フォーラム 健康を支える食品と安全—安全・安心な食品と機械とシステム—	4	24	小金井
交通・物流部門	2005 5 14	05-10	基礎セミナー「自動車の運動力学」	6	205	東京
交通・物流部門	2005 6 18	05-11	基礎セミナー「自動車の運動力学」	6	142	京都
交通・物流部門	2005 7 25	05-69	特別講演会「鉄道車両のダイナミクスと制御」	1	77	東京
交通・物流部門	2006 2 3	05-122	見学会「(独)海上技術安全研究所」		12	三鷹
交通・物流部門	2006 2 9	05-115	基礎セミナー 公共交通システム(鉄道・LRT・バス)におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン	8	58	国分寺
宇宙工学部門	2005 8 20	05-64	宇宙工学講座「水ロケットを作って飛ばそう！」	4	22	堺
技術と社会部門	2005 3 30	05-19	イブニングセミナー(第70回)「自動車のための人工透析装置」	1	31	東京
技術と社会部門	2005 4 27	05-31	イブニングセミナー(第71回)「超はつ水壁の表面摩擦—なぜ流体抵抗は減るか—」	1	27	東京
技術と社会部門	2005 5 25	05-35	イブニングセミナー(第72回)「三井物産DPFねつ造事件から考える開発と材料」	1	27	東京
技術と社会部門	2005 6 11	05-54	市民フォーラム「技術と社会の安全について」	1	46	東京
技術と社会部門	2005 6 29	05-57	イブニングセミナー(第73回)「鋳物の面白さ」	1	27	東京
技術と社会部門	2005 7 27	05-65	イブニングセミナー(第74回)「大型トラック・バスの脱輪問題について」	1	33	東京
技術と社会部門	2005 8 31	05-80	イブニングセミナー(第75回)「廃材ゼロ!夢の卓上生産工場」	1	19	東京
技術と社会部門	2005 9 28	05-81	イブニングセミナー(第76回)「技術者倫理と利益相反マネジメント」	1	22	東京
技術と社会部門	2005 10 26	05-87	イブニングセミナー(第77回)「日本はやはり小さい国だった」—日本全国を徒歩で一周して感じた事—	1	26	東京
技術と社会部門	2005 11 30	05-106	イブニングセミナー(第78回)「カーボンナノチューブの合成」	1	29	東京
技術と社会部門	2005 12 21	05-116	イブニングセミナー(第79回)「原爆投下方針の推移と科学者の抵抗」	1	19	東京
技術と社会部門	2006 1 25	05-121	イブニングセミナー(第80回)「男の茶」	1	27	東京
技術開発支援センター	2005 11 24	05-104	標準事業特別講演会—併催：第2回標準事業表彰式—	2	19	東京
工学教育センター	2005 12 17		2005年度計算力学技術者(固体力学分野の有限要素法解析技術者)認定試験及び付帯講習(技能編) 1級認定試験 2級認定試験		141 468	横浜ほか
工学教育センター	2005 12 17, 18		2005年度計算力学技術者(熱流体力学分野の解析技術者)認定試験及び付帯講習(知識編) 2級認定試験		109	東京
理事会, 関東支部	2005 3 18	05-24	設計の視点から見た構造健全性の保証—公共社会インフラの信頼性をいかに確保するか—	4	45	八王子
理事会	2005 3 18～20	05-26	愛知万博関連展示会 メカワールド—からくりからロボット—		1500	名古屋
理事会	2005 4 12～5/8	05-33	展示会「日本の先端科学技術の紹介」—日本機械学会賞 技術賞—		16000	東京
理事会, 関東支部	2005 8 2～14		世界物理年 2005 夏休みサイエンススクエア「おもしろメカニカルワールド」		5700	東京

1・12・6 2005年度「メカライフの世界」展

学生会名	学校名	開催日	テーマ名
北海道学生会	北見工業大学	2005. 8. 6	「紙飛行機から学ぶ飛行のしくみ」 「氷のステンドグラス、熱を絵で見よう」
	函館工業高等専門学校	2005. 10. 15, 16	「自動車のメカニズム」 ～車はどうやって走るのか?～
東北学生会	一関工業高等専門学校	2005. 4. 14～10. 6	競技用歩行ロボットの開発
		2005. 7. 28, 29, 10. 29, 30, 11. 13	中学生向け機械工学科の説明会
	鶴岡工業高等専門学校	2005. 7. 31	親子で楽しむ科学の祭典
	日本大学	2005. 9. 18	ロボットの製作体験、他
	秋田県立大学	2005. 10. 22	紙飛行機で学ぶ流体力学
	岩手大学	2005. 10. 22, 23	2005「メカライフの世界」展
	八戸工業高等専門学校	2005. 10. 22, 23	流れとエネルギー
	宮城工業高等専門学校	2005. 10. 22, 23	燃料電池自動車
	秋田工業高等専門学校	2005. 10. 29, 30	ZINTORI～ロボットの展示と操作～
	いわき明星大学	2005. 10. 29, 30	粘弾性体の奇跡
		2005. 10. 30, 31	CAD/CAMによる形状設計と自動加工の体験/二足歩行ロボットの運動シミュレーション/ソーラーカーラリー大会出場車両の展示/燃料電池モジュールを搭載したカート車両の展示
北陸信越学生会	石川工業高等専門学校	2005. 7. 30	ロボットを動かそう!
	富山大学	2005. 8. 5	金属疲労の機構と最新研究
	長岡技術科学大学	2005. 9. 17	空飛ぶ機械工学
	福井工業大学	2005. 10. 8～10	自然から学ぶプロセス制御技術
	信州大学	2005. 10. 15, 16	機能機械プロジェクト
	富山工業高等専門学校	2005. 10. 22, 23	浮上する乗り物を作って遊ぼう!
	長岡工業高等専門学校	2005. 11. 19	地震・復旧・元気な高専
関東学生会	神奈川工科大学	2005. 7. 12～12. 16までの16回	「流れのふしぎ」出張授業および工作教室
	早稲田大学	2005. 8. 2	心臓なんでも教室へようこそ
	横浜国立大学	2005. 8. 5, 6	見てみよう、さわってみよう —いろいろなメカニズム—
	東京工業高等専門学校	2005. 8. 5, 8. 26, 11. 5, 6	多足歩行ロボットによる障害物競争 メカトロ体験教室
	東京工業大学	2005. 10. 22, 23	メカの世界2005
	拓殖大学	2005. 10. 22, 23, 11. 13	ミニ電気自動車のすすめ
	木更津工業高等専門学校	2005. 10. 29, 30	作って楽しもう!メカライフ2005!
	千葉大学	2005. 11. 3	地雷探知ロボットを見てみよう。
	湘南工科大学	2005. 11. 4, 5	メカの世界
	東京電機大学	2005. 11. 5	第4回スターリングエンジンカー大会 in Hatoyama
	日本大学(生産工学部)	2005. 11. 5, 6	よくできているアルミ缶の構造 —金属が破れることとつぶれることの違いをみよう— マイクロマシンと小さなロボット体験デー
東海学生会	日本大学(理工学部)	2005. 11. 5, 6	
	大同工業大学	2005. 5. 28, 29	おもしろロボット展
	三重大学	2005. 8. 11	三重大学工学部機械工学科における最新の研究
	岐阜工業高等専門学校	2005. 9. 4	こんなところに機械工学
	豊田工業高等専門学校	2005. 10. 8, 9	手作り自動車の展示・走行実演
	鈴鹿工業高等専門学校	2005. 10. 22, 23	独創的なモノをゼロから作る
	中部大学	2005. 11. 3, 6	触って遊べるロボット展
	沼津工業高等専門学校	2005. 11. 5, 6	ホバークラフトを作ろう、運転しよう!
関西学生会	《関西学生会》大阪工業大学、大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学、近畿大学、神戸大学、龍谷大学、大阪産業大学	2005. 11. 26, 27	「メカライフの世界」展
中国四国学生会	呉工業高等専門学校	2005. 8. 24	コンデンサーブレーンの製作と飛行実験
	高松工業高等専門学校	2005. 9. 10	エコカーの燃費を測ってみよう
	高松工業高等専門学校	2005. 9. 11, 12	ソーラーカーの構造と太陽電池の特性を調べよう
	水産大学校	2005. 10. 29, 30	体験しよう!機械&海の世界
	津山工業高等専門学校	2005. 11. 5, 6	GPSの原理と応用
	高知工業高等専門学校	2005. 11. 11, 12	機械工学ふれ合い広場'05
	愛媛大学	2005. 11. 12, 13	プチロボットの機構と制御
	米子工業高等専門学校	2005. 11. 19	地球環境にやさしいエンジン ものづくり教育課題としても注目される模型スターリングエンジンの製作
	呉工業高等専門学校	2005. 11. 19, 20	おもしろ機械工学体験
	松江工業高等専門学校	2005. 11. 20	ウルトラライトブレーンを作ってみよう～飛行機ってなぜ飛ぶの?～
九州学生会	八代工業高等専門学校	2005. 7. 31	探検、メカトロワールド!
	有明工業高等専門学校	2005. 8. 26, 27	見て、触れて、感じて…機械工学
	九州産業大学	2005. 10. 23	アイボプログラミングコンテスト
	鹿児島工業高等専門学校	2005. 10. 29	機械工学科主催 2005年ロボットコンテスト
	熊本大学	2005. 10. 30	工学部探検2005「機械ワールドを探検しよう!」
	福岡大学	2005. 11. 3, 4	「メカライフの世界」展 2005 in Fukuoka Univ.
	九州共立大学	2005. 11. 4～6	メカエ展
	佐世保工業高等専門学校	2005. 11. 5, 6	バイクをつくらう
	大分大学	2005. 11. 6	ロボットと遊ぼう
	鹿児島大学	2005. 11. 12, 13	2005メカワールド in Kagoshima University
	久留米工業高等専門学校	2005. 11. 13	メカトピア2005
	長崎大学	2005. 11. 19	メカランド2005
	九州工業大学	2005. 11. 19, 20	工大祭「メカニクスボ」～Mechani-Expo 2005～
	佐賀大学	2005. 11. 19, 20	メカライフの世界
	宮崎大学	2005. 11. 20	ロボットとコンピュータ
	九州大学	2005. 11. 26, 27	サイエンスワールド2005
合計	71校		

1・12・7 他団体との共催行事

開催年/月/日	行事名	題数	参加数	開催地	主催、幹事団体
2005 3 14, 15	第10回ロボティクス・シンポジウム	96	194	神奈川県箱根町	実行委員会
2005 3 20 ~ 23	第6回日韓熱流体工学会議 (TFEC06)	506	693	濟州島	大韓機械学会流体工学部門
2005 3 28	シンポジウム「科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える」	5	50	横浜	日本化学会
2005 4 5 ~ 7	2005年動力エネルギー国際会議シカゴ (米国) 大会	413	6357	シカゴ	米国機械学会
2005 4 20 ~ 22	第39回空気調和・冷凍連合講演会	47	146	東京	空気調和・衛生工学会
2005 4 26	日本学術会議接合工学専門委員会シンポジウム「我が国の製造業を支える溶接・接合技術はこれでよいのか」	6	91	東京	日本学術会議
2005 5 13	第53回ターボ機械協会総会講演会	21	66	東京	ターボ機械協会
2005 5 16 ~ 20	第13回原子力工学国際会議 (ICONE-13/2005)	550	800	北京	組織委員会
2005 5 25 ~ 27	平成17年度 (第36回) 塑性加工春季講演会	176	446	三条	日本塑性加工学会
2005 5 25 ~ 27	平成17年度春季フルードパワーシステム講演会	52	148	東京	日本フルードパワーシステム学会
2005 5 26, 27	第43回原子力総合シンポジウム	17	260	東京	日本学術会議
2005 5 31	シンポジウム「最先端技術の継承と保全」-日本における技術蓄積を願って-	9	102	東京	日本学術会議
2005 6 6 ~ 8	第42回日本伝熱シンポジウム	378	787	仙台	日本伝熱学会
2005 6 21	第28回ラビッドプロトタイプングシンポジウム	24	99	東京	RP産業協会
2005 6 22 ~ 24	第17回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム	140	190	高知	日本AEI学会
2005 6 23, 24	日韓生産機要素潤滑設計に関する国際会議 (ICMDT 2005)	223	340	ソウル	大韓機械学会
2005 7 6 ~ 8	第42回アイソトープ・放射線研究発表会	152	476	東京	日本アイソトープ協会
2005 7 7, 8	第35回安全工学シンポジウム	98	420	東京	日本学術会議
2005 7 20 ~ 22	第47回構造強度に関する講演会	108	155	石川 東野々市町	日本航空宇宙学会
2005 8 2 ~ 4	第16回地域清空会議 (アジア太平洋地域会議)	173	251	東京	組織委員会
2005 8 3	第24回混相流シンポジウム	231	459	東京	実行委員会
2005 8 8	計測連合シンポジウム 先端計測2005「生物に学ぶ計測」	6	66	岡山	日本学術会議
2005 8 9	学術会議 水力学・水理学専門委員会シンポジウム 流体力学の新しい展開-マイクロからマクロまでの流れの解明とその制御-	6	73	東京	日本学術会議
2005 9 12 ~ 16	第2回日本メカニクス・バイオメカニクス・ワークショップ「バイオメカニクスの新しい趨勢:生体分子から組織まで」	73	88	京都	組織委員会
2005 9 14, 15	第33回ガスタービン定期講演会	44	113	伊勢	日本ガスタービン学会
2005 9 15, 16	第37回流体力学講演会	95	200	千葉	日本航空宇宙学会、日本流体力学学会
2005 9 15, 16	第49回日本学術会議材料研究連合講演会	264	406	京都	土木学会、日本材料学会
2005 10 7, 8	第54回ターボ機械協会 (仙台) 講演会	28	89	仙台	ターボ機械協会
2005 10 20	技術倫理協議会公開シンポジウム	1	103	東京	日本機械学会
2005 10 30	第13回衛星設計コンテスト最終審査会	14	167	東京	日本宇宙フォーラム
2005 11 7 ~ 9	2005国際シンポジウム マイクロメカトロニクスとヒューマンサイエンス及び国際メイズコンテスト	55	139	名古屋	実行委員会
2005 11 9 ~ 11	第49回宇宙科学技術連合講演会	311	415	広島	日本航空宇宙学会
2005 11 9 ~ 11	第26回日本熱物性シンポジウム	173	356	つくば	実行委員会
2005 11 18 ~ 20	第56回塑性加工連合講演会	345	650	那覇	日本塑性加工学会
2005 11 21 ~ 23	第3回渦流れ・渦モデル国際会議	64	163	横浜	実行委員会
2005 11 22	統合デザインセミナー2005	7	50	吹田	大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻
2005 11 23 ~ 25	第11回アジア太平洋振動会議	101	220	ランカウイ	実行委員会
2005 11 25, 26	第48回自動制御連合講演会	286	482	長野	計測自動制御学会
2005 11 28 ~ 30	第5回発電およびエネルギー変換のためのマイクロ・ナノテクノロジーに関する国際ワークショップ	51	135	東京	
2005 12 5 ~ 7	第43回燃焼シンポジウム	249	660	東京	日本燃焼学会
2005 12 8, 9	平成17年度磁性流体連合講演会	15	60	横浜	磁性流体研究連絡会
2005 12 12 ~ 14	第4回環境調和型設計とインバース・マニユファクチャリングに関する国際シンポジウム (EcoDesign2005)	180	310	東京	エコデザイン学会連合
2005 12 20 ~ 22	第18回内燃機関シンポジウム	104	192	濟州島	自動車技術会
2005 12 21	CSRと環境技術セミナー	2	34	東京	早稲田大学
2006 1 13	第9回生産学術連合会議	5	77	東京	生産学術連合会議
2006 1 17 ~ 19	第12回鉄道技術・政策連合シンポジウム (J-RAIL2005)	199	378	川崎	土木学会
2006 1 24 ~ 26	第55回理論応用力学講演会	339	500	京都	実行委員会

1・13 調査研究事業(1・14・3参照)

1・14 協議会・部門・部会・センター・委員会・分科会・研究会

1・14・1 政策・財務部会

部会長：笠木肇副会長ほか、副会長、庶務理事、財務理事、編修理事、企画理事、広報理事ならびにオブザーバーとして、技術開発支援センター長、工学教育センター長、常勤理事で構成。開催5回(田口会長は全5回の会議に臨席された)。理事会、部会等の活動状況ならびに理事会上程案件の審議を行う。議案は以下のとおり。

- 第1回：2005年5月10日
1. 学会運営基本方針について
 2. 第82期からの引継事項への対応について
(センターの体制検討、本会組織の見直し、政策提言・ロードマップ作成、社会への提言、国プロ提案・産官学協同の推進、機械技術者像の提示)
 3. 発用設備規格委員会組織変更の検討結果
 4. 大学院教育懇談会の設置について
 5. Ladies' Association of JSME(LAJ)設立の提案
- 第2回：2005年6月14日
1. 日本機械学会の組織見直し(改編)について
 2. フェロー候補者推薦のお願い
- 第3回：2005年9月6日
1. 部門の会計処理方針案について
 2. 日本機械学会の組織改革案
 - 2-1. 組織改革案
 - 2-2. 組織改革に伴う対象規定変更と進行案
 - 2-3. 法工学部門の取扱い(支部・部門活性化委員会答申)
 - 2-4. 受託事業に関する取扱い
- 第4回：2005年11月8日
1. 組織改革に伴う諸規定案について
 - 1-1. 政策・財務審議会規定案
 - 1-2. 能力開発促進機構案ならびに関連規定案
 - 1-3. センター規定案
 - (1) 産官学連携センター
 - (2) 標準・規格センター
 - (3) 出版センター
 - 1-4. 分野横断的・新領域対応型研究活動組織規定案
 - 1-5. 直轄委員会規定案
 - (1) 支部・部門活性化委員会
 - (2) 国際連携委員会
 - (3) 技術倫理委員会
- 第5回：2006年1月11日
1. 第84期(2006年度)予算原案について
 2. 中・長期的課題について
 3. LAJ(Ladies' Association of JSME)活動報告ならびに規定案
- (Ladies' Association of JSME(女性TC))
大島主査、委員9名。
女性研究者・技術者の活動支援を目的にメーリングリストの構築、HPの開設、内閣府チャレンジキャンペーンに参画する形で年次大会時に女性フォーラムを開催した。このフォーラムの結果を踏まえ、3つの提言をまとめた。来期においては組織改革により会員部会の下に活動を行う。
- (大学院教育懇談会)
委員長 飯野利喜 他16名、開催5回
1. 本会会員で企業の大学院修士の機械系技術者を対象に「大学院教育について」のWebアンケートを実施した。
 2. 大学院教育についてのアンケート結果を会誌2006年1月号に掲載した。
 3. 2005年度年次大会特別企画のワークショップ「大学院教育を考える」の企画実施を行った。
 4. 2005年度年次大会ワークショップの議論をまとめて、大学院教育に対して3つの提言(①コースワークの強化と体系的な履修、②産学連携教育の強化、③機械系高度専門技術者・研究者の確保)を行った(本会HPへ掲載)。
 5. 経産省からの受託事業「JABEE大学院認定推進委員会」協力のためにJABEE大学院外部認定WGを設置。
 6. 21世紀型博士人材育成を目指した活動を行っている「コアリセッションセンター機能体」について、東京工業大学大能政明教授より話題提供を受けた。
 7. 「工学系博士の質保証に関する国際比較」について、(独)大学評価・学位授与機構田中正人教授より話題提供を受けた。
 8. 2006年度年次大会特別企画の検討を行った。
 9. 組織改革に伴ない、本懇談会規定案を作成した。
 10. 委員長代行に笠木伸英君(筆頭副会長)が任についた。

1・14・2 部門協議会

部門協議会：議長 金子成彦(企画理事)他22名 開催4回

今期、審議・協議を行った主な事項は次の通りである。

1. 財務理事会から提案された「部門の会計処理方針」の改訂案に対して、各部門からの意見を提出し、協議をした。
2. 部門を領域別にグルーピングし、学会外部から見て理解しやすく、部門間の連携を促すという「部門の領域案」について、各部門からの意見を徴集し、討議した。
3. 企画理事会から依頼された次年度(2006年度)年間企画行事(講習会)の事前提出について討議し、可能な範囲で各部門が協力することとした。
4. 部門賞及び部門一般表彰規定の改定を承認した。(計算法学部門、機械材料・材料加工部門、流体工学部門、環境工学部門、交通・物流部門)
5. 「部門賞・部門一般表彰規定のプロセス」について検討し、規定の標記を一部変更した。
6. 技術開発支援センター技術相談事業部会から依頼された「技術相談事業対応担当委員」の推薦について討議し、可能な範囲で各部門が協力することとした。
7. 2006年度から部門協議会の下部に設置される分野横断的・新領域対応型研究活動組織の規定(案)及び設置申請書(案)を確認し、設置申請を予定している2件の組織からの説明に対して討議した。
8. 支部・部門活性化委員会から提示された「2006年度部門評価に関する基本方針(案)」について討議し、各部門からの意見を纏めて提出した。
9. 庶務理事会から依頼された、「2006年度通常総会・特別企画」の協力内容(部門の現状と将来に関連する原稿の作成及び代表者による講演)について審議し、原案通りで協力することとした。
10. 部門マークの新設について承認した。(機械材料・材料加工部門)
11. 部門協議会直属分科会(P-SCC)設置について承認した。

《集會事業実施表》

部門・事業部会	部門長・事業部会長	運営委員	講演会	講習会	特別講演会・見学会・他
計算力学部門	富田 佳宏	32名	1	5	4
バイオエンジニアリング部門	山口 隆美	28名	2	-	2
材料力学部門	北村 隆行	32名	2	-	-
機械材料・材料加工部門	堂田 邦明	32名	1	2	1
流体工学部門	姫野 龍太郎	31名	2	4	2
熱工学部門	西尾 茂文	32名	1	1	2
エンジンシステム部門	塩路 昌宏	13名	1	4	-
動力エネルギーシステム部門	有富 正憲	32名	1	2	3
環境工学部門	伊藤 定祐	32名	1	1	-
機械力学・計測制御部門	石田 幸男	31名	5	5	-
機素潤滑設計部門	井上 克己	32名	-	4	1
設計工学・システム部門	村上 存	32名	1	2	-
生産加工・工作機械部門	土屋 総二郎	32名	1	4	4
生産システム部門	荒井 栄司	30名	1	2	2
ロボティクス・メカトロニクス部門	小菅 一弘	32名	1	-	9
情報・知能・精密機器部門	福井 茂寿	31名	1	3	-
産業・化学機械と安全部門	工藤 信之	17名	-	1	3
交通・物流部門	小島 幸夫	21名	2	1	5
宇宙工学部門	木田 隆	26名	1	-	1
技術と社会部門	渡邊 辰郎	30名	1	-	12
法工学部門	近藤 恵嗣	24名	-	-	-
技術開発支援センター 標準事業部会	染谷 常雄	17名	-	5	1

部会・部門・センター・委員会・分科会・研究会・開催回数

種 別	設置数	開催回数
政策・財務部会	1	5
国際支部運営委員会(設立準備委員会)	1	5
Ladies' Association of JSME	1	7
大学院教育懇談会	1	5
支部協議会	1	2
部門協議会	1	4
部門	21	75
分科会	17	39
研究会	98	257
会誌出版部会	1	4
マガイフ編集委員会	1	4
論文集出版部会	1	-
論文集編集委員会	1	7
Journal 編集委員会	1	2
部門英文 Journal 移行準備委員会	1	3
出版事業部会	1	3
分科会	13	9
技術開発支援センター	1	-
運営委員会	1	1
研究協力事業部会	1	2
標準事業部会	1	4
技術相談事業部会	1	1
機械状態監視資格認証事業部会	1	6
企画委員会	1	4
所属委員会	5	14
分科会	23	69
会員部会	1	2
学生員委員会	1	2
フェロー選考委員会	1	2
工学教育センター	1	-
運営委員会	1	0
企画委員会	1	5
教育支援関連事業部会	1	3
JABEE 対応委員会	1	0
能力開発支援事業部会	1	3
計算力学技術者基準と認定に関する検討委員会	1	0
計算力学技術者認定委員会	1	1
表彰部会	1	3
学会賞委員会	1	15
船井賞選考委員会	1	1
優秀製品賞選考委員会	1	2
広報・情報部会	1	4
支部・部門活性化委員会	1	3
技術倫理委員会	1	4
国際交流委員会	1	2
臨時委員会(理事会所属)・WG	-	-
機械記念日制定委員会	1	3
創立110周年記念事業委員会	1	2

各部門で実施された集會事業は前ページ一覧表に記載のとおりであるが、集會事業以外で各部門の活動特記事項は次のとおりである。

1. 計算力学部門：部門長 富田佳宏 他32名、運営委員会開催4回

- 1) 総務委員会、広報委員会、事業企画委員会、年次大会担当委員会（2005年度および2006年度）、計算力学講演会担当委員会（2005年度および2006年度）、表彰担当委員会、計算力学企画・普及委員会、将来問題検討委員会、計算力学技術者認定支援委員会、英文誌発行準備委員会、他技術委員会（総数：7）を設置し部門運営にあたった。
- 2) 第18回計算力学部門講演会（11月19日～21日、筑波大学春日キャンパス、実行委員長：阿部豊、筑波大）を開催した。
- 3) 部門賞として、功績賞、業績賞の受賞者を選定し、第18回計算力学部門講演会にて表彰した。
- 4) 各技術委員会、研究会企画の講演会、講習会を複数回開催した。11月には計算力学技術者認定試験対策講習会を全国4ヶ所で実施した。
- 5) ニュースレター34号、35号を発行した。
- 6) フェロー候補者、技術アドバイザー、学会賞候補の推薦を行った。
- 7) 部門英文ジャーナルの発行について審議した。
- 8) 2005年度年次大会においてバイオエンジニアリング部門、流体工学部門、熱工学部門と合同同好会を開催した。

〔所属研究会〕

A-TS 01-09	逆問題解析手法研究会	開催：2回
	主査：田中正隆	
A-TS 01-13	九州地区計算力学研究会	開催：5回
	主査：萩原世也	
A-TS 01-14	境界要素法研究会	開催：3回
	主査：田中正隆	
A-TS 01-15	マルチスケール計算固体力学研究会	開催：5回
	主査：大橋鉄也	
A-TS 01-17	流体と構造の複合問題研究会	開催：2回
	主査：大林 茂	
A-TS 01-18	感性領域のデジタル化推進研究会	開催：1回
	主査：萩原一郎	
A-TS 01-19	電磁流体解析関連技術研究会	開催：2回
	主査：金山 寛	

2. バイオエンジニアリング部門：部門長 山口隆美 他28名、運営委員会開催4回

- 1) 総務、広報、国際、企画、各講演会組織の各委員会を設置し、部門運営にあたった。
- 2) ニュースレター34号を発行
- 3) 部門賞を授与
功績賞：該当者なし
業績賞：但野 茂（北海道大）
瀬口賞：蔵田 耕作（九州産業大）
- 4) フェロー賞を授与
中山龍一（大阪大）、五味田慎一（電通大）
- 5) 講演会を開催
第16回バイオフロンティア講演会（2005.11.10-11、立命館大）
第2回日本・スイス・バイオ・ワークショップ（2005.9.12-16、京都市）
第18回バイオエンジニアリング講演会（2006.1.13-14、新潟市）
第25回バイオサロン（2005.4.4、日本機械学会）
第26回バイオサロン（2006.1.12、新潟市）
- 6) 論文集特集号を企画
JSME Int. J. Ser. C 2005.12 (Bioengineering)

〔所属研究会〕

A-TS 02-04	制御と情報—生体への応用研究会	開催：1回
	主査：早瀬敏幸	
A-TS 02-05	計測と力学—生体への応用—研究会	開催：1回
	主査：但野 茂	

A-TS 02-07	生体機能の解明とその応用に関する研究会	開催：1回
	主査：松本健郎	
A-TS 02-08	生体システム技術研究会	開催：2回
	主査：村上輝夫	
A-TS 02-09	生物機械システム研究会	開催：1回
	主査：田中正夫	
A-TS 02-11	個別モデリング研究会	開催：0回
	主査：伊能教夫	
A-TS 02-12	インパクトバイオメカニクス研究会	開催：2回
	主査：三木一生	

3. 材料力学部門：部門長 北村隆行 他32名、運営委員会開催3回

- 1) 総務、広報、技術委員会を設置し部門運営にあたった。
- 2) 以下の研究会の新設をそれぞれ承認した。
「A-TS03-23 マイクロ・ナノ材料評価/微小機械部品設計技術に関する調査研究会」
主査：磯野吉正（立命館大学）
「A-TS03-24 弾性数理解析の発展と普及、利用に関する調査研究会」
主査：辻 知章（中央大学）
「A-TS03-25 放射光・中性子による材料評価に関する研究会」
主査：秋庭義明（名古屋大学）
- 3) 部門賞として、功績賞、業績賞の受賞者を選定し、M&M2005材料力学カンファレンスにて表彰した。
- 4) 部門一般表彰として、優秀講演表彰の受賞者を選定し表彰した。
- 5) 日本機械学会フェロー賞の当部門受賞者を決定し報告した。
- 6) ニュースレターNo. 29号を発行した。
- 7) 部門英文Journalの発行移行形態についての意見交換を行った。
- 8) 年次大会で開催していた同好会を今期から廃止することが提案され承認した。
- 9) 以下のシンポジウム並びに講習会を開催した。
・No. 05-03 「M&M信州スプリング」シンポジウム、2005年3月に開催。
・No. 05-29 「事業化に成功する製品開発」講習会、2005年5月に開催を予定していたが聴講申込者が少なかつたため開催を中止した。
- 10) M&M2005材料力学カンファレンスを2005年11月に九州大学伊都キャンパスにて開催した。

〔所属研究会〕

A-TS 03-14	実験力学先端技術研究会	開催：7回
	主査：加藤 章	
A-TS 03-17	マイクロデバイス設計・製造・実装に関する研究会	開催：1回
	主査：堀江三喜男	
A-TS 03-19	次世代表面改質被膜の機械的安全性保証に関する研究会	開催：3回
	主査：鈴木秀人	
A-TS 03-20	放射光応力評価の実用化に関する研究会	開催：3回
	主査：田中啓介	
A-TS 03-21	エネルギー構造機器の維持管理と材料健全性評価技術の高度化に関する研究会	開催：1回
	主査：鹿島光一	
A-TS 03-22	マルチスケールモデリングと数値・数値解析手法に関する調査研究会	開催：2回
	主査：須見尚文	
A-TS 03-23	マイクロ・ナノ材料評価/微小機械部品設計技術に関する調査研究会	開催：2回
	主査：磯野吉正	

4. 機械材料・材料加工部門：部門長 堂田邦明 他32名、運営委員会開催6回

- 1) ニュースレターNo. 29, No. 30を発行した。
- 2) 平成17年度年次大会（電気通信大学）における部門企画を検討し実施した。
- 3) 平成18年度年次大会併催国際シンポジウム（千葉大学）における部門企画の検討を行った。

- 4) M&P2005国際会議(米国シアトル)を企画し実施した。
- 5) M&P2006(2006年11月25・26日@千葉大学)の企画・検討を行った。
- 6) 部門主催の国際会議の将来のあり方・国際交流基本方針について検討を行った。
- 7) 講習会の企画について検討し実施した。
- 8) 材力部門と連携して英文誌(Journal of Mechanics, Materials and Processing)を発行することに関して検討を行い、2007年1月に第1号を発行する計画を立案した。

[所属研究会]

- A-TS 04-08 締結・接合部のプロセスと信頼性評価研究会
主査: 服部敏雄 開催: 2回
- A-TS 04-09 PD (Particle Deposition) プロセス研究会
主査: 福本昌宏 開催: 1回

5. 流体工学部門: 部門長 姫野龍太郎 他31名, 運営委員会開催2回

- 1) 総務, 広報, 編集, 会員, 技術委員会(講演会, 講習会, 学術表彰WG)の各委員会を設置し, 部門運営にあたった。
- 2) 第83期流体工学部門講演会(10月, 金沢大)を開催した。
- 3) 第11回流れのふしぎ展(8月, 日本科学未来館)を開催した。
- 4) 第5回流れの夢コンテスト(10月, 金沢大)を開催した。
- 5) ニュースレター2005年4月号, 2005年9月号, 2006年1月号を発行した。
- 6) 以下の研究会を設置した。
「A-TS05-20 デジタルホログラフィック応用計測研究会」
(主査: 村田滋(京都工芸繊維大))
- 7) 講習会を4回開催した。

[所属研究会]

- A-TS 05-02 流力騒音研究会
主査: 梶昭次郎 開催: 1回
- A-TS 05-09 北海道地区流体工学研究会
主査: 杉山 弘 開催: 4回
- A-TS 05-13 九州地区流体工学研究会
主査: 青木俊之 開催: 1回
- A-TS 05-17 生物ミメティックマシン研究会
主査: 望月 修 開催: 0回
- A-TS 05-18 超音波による流動場測定技術に関する研究会
主査: 武田 靖 開催: 4回
- A-TS 05-19 格子ボルツマン法の基礎と応用に関する研究会
主査: 里深信行 開催: 2回
- A-TS 05-20 北陸地区流体工学研究会
主査: 川端信義 開催: 2回
- A-TS 05-21 デジタルホログラフィック応用計測研究会
主査: 村田 滋 開催: 1回

6. 熱工学部門: 部門長 西尾茂文 他32名, 運営委員会開催4回(内代行運営委員会2回)

- 1) 総務委員会(5回)ほかの部門所属委員会を開いて, 部門の経常業務を執行した。
- 2) 部門メーリングリストの整備を行った。
- 3) ニュースレター45号, 46号, 47号を発行した。
- 4) 講演会「熱工学コンファレンス2005」を開催した。
- 5) 「熱工学の新領域に関するクライミング・セミナー」を2回開催した。
- 6) 講習会「熱設計の基礎と応用: 演習・懇親会つき」を開催した。
- 7) KSME-JSME熱工学合同会議・ASME-JSME熱工学合同会議の開催準備を進めた。

[所属研究会]

- A-TS 06-15 熱・エネルギーシステムのエクセルギー評価研究会
主査: 辻 正 開催: 1回
- A-TS 06-17 マイクロおよびナノ・バイオエンジニアリングにおける熱物質移動に関する研究会
主査: 谷下一夫 開催: 4回

7. エンジンシステム部門: 部門長 塩路昌宏 他13名, 運営

委員会開催2回(運営委員会メール審議は5回程度)

- 1) 総務, 広報, 技術, 学会表彰・年鑑, 部門賞, 講習会企画, 基礎教育講習会, 内燃機関シンポジウム, 年次大会企画, スターリングサイクル, エンジンテクノロジー誌編集, エンジニアリサーチ誌編集, Journal技術, 国際企画の各委員会を設置し, 部門運営にあたった。
- 2) ニュースレター34号, 35号(Web掲載)を発行した。
- 3) A-TS 07-42「工学教育に用いるスターリングサイクル機器に関する研究会」を新規に設置した。
- 4) No. 05-39講演会「第9回スターリングサイクルシンポジウム」(05/10/20.21)を開催した。
- 5) No. 05-28講習会「ディーゼルエミッション低減技術の最新動向」(05/04/25)を開催した。
- 6) No. 05-95基礎教育講習会「エンジンにおける実験・計測の基礎と応用(その12)」(05/01/16)を開催した。
- 7) No. 05-96基礎教育講習会「エンジンにおける実験・計測の基礎と応用(その13)」(06/01/27)を開催した。
- 8) 2005年年次大会に関し, 部門単独でオーガナイズドセッション6件, 基調講演1件, 先端技術フォーラム1件, ワークショップ1件を企画, 実施した。
- 9) エンジンテクノロジー誌37号から42号を発行した。
- 10) Journal of Engine Research誌を4冊発行した。
- 11) JSME International Journal 特集号「Advanced Combustion Technology in Internal Combustion Engines」(Vol. 45, No. 4)を企画, 発行した。
- 12) 部門賞受賞者およびベストプレゼンテーション賞受賞者を選考し表彰した。

[所属研究会]

- A-TS 07-21 エンジン先進技術の基礎と応用研究会
主査: 脇坂知行 開催: 6回
- A-TS 07-32 西日本エンジンシステム研究会
主査: 富田栄二 開催: 1回
- A-TS 07-34 燃料電池システム研究会
主査: 近久武美 開催: 0回
- A-TS 07-36 圧縮着火燃焼技術の高度化研究会
主査: 青柳友三 開催: 4回
- A-TS 07-37 限界熱効率をめざす内燃機関研究会
主査: 高野孝義 開催: 5回
- A-TS 07-38 九州エンジンテクノロジー研究会
主査: 村瀬英一 開催: 4回
- A-TS 07-39 教育用スターリングサイクル機器の設計・製作に関する研究会
主査: 戸田富士夫 開催: 0回
- A-TS 07-40 先進のスターリングサイクル機器研究会
主査: 濱口和洋 開催: 4回
- A-TS 07-41 北海道エンジン技術研究会
主査: 小川英之 開催: 3回
- A-TS 07-42 工学教育に用いるスターリングサイクル機器に関する研究会
主査: 平田宏一 開催: 4回

8. 動力エネルギーシステム部門: 部門長 有富正憲 他32名, 運営委員会開催2回

- 1) 総務, 広報, 部門企画, 学会企画, シンポジウム企画, 国際企画, 研究企画, 出版企画, 学会賞, 部門賞の各委員会を設置し, 部門運営にあたった。
- 2) 年次大会にて基調講演2件, 先端技術フォーラム1件, オーガナイズドセッション8件他の企画を行った。
- 3) ニュースレター第30号, 第31号を発行した。
- 4) 部門賞(功績賞4名), 部門一般表彰(優秀講演表彰8名)を贈呈した。
- 5) 第10回動力エネルギー技術シンポジウム(会場:長崎県立年金会館ウエルシティ長崎)を開催した。
- 6) 講習会「配管の高サイクル熱疲労に関する評価指針」と講習会「点検整備とリスクマネージメントの最前線3-ライフラインのリスクマネージメント」(青山共同講見学付き)および見学会「南九州における動力・エネルギー・環境施設～南九州における地熱発電・鉱山・焼酎粕処理～」を実施した。
- 7) 第15回セミナー&サロン「将来のエネルギー供給と分散型エネルギーシステム ークリーンエネルギー社会を目指

して一」を開催した。

- 8) 国際会議ICOPE-13を主催し、ICOPE-2005およびICEM'05を共催した。
- 9) 特定事業(ジュニア会友向け行事として筑波宇宙センター親子見学会-自由研究コンクール-)を実施した。
- 10) 分科会・研究会の設置を行った。
 - 「700℃級超々臨界圧(A-USC)発電技術に関する調査研究分科会(主査、佐藤幹夫、電中研)」
 - 「風車のパラダイムシフト——日本の環境に適合した風車の研究開発(主査、荒川忠一、東大)」 ※流体力学・計算力学部門との協同のPSSC
 - 「ヒートポンプの高効率化に関する研究会(主査、片岡勲、阪大)」
 - 「原子力の安全規制の最適化に関する研究会(主査、班目春樹、東大)」

[所属研究会]

- A-TS 08-07 ヒートポンプの高効率化に関する研究会
主査: 片岡 勲 開催: 2回
- A-TS 08-08 原子力の安全規制の最適化に関する研究会
主査: 班目春樹 開催: 7回

9. 環境工学部門: 部門長 伊藤定祐 他32名, 運営委員会開催2回

- 1) 総務委員会(3回開催), 4つの技術委員会, および広報, シンポジウム実行, シンポジウム現地実行, 部門賞候補選定, 部門将来構想検討, 部門英文Journal 準備の各委員会を設置し部門運営にあたった。
- 2) ニュースレター(地球と環境 No. 16)の発行。
- 3) 部門企画行事
 - ・特別セミナー「安全と環境技術」を3月10日に東京海洋大学にて開催。
 - ・第39回空気調和・冷凍連合講演会を4月20日から22日に東京海洋大学にて主催。
 - ・第15回環境工学総合シンポジウムを7月7日, 8日に室蘭工業大学にて開催, 9日に見学会を開催。
- 4) 部門ホームページの運営方法の改善。
- 5) 部門の現状と将来の方向等について検討。その結果を踏まえて技術委員会の分野名を変更。
- 6) アンケートの結果のWeb公開。
- 7) 英文Journal 発行の準備。
- 8) 部門賞および一般表彰受賞者の選定と表彰。フェロー賞受賞者の選定。
- 9) 設立20周年記念行事についての検討。
- 10) A-TS09-01「機械音の快適化技術研究会」を3回開催した。

[所属研究会]

- A-TS 09-01 機械音の快適化技術研究会
主査: 山田伸志 開催: 3回
- A-TS 09-02 NEE研究会
主査: 大西潤治 開催: 2回
- A-TS 09-03 エネルギー有効利用技術の将来動向研究会
主査: 秋澤 淳 開催: 4回

10. 機械力学・計測制御部門: 部門長 石田幸男 他31名, 運営委員会開催4回

部門運営にあたり, 総務, 広報, 表彰, 講習会企画, 出版の常設委員会を設置した。

また, 年次大会企画, Int. Journal編集, トピックス, 会員部会の担当者を決定し部門の対応を検討した。

- 1) 選挙要綱にしたがう選挙により副部門長を選出した。
- 2) 研究会2件の延長を行った。
- 3) 部門賞および部門一般表彰の候補者を選出し決定した。
- 4) ニュースレターNo. 36(2色刷り+ホームページ), 37(ホームページ)を発行した。
- 5) 行事開催一覧
 - ・Dynamics and Design Conference 2005, 2005. 8. 22~25, 朱鷺メッセ(新潟)
 - 行事として, 若手技術者・学生向け講習会「第3回夏の学校: 制御系設計の基礎から応用まで」を開催, シンポジウムとして第9回「運動と振動の制御」シンポジウ

ムを同時開催

- ・ジョイント・シンポジウム2005 スポーツ工学シンポジウム, シンポジウム: ヒューマン・ダイナミクス, 2005. 9. 11~13, 東京工業大学大岡山キャンパス(東京)
- ・VSTech2005, 2005. 6. 1~6. 3, 宮島(広島)
- ・Asia-Pacific Vibration Conference 2005, 2005. 11. 23~25, Langkawi (Malaysia)
- ・第48回自動制御連合講演会, 2005. 11. 25~26, JA長野県ビル(長野)
- ・第4回 評価・診断に関するシンポジウム, 2005. 11. 28~29, 三重大学(三重)
- ・福祉工学シンポジウム2005, 2005. 12. 8~9, 三重大学(三重)
- ・第17回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム, 2005. 6. 22~24, 高知市文化プラザかるぼーと(高知)
- ・講習会「振動モード解析実用入門」, 2005. 5. 25~26, 日本機械学会会議室(東京)
- ・講習会「すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション」, 2005. 10. 24, キャンパスイノベーションセンター(東京)
- ・講習会「すぐに役立つ技術英語によるプレゼンテーション」, 2005. 12. 2, 福井大学(福井)
- ・講習会「運動方程式の立て方変化」, 2006. 1. 26~27, キャンパスイノベーションセンター(東京)
- 6) その他
 - ・英文学術論文集の発行に関して「編集準備委員会」を部門内に設置した。

[所属研究会]

- A-TS 10-02 振動研究会
主査: 松久 寛 開催: 6回
- A-TS 10-03 非線形振動研究会
主査: 近藤孝広 開催: 1回
- A-TS 10-04 ロータ・ダイナミクス・セミナー研究会
主査: 神吉 博 開催: 1回
- A-TS 10-05 FIV研究会
主査: 金子成彦 開催: 1回
- A-TS 10-07 モード解析研究会
主査: 吉村卓也 開催: 2回
- A-TS 10-08 回転体力学研究会
主査: 佐藤勇一 開催: 4回
- A-TS 10-09 運動と振動の制御研究会
主査: 吉田和夫 開催: 1回
- A-TS 10-10 振動・音響研究会
主査: 中川紀壽 開催: 4回
- A-TS 10-11 北海道ダイナミクス研究会
主査: 一ノ宮修 開催: 1回
- A-TS 10-12 振動基礎研究会
主査: 池田 隆 開催: 1回
- A-TS 10-13 振動工学データベース研究会
主査: 小林正生 開催: 3回
- A-TS 10-15 新しい分野における計測制御問題研究会
主査: 山本圭治郎 開催: 1回
- A-TS 10-16 北陸信越動的解析・設計研究会
主査: 谷藤克也 開催: 2回
- A-TS 10-18 九州ダイナミクス&コントロール研究会
主査: 本田 巖 開催: 1回
- A-TS 10-19 減衰(ダンピング)研究会
主査: 浅見敏彦 開催: 3回
- A-TS 10-20 ヒューマン・ダイナミクス&メジャメント研究会
主査: 宇治橋真幸 開催: 3回
- A-TS 10-22 東海ダイナミクス・制御研究会
主査: 安田仁彦 開催: 1回
- A-TS 10-24 パターン形成現象に関わるダイナミクス研究会
主査: 劉 孝宏 開催: 0回
- A-TS 10-25 磁気軸受標準化研究会
主査: 松下修己 開催: 3回
- A-TS 10-26 磁気軸受のダイナミクスと制御研究会
主査: 岡田養二 開催: 2回
- A-TS 10-27 シェルの振動と座屈研究会

A-TS 10-29	最適化解析に基づく構造の知能化に関する研究会 主査：成田吉弘	開催：2回
A-TS 10-31	音響エネルギー研究会 主査：萩原一郎	開催：1回
A-TS 10-32	東北地区ダイナミクス&コントロール研究会 主査：中川紀壽	開催：1回
A-TS 10-33	機械工学における力学系理論の応用に関する研究会 主査：高木敏行	開催：2回
A-TS 10-34	機械工学における先端計測研究会 主査：萩野浩司	開催：1回
A-TS 10-37	動力学におけるモデル化研究会 主査：梅田 章	開催：2回
A-TS 10-38	マルチボディダイナミクス研究会 主査：清水信行	開催：1回
A-TS 10-39	診断・メンテナンス技術に関する研究会 主査：川合忠雄	開催：3回
A-TS 10-40	スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会 主査：梶原逸朗	開催：3回
A-TS 10-41	耐震問題研究会 主査：曾根 彰	開催：2回

11. 機素潤滑設計部門：部門長 井上克己 他32名、運営委員会開催2回

- 1) ニュースレター26号(2005年11月)を発行した。
- 2) 第5回部門講演会(日韓生産機素潤滑設計に関する国際会議ICMDT2005)を開催した(2005年6月23-24日、韓国・中央大学校)。
(基調講演：2件、オーガナイズドセッション：15件、講演数：223件)
- 3) 2005年度年次大会において以下の件数の企画を開催した。
オーガナイズドセッション：10
基調講演：5
先端技術フォーラム：4
横断企画：4(情報・知能・精密機器、ロボティクス・メカトロニクス、機械材料・材料加工、材料力学部門、交通・物流各部門)
- 4) 5件の講習会を開催した。
次世代アクチュエータ(2005年5月20日、東京)
ブレイクスルーを生み出す次世代アクチュエータ(2005年6月9日、神戸)
歯車技術基礎講座(2005年10月27-28日、東京)
マイクロ機械システムを支えるメカトロニクス技術(2005年11月22日、東京)
実機摺動面設計に学ぶ境界潤滑・流体潤滑(2006年2月3日、東京)
- 5) 福祉工学シンポジウム2005(2005年12月8-9日、三重)を機械力学・計測制御(幹事部門)、機素潤滑設計、ロボティクス・メカトロニクス、バイオエンジニアリングの4部門の合同企画により開催した。
- 6) 第7回部門講演会(日韓生産機素潤滑設計に関する国際会議ICMDT2007)を韓国機械学会生産設計部門と合同にて札幌で開催するため実行委員会を設立し、開催に向けての準備にあたった。

(所属研究会)

A-TS 11-03	中国四国機素潤滑設計技術研究会 主査：永村和照	開催：3回
A-TS 11-05	ヒト・メカの協調設計研究会(パートII) 主査：遠山茂樹	開催：2回

12. 設計工学・システム部門：部門長 村上 存 他32名、運営委員会開催3回(うち1回は電子メールで開催)

- 1) 総務委員会、表彰委員会、広報委員会、企画活性化委員会、講演会活性化委員会、産学連携活性化委員会を設置し部門を運営した。
- 2) 部門ホームページにて部門活動の公開を行なった。
- 3) 第15回設計工学・システム部門講演会を企画、開催した。
- 4) 部門賞および部門一般表彰の審査・選定を行ない、部門講演会にて表彰を行なった。

- 5) 「設計に使える設計手法」、「革新的ものづくりのための技術シーズの育成とシステム統合技術」の講習会2件を企画、開催した。
- 6) 2005年度年次大会でオーガナイズドセッション、ワークショップ、先端技術フォーラム、基調講演を企画、実施した。
- 7) 5部門合同英文ジャーナルに関して審議した。
- 8) 2005 ASME CIE (Computers and Information In Engineering) ConferenceにおいてJSME Panel(講演5件)を企画、実施した。

(所属研究会)

A-TS 12-04	関西設計工学研究会 主査：廣安知之	開催：5回
A-TS 12-05	設計研究会 主査：大富浩一	開催：5回
A-TS 12-06	技術経営と設計研究会 主査：福田収一	開催：2回

13. 生産加工・工作機械部門：部門長 土屋総二郎 他32名、運営委員会開催4回

- 1) 技術、総務、広報、第1企画、第2企画、第3企画委員会を設置し、運営委員会4回、委員長・幹事会3回を開催し、部門運営にあたった。
- 2) ニュースレターを2回[No. 29, 30]発行した。
- 3) 第3回JSME先端生産技術に関する国際会議(LEM21)、講習会3回[No. 05-12, 97, 103]、中・高・大学生向けセミナー、シンポジウム4回[No. 05-46, 77, 91, 92]、先端技術フォーラム1回[No. 05-252]、の計9行事を開催した。中学生、高校生、大学生、企業技術者を対象者にした啓蒙行事も活発に行った。
- 4) 2006年年度年次大会の基調講演、ワークショップ、オーガナイズドセッション(6セッション)を企画した。
- 5) ポートメッセ名古屋で開催した第3回JSME先端生産技術に関する国際会議(LEM21)は、講演件数219件、参加登録者283名となり、非常に活発で有意義な国際会議となった。
- 6) 部門賞について審査し、功績賞(2件)、研究業績賞(1件)、優秀講演論文賞(11件)を贈賞した。
- 7) 優秀製品賞(1件、牧野フライス製作所)を推薦した。

14. 生産システム部門：部門長 荒井栄司 他30名、運営委員会開催5回

- 1) 年次大会担当、部門講演会年担当、先端技術フォーラム担当、国際会議LEM21担当、生産システムセミナー担当、見学会企画担当、International Journal担当、表彰選考推薦担当、広報担当、次年度部門の人事担当を任命し、部門運営にあたった。
- 2) 国際会議(国際LEM21)を開催した。
- 3) 生産システム部門講演会2005を開催した。
- 4) 講習会として先端技術フォーラムとNo. 05-107「最先端の現場ではRFIDをこう活用している!」を開催した。
- 5) 特別講演会として中堅技術者セミナーを開催した。
- 6) 工場見学会を開催した。
- 7) 生産システム部門ニュースレター第29号を発行した。
- 8) 生産システム部門賞を設置し、選定・表彰を行った。

15. ロボティクス・メカトロニクス部門：部門長 小菅一弘 他32名、運営委員会開催5回、委員長会議開催3回

- 1) 企画、技術、広報、出版、欧文誌、表彰委員会を構成し、部門運営に当たった。
- 2) 部門欧文誌「Journal of Robotics and Mechatronics」を6号発行した。
- 3) ロボティクス・メカトロニクス部門学術講演会を2005年6月9-11日に神戸市神戸国際展示場で開催し、1220人が参加し879件の発表があった。
- 4) ロボティクスシンポジウムを2005年3月14-15日に神奈川県箱根小涌園でRSJ、SICEと共同で主催し、194人が参加し、96件の発表があった。
- 5) 福祉工学シンポジウムを2005年12月8-9日に三重県総合文化センターで、他3部門と共同で主催し、機械学会員148人が参加し、70件の発表があった。
- 6) 年次大会市民開放行事において、部門企画として「もの

つくり教育市民フォーラム」を行い、ロボットコンテスト、ものつくり教育に関する展示と実演を行い、多数の市民を対象にロボット・メカトロニクス啓蒙活動を行った。

- 7) ロボット・メカトロニクス技術の啓蒙と発展のため、各地で講演会18回と見学会12回を実施した。それぞれ365名、180名が参加した。
- 8) ニュースレターを3号発行した。発行分は全て日本機械学会誌にも掲載を行った。
- 9) 部門登録者より、熱心に活動を行い貢献した会員8名を、日本機械学会フェロー候補者として学会に推薦した。
- 10) 日本機械学会論文賞候補として、ロボティクス・メカトロニクス技術に関する優秀な論文を10件選定し、学会に推薦した。
- 11) 部門賞として、功績賞2名、学術業績賞1名、技術業績賞2名を選出した。また、部門一般表彰としてROBOMEC表彰5講演、ベストプレゼンテーション賞5名、部門貢献表彰3名の選定を行った。
- 12) ファナックFA財団論文賞候補として、部門欧文誌から1件の論文を候補として選出し、推薦した。
- 13) フェロー賞候補2名を選定し、推薦した。
- 14) 日本機械学会 標準事業表彰(貢献賞・国際功績賞)に1名の候補を推薦した。

〔所属研究会〕

- | | | | |
|------------|--------------------------------|---------|-------|
| A-TS 15-12 | 産業応用メカトロニクス技術研究会 | 主査：中嶋新一 | 開催：1回 |
| A-TS 15-16 | メカトロニクス教育研究会 | 主査：水川 真 | 開催：5回 |
| A-TS 15-17 | ロボットメカトロニクスによる国際コミュニケーション教育研究会 | 主査：福田敏男 | 開催：3回 |

16. 情報・知能・精密機器部門：部門長 福井茂寿 他31名、運営委員会開催1回、主査会議5回他メール審議

- 1) 総務、学術、事業、広報、表彰委員会を設置し、部門運営にあたった。また、編集委員会を新設し、5部門合同発行英文ジャーナルについて審議した。
- 2) MIPE06委員会を設置し、米国機械学会ISPS部門と共催予定のMIPE06国際会議の準備活動を推進した。
- 3) 「知的センシングに関する分科会(主査：高橋宏 日産)」を新設した。「人間情報知能メカトロニクス分科会」の会期を2007年4月まで延長した。
- 4) 部門講演会において国際ワークショップ「環太平洋各国の情報機器R&D最前線」を実施した。また、招待講演論文をInternational Journalの特集号に掲載した。
- 5) 「電子写真技術のシミュレーションに関する講習会」、「車はどこまで賢くなるのか? そして今、開発が必要な技術は何か?」、「家庭における情報化・知能化」の3講習会を実施した。また、2006年5月実施予定の講習会「医療福祉のニーズと現状そして将来 -計測制御技術の視点から-」を企画した。
- 6) ニュースレター29、30号をWeb上で発行した。またホームページを整備した。
- 7) 部門賞について審議した。

17. 産業・化学機械と安全部門：部門長 工藤信之 他17名、運営委員会開催4回

- 1) 年鑑、年次大会、講演会、講習会、市民フォーラム、広報(ニュースレター)、広報(ホームページ)担当およびトピックス委員、技術委員、英文ジャーナル委員を決め、部門運営にあたった。
- 2) 部門主催行事への参加者を増やす方策について審議した。
- 3) ニュースレターNo. 21を発行した。
- 4) 部門のロゴマークの公募を行った。

〔所属研究会〕

- | | | | |
|------------|-------------------|---------|-------|
| A-TS 17-01 | 化学プラントの信頼性・安全性研究会 | 主査：福田隆文 | 開催：5回 |
|------------|-------------------|---------|-------|

18. 交通・物流部門：部門長 小島幸夫 他21名、運営委員会開催3回

- 1) 運営、技術(第1~7)、広報委員会を設置し部門運営

にあたった。

- 2) 第14回交通・物流部門大会(TRANSLOG2005) 川崎市産業振興会館、2005年12月7(水)~9日(金)を主催した。
- 3) 第12回鉄道技術・政策連合シンポジウム(J-Rail2005) 川崎市産業振興会館、2006年1月17(火)~19日(木)を共催した。
- 4) 技術講演会「昇降機・遊戯施設等の最近の技術と進歩」日本機械学会、2006年1月19日(木)を主催した。
- 5) 講習会「とことんわかる自動車のモデリングと制御2005」 中央大学駿河台記念館、2005年11月8日(火)を主催した。
- 6) 基礎セミナー「自動車の運動力学」 日本大学理工学部、2005年5月14日(土)、 京都大学百周年時計台記念館、2005年6月18日(土)を主催した。
- 7) 基礎セミナー「公共交通システム(鉄道、LRT、バス)におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン」 鉄道技術総合研究所、2006年2月9日(木)を主催した。
- 8) 特別講演会「鉄道車両のダイナミクスと制御」 上智大学中央図書館、2005年7月25日(月)を主催した。
- 9) 見学会「(独)海上技術安全研究所」 海上技術安全研究所、2006年2月3日(金)を主催した。
- 10) 前期部門賞(功績賞)の表彰式を行った。
- 11) 一般表彰(部門大会賞、優秀講演論文)を選考した。
- 12) 部門ニュースレター、29号、30号を発行した。
- 13) ニュースレターの郵送先を部門登録第2位までとし、WEBでの公開を行った。

〔所属研究会〕

- | | | | |
|------------|--------------------------|---------|-------|
| A-TS 18-03 | 交通のバリアフリー化・シームレス化に関する研究会 | 主査：鎌田 実 | 開催：3回 |
| A-TS 18-04 | 先端シミュレータ研究会 | 主査：田川泰敏 | 開催：4回 |

19. 宇宙工学部門：部門長 木田 隆 他26名、運営委員会開催4回

- 1) 総務、広報、企画委員会を設置し運営にあたった。
- 2) 年次大会において、オーガナイズドセッション等の企画を実施した。
- 3) 一般市民を対象とした宇宙工学講座「水ロケットを作って飛ばそう!」を8月20日に大阪で開催した。
- 4) 衛星設計コンテストを実施し、最終審査会を10月24日に東京で開催した。本選で各受賞者を表彰した。今年度から高校生を対象としたジュニア部門を開設した。
- 5) ニュースレターNo. 20(会誌1月号掲載)を発行した。
- 6) インターネットを利用した宇宙工学技術の情報交換の場「宇宙工学ガイド」の充実を図った。
- 7) 第14回スペースエンジニアリングコンファレンスを12月16日に東京で開催した。12件の講演が行われた。
- 8) 2005年度部門表彰(功績賞、業績賞)と一般表彰の受賞者を決定した。

20. 技術と社会部門：部門長 渡邊辰郎 他30名、運営委員会：新旧合同1回、拡大総務委員会5回開催委員会活動

1. 研究交流委員会
*部門講演会を2005年12月10日日本設計工学会と共催で開催する。
*年次大会にてOS・WS・教育フォーラムを企画・実施をする。
2. 研究組織委員会
*部門活性化に向けて、新たな研究会の発足を検討した。
研究会例：「JABEE教育研究会」、「循環型・分散型社会研究会」
「日本の技術革新に影響を与えた人物および社会的対象」と題した研究を開始することを検討した。
来年度の研究活動に向け、上記研究課題を科研費・公募研究に応募した。

3. 表彰委員会
部門賞(功績賞) 1件, 一般表彰(優秀講演論文表彰) 1件を表彰した。
4. ホームページ委員会
当委員会は, 今年度(83期)より広報委員会から独立して発足した
1. 委員会の開催
委員会の開催は, メール審議によって3回実施した。
第1回(4/5発信)のメール審議では, 委員の委嘱と基本方針を検討した。
第2回(5/20発信)のメール審議では, 活動内容を検討した。
第3回(7/3発信)のメール審議では, Web ページ運営規定案を検討した。
2. 具体的な活動内容
(1) 委員会の基本方針の確認
委員会の方針は, 費用負担を伴わずに, より迅速で有用な情報を提供する。
(2) ホームページの内容更新
部門組織・運営などの各ページを更新, 特に, 行事については迅速な更新に努めた。定期的に, リンク先の確認を実施した。トップページなど全般的なスタイルとデザインの更新は学会の方針待ちの状態である。部門登録者用のページを開設した。
(3) ホームページ運用規定案の作成
運用規定を案し, 総務委員会にて了承されたが, ホームページでの公開は総務委員会の方針で控えている。
5. 広報委員会
ニュースレターNo. 17の2月発行予定
- その他の活動
1. 日本機械学会「歴史的遺産」指定基準案を策定した。
2. 専門委員会として歴史的遺産委員会設置を決めた。
3. イブニングセミナー 11回開催をした。

〔所属研究会〕

- A-TS 20-07 人機能支援工学研究会
主査: 木内 学 開催: 0回
- A-TS 20-12 ブルネル研究会(その人と技術史)
主査: 佐藤建吉 開催: 2回
- A-TS 20-13 伝統技術保存策についての検討-宮大工・西陣織を例として-研究会
主査: 大川時夫 開催: 7回

21. 法工学部門: 部門長 近藤恵嗣 他24名, 運営委員会開催5回

- 1) 2005年度年次大会において, オーガナイズドセッション(1件), 環境工学部門とのジョイントセッション(1件), 基調講演(1件), ワークショップ(3件)を行った。
- 2) 2006年度年次大会における部門企画行事について運営委員会で審議し, オーガナイズドセッション2件, 産業・化学機械と安全部門とのジョイントセッション1件, ワークショップ4件の企画案を提出した。
- 3) 部門内に部門企画講習会の企画立案を担当する講習会企画委員会および機械工学便覧β-9「法工学」の修正とアップデートを取りまとめる便覧委員会を設置した。
- 4) 部門所属研究会(5研究会)は継続して研究会活動を行った。
- 5) 支部・部門活性化委員会に部門活動照会回答書を提出し部門移行審査を受けた。その結果を踏まえ理事会より, 今後は分野横断的・新領域対応型研究活動組織として活動を継続することが望ましいと決定された。
- 6) 法工学部門3年間の活動を纏めた資料集を発行し, 委員および関係各所に配付した。

〔所属研究会〕

- A-TS 21-01 交通事故過失割合研究会
主査: 藤村和夫 開催: 6回
- A-TS 21-02 CSR(企業社会責任)研究会
主査: 田村直義 開催: 9回
- A-TS 21-03 裁判における技術的立証に関する法工学研究会
主査: 近藤恵嗣 開催: 6回
- A-TS 21-04 知的財産法工学研究会

- 主査: 隅藏康一 開催: 6回
A-TS 21-05 産学官連携推進研究会
主査: 福田収一 開催: 2回

〔部門協議会直属分科会〕

- P-S C C 6 「安全のマネジメント」に関する調査・研究分科会: 主査 小林英男 他11名, 開催0回
1. 2003年4月に設置。
2. 2005年3月をもって分科会設置期間を満了し, 報告書を提出した。

- P-S C C 7 風車のパラダイムシフト-日本の環境に適合した風車の研究開発-分科会: 主査 荒川忠一 他22名, 開催4回
1. 2005年4月設置。
2. 2005年4月27日, 東京大学にて第1回分科会を開催。本分科会の設置目的, 委員自己紹介, そして今後の運営説明が行われた。
3. 2005年6月6日, アクティシティ浜松にて, 再生可能エネルギーシンポジウム開催に合わせて, ターボ機械協会ハイブリッド発電技術分科会と第2回目の分科会を合同開催した。九州工業大学 金野氏, 稲垣委員, 東京大学荒川主査, 名古屋大学長谷川幹事より話題提供が行われた。
4. 2005年7月19日, 東京大学にて第3回分科会を開催。三菱重工業 勝呂氏を講師に迎え, 「風車設計ツールの実情」に関して話題提供いただいた。
5. 2005年9月22日, ゼファー株式会社にて第4回分科会を開催。東京大学鈴木委員より, 洋上風力発電の話題, ゼファー社川上委員より新型小型風車「AIRDOLPHIN」の説明, 見学が行われた。
6. 2006年年次大会において, OS企画の提案が了承された。

〔部門所属分科会〕

- P-S C D 3 3 9 噴流現象の基礎と先端的应用に関する研究分科会: 主査 社河内敏彦 他37名, 開催2回
1. 2002年9月設置
2. 今年度は分科会を2回開催し, 以下の項目を話題として取り上げ, 噴流の基礎ならびに先端的应用に関する調査研究を行った。2005年8月末日, 分科会を終了した。
・側壁平板に再付着する放射状噴流の実験的研究について
・ジェットポンプの性能に及ぼす流路形状の影響について
・噴流の流れとその応用に関する一考察について
・噴流の混合制御に関する直接数値シミュレーションについて
・噴流群を用いた熱伝達率分布の制御について
・2次元噴流のコヒーレント構造発展について
3. 2005年12月, 最終報告書提出。

- P-S C D 3 4 0 生体反応を用いた交通・物流機械の評価に関する分科会: 主査 景山一郎 他18名, 開催0回
2005年3月末を以て設置期間満了。

- P-S C D 3 4 1 医療福祉機器における計測制御研究分科会: 主査 田中真美 他33名, 開催1回
1. 2002年9月設置
2. 本年度は国立身体障害者リハビリテーションセンター見学会を行った。

- P-S C D 3 4 3 構造ヘルスマニタリングの実用化に関する分科会: 主査 轟 章 他36名, 開催0回
2005年4月末を以て設置期間満了。2005年3月1日~2005年4月末までの1ヶ月間に活動は無し。

- P-S C D 3 4 4 マグネシウム合金の加工技術研究分科会(II): 主査 松岡信一 他25名, 開催3回
1. 2003年1月設置
2. 2005年度は, 定例研究会2回, 技術フォーラム1回開催し, 調査・研究した下記のテーマおよび成形加工技術等について討論した。
(1) 第7回研究会(4/22): マグネシウム合金AZ31およびAZ61線材の冷間引抜き加工, マグネシウム合金押出材の圧延加工に関する基礎的研究, マグネシウム合金の押出加工に関する最新の研究開発動向と課題。

- (2) 第8回研究会(8/26): マグネシウム板のプレス成形, MA粉末を用いたマグネシウム合金の表面改質.
- (3) No. 03-75: 技術フォーラム(12/2): 「マグネシウム合金の成形加工技術の最先端」 Mg合金の板圧延とその利用, Mg合金の押出加工と型材の用途, マグネシウム温間プレス成形品のパソコンへの活用と課題, マグネシウム合金の材料特性と加工技術, マグネシウム・ダイカストの自動車への適用動向, Mg合金の自動車部材への適用と今後の課題.
3. 今年度の事業・会計報告があり, 承認された.
4. 本分科会は, 設定期間を満了し, 2005年12月末にて終了した.

P-SCD345 機能性流体工学の先端融合化に関する研究分科会: 主査 西山秀哉 他33名, 開催3回

- 2005年度活動報告
2005年度は分科会を東京及び仙台で3回開催し, 次の項目についての調査研究および情報交換を行った.
・導電性磁性流体キャビテーション流を用いた二相MHD発電システムに関する数値予測(石本委員)
・大気圧低温プラズマ流による室内環境浄化-微量化学物質の分解と滅菌-(佐藤幹事)
・MR流体クランチを用いたリハビリ支援機器の開発(関節拘縮徒手治療におけるトルク制御)(大幅委員)
・磁性流体とマグネットを用いたマイクロデバイスの開発(須藤委員)
・強磁場によるプラズマ噴流制御(実験的なアプローチ)(小池委員)
・非熱プラズマ複合プロセスによる環境改善及び表面改質技術(大久保委員)
・電磁熱流体のシミュレーション(棚橋委員)
・接合科学における電磁熱流体モデル(田中委員)
・印加磁場に対する磁気機能性材料の応答特性(井門委員)
・機能性流体工学の先端融合化に関する総括(西山主査)
- 2005年度の学術活動
・2005年度第83期流体工学部門講演会のフォーラム(機能性流体工学の先端融合技術, 5件, 2005年10月29日, 金沢大学)を実施
・日本機械学会関東支部第11期総会講演会OS(知能流体・構造システム, 7件, 2005年3月19日, 都立大学)を企画
・21st Century COE Program, Second International Conference on Flow DynamicsでOS(Multi-scale Functional Fluids Flow Dynamics, 基調講演1件, キーノート講演2件, 一般講演15件, 2005年11月17, 18日, 仙台国際センター)を実施
・JSME International Journal, Ser. B, Special Issue on Advanced Fusion of Functional Fluids Engineering, Vol. 48, No. 3 (2005), pp. 365-561を発行
ホームページURL
<http://www.ifs.tohoku.ac.jp/nishiyama-lab/group.html>

P-SCD346 ナノ・マイクロP/Mプロセッシング技術研究分科会: 主査 三浦秀士 他26名, 開催3回

- 第1回 講演会「複合化による素材の高機能化への新たな取り組み」
日時: 2005年8月26日(金)
場所: 日本材料学会 会議室
講演件数: 「カーボンナノチューブを使った無機系材料合成」他2件
参加者: 11名
日本材料学会粉末成形分科会と共催
- 第2回 総会および運営委員会
日時: 2005年9月20日(火)
場所: 電気通信大学(2005年度年次大会第20室)
審議件数 3件(期間延長, 執行部役員, 新入会員)
参加者: 14名
- 第3回 講演会「焼結の科学・技術」および研究室見学会
日時: 2006年1月27日(金), 28日(土)
場所: 九州大学伊都キャンパス

講演件数: 「マイクロMIM-報告その2」他16件
見学先: 九州大学加工プロセス講座, 材料加工学研究室
参加者: 50名
焼結研究会と共催

P-SCD347 形状記憶合金をベースとする材料の高機能・多機能化と応用に関する分科会: 主査 佐久間俊雄 他30名, 開催4回

- 2003年11月設置.
- 今年度は分科会を4回開催し, 次の項目について調査研究を行った.
(1) 形状記憶材料の研究動向と実用化の問題点
(2) 持続的蒸気爆発を利用した超急冷・微粒化法
(3) 形状記憶合金の積層圧延と強加工を利用した多機能化
(4) 形状記憶合金へのレーザ微細接合および微細加工
(5) 形状記憶合金の铸造製品製造技術と製品への応用
(6) 形状記憶合金の建築物などへの適用
(7) SMAアクチュエータの医用マイクロマシン, ロボティクス応用への課題
(8) マーケティングWGによる形状記憶合金の適用事例の報告
- 来年度は, 3月3日(金)の第9回分科会をはじめ3回の開催を予定している.

P-SCD348 歯車の次世代加工技術と運転性能に関する調査研究分科会: 主査 有浦泰常 他32名, 開催5回

- 2004年4月設置
- 今年度は, 分科会を5回開催し, つぎの項目について調査研究を行った.
(1) 高速ビデオカメラを用いたホブ切り過渡現象(切りくず生成)の観察による切りくず挙動と摩耗・仕上げ面との関係, 不水溶性切削油の塩素フリー化とミスト切削油について
(2) 浸炭焼入れ歯車の加工工程と歯面強さとの関連, 歯形応力解析シミュレーション, 最近の小形歯車減速機の状況について
(3) 環境に配慮したホブ切りの基礎研究, 第8回世界ギヤサミット出席報告, パネルディスカッション: 「歯車およびその周辺部品の製造における技術・ノウハウの伝承について」
(4) CBN工具による高硬度材の仕上げ切削, 超音波振動切削について
(5) 歯車仕上げ加工の動向, 低騒音歯車装置製造への取り組み, 精密平面ラップ盤・ポリッシュ盤, VDI 歯車に関する国際会議について
(6) 3月13日(月)開催予定 第10回
- 見学会を実施した.
(株)唐津鐵工所

P-SCD349 ヒトとの有機的融合をめざす運動と振動の制御研究分科会: 主査 須田義大 他44名, 開催1回

- 2004年3月設置
- 会合を1回開催し, 話題提供と情報交換を行った.
10月21日(金) 東京大学
・入眠予兆原理に基づく居眠り運転防止技術の研究(話題提供: 東京大学教授 金子成彦委員)
・人間の側面を重視したコミュニケーションロボットの実現(話題提供: 慶應義塾大学助教授 今井倫太)

P-SCD350 人間情報知能メカトロニクス分科会: 主査 木口量夫 他37名, 開催3回

- 本分科会は, 前年度に引き続き以下の活動を行った.
- 第4回分科会
実施日時 5月27日(金) 12:00~15:30
場所 ATR 知能ロボティクス研究所
内容 ①ネットワークロボット室宮本室長講演「ネットワークロボット」, 宮下上級研究員講演「Robovieシリーズ」, コミュニケーション支援室安部室長講演「コミュニケーション支援」, ②ネットワークロボット室見学
 - 第5回分科会

実施日時 9月8日(木) 12:00~16:30

場所 名古屋大学工学部

内容 ①三重大学野村教授講演「視覚代替のためのマルチモーダル・インタラクティブ画像呈示」、名古屋大学H. Yussuf様講演「手探りによるヒューマノイドロボットのナビゲーション」、名古屋大学大岡助教講演「多本指ハンド用三軸触覚センサの開発」、②複雑系科学専攻大岡研究室、マイクロシステム工学専攻福田研究室見学

(3) 第6回分科会

実施日時 1月16日(月) 13:00~15:30

場所 産業技術総合研究所

内容 ①矢野主任研究員講演「多自由度アクチュエータ」、神徳主任研究員講演「RTミドルウェアプロジェクトと標準化活動」、②小型多自由度アクチュエータ(矢野智昭)研究室見学、マイクロファクトリ(岡崎祐一)研究室見学、モジュール型ロボット(黒河治久)研究室見学

P-SCD351 情報マイクロ/ナノシステムのナノトライボロジーとダイナミクスに関する分科会:主査 福井茂寿 他30名, 開催2回

1. 2004年4月設置

2. 今年度は、分科会を2回開催し、つぎの項目について調査研究を行った。

(1) 磁気ヘッド空気軸受表面のポンピング効果, 米国機械学会ISPS2005講演会報告(HDI関連), ニアコンタクト領域における浮動ヘッドスライダの跳躍自励振動に関する研究

(2) 小テーマ1「熱マイクロアクチュエータ利用型HDI技術のメカとトライボロジー」: i) 熱アクチュエータ式浮上量調整システム(TFC)の開発, ii) 磁気ヘッドの熱突き出しシミュレーション, iii) 潤滑剤の反応, 小テーマ2「超小形磁気ディスクの現状と将来」: 超小型HDDの現状と将来技術(日本トライボロジー学会ファイル記憶のトライボロジー研究会と共催)

P-SCD352 マイクロナノメカトロニクスに関する分科会:主査 小寺秀俊 他12名, 開催4回

1. 目的

本分科会では、NEMS/MEMSなどのシステムの構造・設計・加工・システム化および応用に関する学術的な調査および技術交流を行うことにより、日本の機械工学の発展分野としてのNEMS/MEMSの研究開発に寄与することを目的としている。

2. 調査研究事項

本分科会では、情報通信に限定せず、NEMS/MEMSおよびマイクロTASまでを対象とし、現状の研究開発状況とその問題点を調査・研究するとともに、関連研究者・技術者の交流の促進と技術討論会等を通じた今後の研究開発の課題を検討する。

3. 平成17年度期間における活動結果は下記のとおり。

① 平成16年度開催予定だった分科会を講師の都合で延期したために、平成17年4月8日に大阪府立大学において、マイクロ加工における新たな方法であるナノインプリント加工に注目し、「ナノインプリント法によるマイクロ・ナノ構造の精密成形」と題して分科会を大阪府立大学において開催し、大阪府立大学の平井義彦教授に3時間に渡り講演と実験装置の見学を行った。参加者30名

② 日本機械学会 OS マイクロメカトロニクス(機密潤滑設計部門と協同); キーワード: 精密工作機械, 半導体製造装置, 位置決め機構, ダイナミクス・制御, 光応用計測技術, SPM関連技術, 三次元計測器, 座標計測, マイクロメカトロニクス新展開(家電, 自動車, 宇宙機器, 環境機器など), 機械要素等

UC BerkeleyのLuke P. Lee教授の特別講演および、ワークショップW13を企画し開催した。

W13: マイクロ加工およびマイクロTAS: 日 時 9月20日(火) 14:30~17:00: 会場 第24室

(1) Micro to Nano - 転機を迎えるマイクロ化学チップの技術と研究 - : 北森武彦(東大)

(2) マイクロTASとナノテクノロジー融合技術の開発

と医療応用: 馬場嘉信(名大)

(3) ポリマーMEMSとマイクロTASへの応用: 庄子習一(早大), 佐藤寛暢(JST), 石東真典(早大), 水野 潤

(4) X線リソグラフィマイクロ加工と μ TASへの応用: 田畑 修(京大)

③ 第一回 分科会 9月20日 場所: 京都大学 講師: Luke P. Lee: U.C. Berkeley 教授 講演題目「Nanophotonic Crescents & Cellular BASICS for Quantitative Medicine」

④ 第二回 分科会 予定「MEMS 2006会議報告+光MEMSの最前線」3月開催予定 場所 東京大学

P-SCD353 700°C級超々臨界圧(A-USC)発電技術に関する調査研究分科会:主査 佐藤幹夫 他26名, 開催4回

1. 2005年1月設置。

2. 今年度は分科会を4回開催し、次のテーマについて情報提供をいただき、意見交換を行った。

・次世代USCボイラ技術について
・次世代USCボイラ用候補材Ni基金の強度特性
・700°C級蒸気タービンの概念設計と開発課題
・700°C級A-USCプラント実現に向けたボイラ用材料の現状と課題

・A-USC技術の国内開発状況

・超高温ボイラプラント用材料の開発課題

・A-USC開発動向とタービン開発課題

・高合金鋼大型インゴットの製造技術

・次世代USCボイラの実用化に向けて

・高温タービンの開発課題

・650°C級フェライト系耐熱鋼の材料設計指針

3. (株)日本製鋼所室蘭製作所, 電源開発(株)磯子火力発電所の見学, ならびに現場担当者との意見交換を行った。

P-SCD354 知的センシングに関する分科会:主査 高橋 宏 他22名, 開催0回

1. 2006年1月理事会において分科会設置承認。

2. 分科会運営に関するメール審議を行い、分科会行事予定について議論した。

1・14・3 技術開発支援センター

技術開発支援センター:センター長 松崎 淳

技術開発支援センター運営委員会:委員長 田中啓介(企画理事)他9名, 開催1回

1. 研究協力事業部会分科会応募研究テーマ採択と分科会運営規程改正を承認した。

2. 平成17年度「原子力先進国の安全規制などに関する調査」請負業務契約の承認をした。

3. 平成17年度「NIMSデータシート活動とその研究に関する世界の動向調査」受託契約の承認をした。

4. 学会基準の改訂見直しのための分科会設置を承認し、JIS化の討議を行なった。

5. 平成17年度「工業標準化原案作成調査等調査委託」再委託契約の承認をした。

6. 発電用原子力設備規格 設計・建設規格(2005年版)販売計画/発電用設備規格 配管減肉管理に関する規格(2005年版)販売計画の承認をした。

7. 「シニアを対象にした情報交換フォーラム(仮称:メカノブログ倶楽部)立ち上げの件(技術開発支援センター企画委員会)について討議した。

8. 2006年度からの組織改革に伴い、新組織体制での区分(産官学連携センター, 標準・規格センター, 能力開発促進機構)による各事業委員会での予算編成について討議した。

9. 機械の状態監視診断技術者認証制度の実施技術資料等の韓国振動騒音学会への供与について討議した。

技術開発支援センター企画委員会:委員長 寺山孝男 他4名, 開催4回

1. 前年度審議内容を含め、新規事業企画について審議した。

2. 企画案の核となる活動として、インターネットを活用したコミュニケーション・フォーラム(メカノブログ倶楽部)を選定し、システム, 運営方法, 規約などを決定・整

備した。

3. メカノブログ倶楽部の試行を2006年2月より開始した。
4. メカノセミナー「インターネット・ブログの現状と成功事例」を開催した。

技術開発支援センター技術相談事業部会：部会長 清水 翼 他11名、開催1回

1. 技術相談事業件数19件（受付6件、無料回答5件、その他8件）を行った。
2. メカノスクエアーのホームページの改良について検討した。
3. メカノセミナー「インターネット・ブログの現状と成功事例」を開催した。
4. 委員、部門から推薦された技術アドバイザー候補の承認・依頼を行った。

現在のアドバイザー就任数61名となった。

コーディネーター補佐として部門担当委員を3名推薦してもらった。

6. 物質・材料研究機構（NIMS）から「データシート活動とその研究に関する世界の動向調査」の調査研究を受託し、調査活動を行った。
7. 今後の技術相談事業のあり方について討議を行った。

技術開発支援センター機械状態監視資格認証事業部会：部会長 岩壺卓三 他9名、開催6回

1. 訓練機関認定、振動技術者資格認証、潤滑管理技術者資格認証準備、認証制度品質管理システムの各委員会を設置し、当該資格認証制度の運営・構築にあたった。
2. カテゴリーⅠ、Ⅱ訓練機関2社、カテゴリーⅢ訓練機関4社の認定を承認した。
3. 資格認証試験の可否結果、認証申請者に対する認証書の発行を承認した。
4. 米国Vibration Instituteとミーティングを行った。
5. 東南アジア向け当該資格認証制度の普及について調査・検討を行った。

（訓練機関認定委員会：委員長 加藤 稔 他5名、開催3回）

1. カテゴリーⅠ、Ⅱ訓練機関2社について審査結果の報告を行った。
2. カテゴリーⅠ、Ⅱ訓練機関の公募を行ったが応募はなかった。
3. カテゴリーⅢ訓練機関の応募関係資料を作成し、公募した。
4. カテゴリーⅢ訓練機関の応募説明会を実施した。
5. カテゴリーⅢ訓練機関4社の審査を行った。
6. カテゴリーⅢ訓練機関の教官およびスタッフ研修を行った。
7. その他、訓練機関認定に係わる内規を作成した。
8. カテゴリーⅣの訓練機関に対する要求事項を検討した。

（振動技術者資格認証委員会：委員長 松下修己 他11名、開催7回）

1. 認証申請者に対して、2005年5月11日に認証書を発行した。
○被認証者 CAT.1:15名, CAT.2:230名, 合計:245名
2. 2005年度第1回（通算第3回）資格認証試験を2005年6月18日に実施した。
○受験申請者 CAT.1:14名, CAT.2:192名, 合計:206名
○合格者 CAT.1:9名, CAT.2:173名, 合計:182名
*2005年8月1日に合格発表を行った。
3. 認証申請者に対して、2005年11月18日に認証書を発行した。
○被認証者 CAT.1:9名, CAT.2:173名, 合計:182名
4. 特別資格認証者（CAT.3:12名）を認証した（2005年11月18日に認証書発行）。
5. 2005年度第2回（通算第4回）資格認証試験を2005年11月26日に実施した。
○受験申請者 CAT.1:5名, CAT.2:183名, CAT.3:26名, 合計:214名
○合格者 CAT.1:5名, CAT.2:156名, CAT.3:12名, 合計:173名
*2006年1月26日に合格発表を行った。
6. 各カテゴリー試験問題の正解率分析を行い、試験問題サンプルデータの整理を行った。

7. 次回資格認証試験（2006年6月17日実施予定）試験問題案作成などの準備を行った。

（潤滑管理技術者資格認証準備委員会：委員長 似内昭夫 他2名）

今期本委員会は該当ISO規格制定案の推移を見守りながら、それが制定された後に、すぐ動けるようなシステムの再構築を図った。本会次期には新委員の候補リストを提出する。

（認証制度品質管理システム委員会：委員長 藤川 猛 他2名）

1. 2005年8月：JIS Q 17024, ISO1836-2にもとづいて本事業部会の規定・内規の見直しを行い、いくつかの検討事項を指摘した。
2. 2006年2月：本事業部会、訓練機関認定委員会、振動技術者資格認証委員会に対して内部監査を行った。重度な指摘事項はなかった。

技術開発支援センター標準事業部会：部会長 染谷常雄 他17名、開催4回

1. 2005年度（平成17年度）の委託業務内容（JIS, ISO, 国際規格適正化、アジア太平洋地域標準化体制整備）を確認した。
2. 標準化事業の活性化を目的に、3つのWG（ISO/TC/SC分野の掘り起こし）「標準化に関する啓発・教育」「JISの活性化」及び幹事会を発足させ、活動に努めた（幹事会開催3回）。これらのWGにおいては、機械関連分野のISO幹事国の発掘（経済産業省と連携をとって進める）、標準管理士資格制度創設の可能性の調査、標準事業部会ホームページの作成、機械関係JISの見直しの現状調査を実施した。
3. 21部門宛に日本機械学会一般基準に関するアンケートを2005年8月に実施し、多数の回答を得た。アンケートの結果より（2005年11月各部門にアンケート結果は報告）、現行の日本機械学会基準の活用性、重要性などを確認すると共に、定期見直し確認が遅れている基準については確認作業を進めるよう事務局に連絡した。
4. 2005年度日本機械学会年次大会にて「国産規格の国際標準化は日本の技術や産業を元気にできるか？」と題するワークショップ（講演7件、パネル討論1件）を開催した。
5. 第2回標準事業表彰（貢献賞、国際功績賞）の公募を行い、推薦のあった12名に対する同選考委員会の審査結果を承認し、貢献賞2名、国際功績賞2名の受賞を決定した。
6. 2005年11月24日に「標準事業特別講演会」（講演2件）を開催した。併せて第2回標準事業表彰式を執り行い、受賞者に表彰楯を授与し、その業績を称えた。
7. 発電用設備規格委員会にて策定された規格案について審査し、4件の制定を承認した。
8. 発電用原子力設備規格2件に関する講習会を東京、広島、仙台にて計5回開催した。
9. 「日本機械学会基準S 013 摩耗の標準試験方法」改正原案作成委員会の設置を承認した。
10. 経済産業省より講師を招き、国際標準化をめぐる現状について勉強会を開催した（2005年3月）。法工学部門長を講師として招き、規格と法的責任について勉強会を開催した（2005年12月）。
11. 経済産業省の「平成17年度工業標準化経済産業大臣表彰」及び「平成17年度原子力安全功労者表彰」に対し、候補者を推薦した。

S-S C 1 6 5：手腕系振動（第3部）原案作成分科会：委員長 前田節雄 他21名、WG開催5回、本委員会開催3回

ISO 5349-1:2001を和訳し、解説を付してJIS B 7761-3とする原案を作成する。

1. ISO 5349-1の内容の確認
2. ISO 5349-1和訳案の検討
3. 和訳案の内容の検討
4. 解説案の作成及び検討
 - a. 振動の人体への影響尺度である振動暴露量A(8)の概念の解説を中心とする
 - b. 振動強さ及び振動暴露時間と振動暴露量の関係を簡潔に解説する
5. 平成17年11月28日 日本規格協会による中間チェック完
6. 中間チェックに基づき原案を修正しWG・本委員会にて審議

規格原案を2月下旬までに日本規格協会に提出。

発電用設備規格委員会：委員長 湯原哲夫 他29名、開催4回

1. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（第I編・第II編）（2005年版）」を制定した。
2. 「発電用原子力設備規格 設計・建設規格（第I編・第II編）（2005年版）」の講習会を2回実施した（3月にもう1回実施予定）。
3. 「発電用原子力設備規格 維持規格（2004年版）」の講習会を3回実施した。
4. 「発電用原子力設備規格 環境疲労評価規格」の公衆審査を実施した。
5. 「発電用火力設備規格（2005年追補版）」の公衆審査を実施し、制定した。
6. 「発電用火力設備規格 火力設備配管減肉管理技術規格（2006年版）」の原案を策定し、公衆審査を実施した。

〔原子力専門委員会：委員長 森下正樹 他22名、開催4回〕

1. 「発電用原子力設備規格 環境疲労評価規格」の原案を策定した。
2. 「発電用原子力設備規格 原子力材料規格」の原案を策定した。

〔火力専門委員会：委員長 西口磯春 他22名、開催4回〕

1. 「発電用火力設備規格（2005年追補版）」の原案を策定した。

〔核融合専門委員会：委員長 宮 健三 他18名、開催3回〕

1. ITERがフランス誘致となり、日本への誘致というこれまでの前提が大幅に変更となったため、規格開発の方針変更に関する検討を慎重に行い、専門委員会の開催は3回となった。
2. 日本で製作する可能性及び緊急性が高い超伝導磁石の構造規格を優先して策定し、追ってこれまで進めてきた真空容器規格の開発を進める手順とする方針を固めた。
3. 各分科会において品質保証、超伝導磁石構造設計、超伝導磁石構造体溶接・検査について規格原案の検討を開始した。

技術開発支援センター研究協力事業部会：部会長 有富 正憲 他8名、開催2回

1. 2006年度に設置を希望するRC及びRC-D分科会の研究テーマ募集を行い、応募希望を受けた8件の研究テーマを審査し採択して、技術開発支援センター運営委員会へ報告した。
2. 本年新設分科会の参加勧誘状況が遅れていることを懸念し、今後は、同勧誘業務を前倒しに進めていくための対応措置等につき協議を行った。含めて、提案があった分科会の中で、参加企業数が少ないものがあつたので、更なる勧誘を行うように要望するとともに、3月に再度参加企業の数をフォローすることにした。
3. 分科会活動における「知的財産権の取り扱い指針」をまとめて、同指針を当事業部会所属分科会運営規定第28条に反映した。
4. 分科会終了に伴う取得物件寄贈の申請（4件）を審議し承認した。
5. RS-6分科会「平成17年度原子力先進国の安全規制に関する調査」原子力安全基盤機構からの請負契約内容を確認し同分科会の設置を承認した。

RS-6 平成17年度「原子力先進国の安全規制等に関する調査」分科会：主査 班目春樹 他

受託先：独立行政法人 原子力安全基盤機構

受託契約日：9月27日、受託請負契約金額：9,870,000円

1. 2005年9月設置。
2. 米国、フランス及びフィンランドの原子力発電に関して規制状況を中心に公開文献等にて調査した。
3. フィンランド・仏国の原子力発電に関して規制状況を中心にした訪問調査を2006年1月に実施した。
4. 2006年1月に中間報告書をまとめて受託先へ提出した。

RS-7 平成17年度「バイオマスエネルギーの利用促進に関する戦略的研究」分科会：主査 柏木孝夫 他

受託先：経済産業省 資源エネルギー庁

受託契約中止日：2006年2月17日「バイオマスエネルギー関連技術の利用促進に関する調査」に係る随意契約を中止（取り止

め）

1. 2005年2月準備会設置。
2. 柏木前副会長を中心に「バイオマスエネルギーの利用促進に関する政策提言」内容をまとめる会合を2005年3月と4月に開催した。
3. 最終事業実施計画書案並びに最終予算書案を2005年11月に経済産業省へ提出した。
4. 第1回親委員会の会合を2005年12月に開催し、今後の運営スケジュールやサブタスクの委員構成案等を審議した。
5. 第1回サブタスクの会合を2006年2月に開催し、受託予定の「バイオマスエネルギー関連技術の利用促進に関する調査」のためのヒアリングを親委員会の企業側委員並びにその実務担当者を変えて実施した。
6. 2006年2月17日に同受託予定の随意契約が経済産業省との間で思うように運ばなかったことを受け、主査の柏木孝夫先生の了解を得て、同受託予定契約の中止（取り止め）を関係委員並びに経済産業省へ通知した。

RS-8 平成17年度「原子力の保全高度化に係わる最新動向の調査」分科会：主査 班目春樹 他

受託先：関西電力株式会社他9社

受託契約日：2006年1月18日、受託請負契約金額：5,250,000円

1. 2006年1月設置。
2. 海外の原子力発電所で安全面・運転面に関して、ともに好成績をあげている諸国の高度化に係わる取り組み内容を中心に調査活動を行なった。

RC205 歯車装置に関する実用技術革新のための調査研究分科会：主査 井上克己 他80名、開催3回（運営委員会を含む）

1. 2003年4月設置。
2. 下記の調査研究テーマに関して情報分析とまとめを行った。
 - ・過去と現在の歯車装置実用例の分析に基づく歯車技術の継承と革新に関する調査研究
 - ・損傷確率表現を導入した歯車の強度評価とこれに基づく設計技術の提案
 - ・歯車設計・製造に関する最新技術の情報収集と分析
3. 運営委員会の開催：上記の分析とまとめ、報告書の作成、成果報告会の開催等を審議するため、2月を除く毎月、運営委員会を開催した。
4. 成果報告書の作成：最近30年間の歯車装置の進化を解説した図集（報告書別冊）を含む成果報告書を作成した。
5. 最終分科会の開催：4月22日に第8回分科会（成果報告会）を開催し、成果を報告して、分科会活動を終了した。

RC206 次世代統合CAD/CAE システムの開発とその適用に関する研究分科会：主査 萩原一郎 他27名、開催なし

1. 2003年4月設置。
2. 2005年度は成果報告書作成・発行し、2年間の調査研究分科会を終了した。

RC207 ディーゼル機関のゼロエミッション化と低燃費化のための燃焼物理と燃料化学に関する研究分科会：主査 新井雅隆 他53名、開催1回

1. 2003年4月設置
2. 最終報告会（2005年6月13日-14日）：2年間の分科会活動の成果を報告書としてまとめ、その内容の報告を行った。内容は29件の個別研究と1件の特別研究プロジェクトの成果である。さらに環境省環境管理局環境管理技術室・室長・徳永泉氏による「自動車排出ガス規制の現状と今後の動向～第8次答申の概要～」という特別講演を行った。（参加者約80名）

RC208 ダンピング材料と制振デバイスの実用化技術に関する研究分科会：主査 鈴木浩平 他32名、開催2回

1. 2003年6月設置。
2. 2005年3月15日に第7回分科会を開催した。
3. 2005年6月23日に研究報告書を作成し最終報告会を開催した。
4. 以上をもって、2年間の研究分科会活動を終了した。

RC209 環境対策を加速するエンジントライボロジーとそのモデリング研究分科会：主査 瀧口雅章 他31名、開催2回

1. 2003年6月設置。
2. 2005年4月22日に第9回研究分科会を開催。各研究グループ（摩擦低減グループ、オイル消費低減グループ、摩耗低減グループ、潤滑油改善グループ）の第1回目の研究最終報告が行われた。
3. 2005年5月23日に第10回研究分科会を開催。各研究グループの第2回目の研究最終報告が行われた。
4. 2005年8月に研究報告書を発行し、2年間の研究分科会活動を終了した。

RC210 多様化する燃料と次世代動力システムの最適化に関する研究分科会：主査 後藤新一 他38名、開催2回

1. 2003年6月設置。
2. 2005年4月22日に第8回分科会を滋賀県立大学にて開催し、バイオディーゼル燃料利用技術に関する2件の話題提供と同大学のラボツアーを実施した。
3. 2005年7月22日に第9回分科会として最終報告会を実施した。

RC211 ヒトを取り込み活かすモノづくりのための高技能システム化技術に関する研究分科会：主査 榎本哲夫 他33名、開催2回

1. 2003年6月設置。
2. 2005年4月13日 第9回分科会会合『ものづくりマネジメントの最新動向』を開催し、発表3件を行った。
3. 2005年6月10日 最終会合第10回『システムの知能化と信頼性評価』を開催し、発表5件を行った。
4. 2005年9月30日 成果報告書(147頁)を出版し、2年間の研究活動を終了した。

RC212 マイクロ・ナノフレイディスクに関する調査研究分科会：主査 塚本 寛 他29名、開催3回

1. 2004年4月設置。
2. 6月15日に第5回分科会を開催した。（「高度部材産業の現状と政策課題」の紹介と研究事例の紹介2件）
3. 9月20日に第6回分科会を開催した。（研究事例の紹介2件）
4. 12月19日に第7回分科会を開催した。（研究事例紹介3件）
5. 右記のOSを組織した。（第83期年次大会、流体工学部門講演会、流体力学学会2005年会）

RC213 レーザ計測と数値的診断法による能動的制御燃焼技術の国際協力研究分科会：主査 森吉泰生 他40名、開催6回

1. 2004年4月設置。
2. 2005年3月に第6回分科会を開催し、6件の話題提供を行った。
3. 2005年5月に第7回分科会を開催し、5件の話題提供を行った。
4. 2005年7月に第8回分科会を開催し、3件の話題提供を行った。
5. 2005年10月に第9回分科会を開催し、IEA-TLMの報告を行った。
6. 2005年11月に第10回分科会を開催し、2件の話題提供と京都大学研究室の見学を行った。
7. 2006年1月に第11回分科会を開催し、8件の話題提供を行った。

RC214 エレクトロニクス実装における信頼性設計と熱制御に関する研究分科会：主査 千 強 他 70名、開催10回

1. 2004年5月設置。
2. 2005年3月に第9回分科会を開催し、実装技術における信頼評価の動向などに関する4件の報告を行った。
3. 2005年4月、5月、6月に第10回、11回、12回分科会を開催し、CAE技術小委員会、熱制御小委員会および計測技術小委員会の第1年度研究成果の報告を行った。
4. 2005年7月に第13回分科会を開催し、実装信頼性評価における計測技術に関連する研究報告などが行った。
5. 2005年9月に第14回分科会を開催し、実装技術における

これからの新規信頼性問題に関する報告などを行った。

6. 2005年10月に第15回分科会を開催し、MEMS実装における信頼性評価技術などに関する報告を行った。
7. 2005年11月に第16回分科会を開催し、デジタル相関法を用いた計測技術などに関する報告を行った。
8. 2005年12月に第17回分科会を開催し、微小材料の界面はく離評価技術などに関する報告を行った。
9. 2006年1月に第18回分科会を開催し、第2年度研究成果に関する報告を行った。

RC215 微粒化効率向上のための噴霧操作技術に関する調査研究分科会：主査 千田二郎 他 35名、開催3回

1. 2004年6月設置。
2. 効率的な分科会運営のため、以下の3つの研究ワーキンググループを設置した。
 - ・WG-1；微粒化限界と微粒化効率に関する各分野での技術データベースの情報収集
 - ・WG-2；微粒化効率に関する学問的定義の構築
 - ・WG-3；微粒化限界と微粒化効率に関する体系的な整理
3. 初年度目の研究成果を中間報告書としてまとめ、2005年8月19日に配付した。
4. 2005年度においては、下記の研究分科会を開催した。
 - ・第5回研究分科会；2005年5月11日（話題提供5件）
 - ・第6回研究分科会；2005年8月19日（話題提供4件）
 - ・第7回研究分科会；2005年10月18日（話題提供6件）

RC216 多軸工作機械とその利用技術に関する研究分科会：主査 堤正臣 他86名、開催6回

1. 2004年6月設置。
2. 2005年3月15日に第5回研究分科会を開催。ナノメートル平面運動テーブルシステムの開発、複合加工機の熱変形測定装置の試作とその測定例など5件の話題提供を行い、東京工業大学の関連研究室の見学を行った。
3. 2005年5月27日に第6回研究分科会を開催。放電加工による曲がり穴および断面変化穴の創成、エンドミル加工におけるシミュレーションとその利用など4件の話題提供を行い、(株)日研工作所の工場見学を行った。
4. 2005年7月8日に第7回研究分科会を開催。ナノ精度機械加工、NC切削加工シミュレータ、最新の5軸加工機能など4件の話題提供を行い、東北大学の関連研究室の見学を行った。また、技術交流会を行った。
5. 2005年9月22日の機械学会年次大会中に、第8回研究分科会を開催。基調講演「最新の複合加工機とその技術」とワークショップ「多軸工作機械による加工とシミュレーション」における5件の発表を行った。
6. 2005年11月25日に第9回研究分科会を開催。5軸加工機による仕上げ面凹凸模様の制御方法、エーミングを用いた自動工具軌跡生成、生体組織加工の研究など5件の話題提供を行い、広島大学の関連研究室の見学を行った。
7. 2006年1月27日に第10回研究分科会を開催予定。最新5軸制御マシニングセンタ、金属光造形複合加工法、スターモーションコントロールシステムなど5件の話題提供を行い、九州大学の関連研究室の見学を行う。

RC217 熱エネルギーシステムの新たな可能性と最適な展開に関する調査研究分科会：主査 吉田英生 他41名、開催3回

1. 2005年4月設置。
2. 2005年9月22日に第1回分科会を開催し、3件の話題提供と討論を行った。
3. 2005年11月25日に第2回分科会を開催し、3件の話題提供と討論を行った。
4. 2006年1月13日に第3回分科会を開催し、3件の話題提供と討論を行った。

RC218 歯車装置の使用限界向上とトラブル未然防止のための設計・製造技術調査研究分科会：主査 松本 将 他90名、開催13回(運営委員会を含む)

1. 2005年4月設置。
2. 3つのワーキンググループを設置し、調査研究を実施中。
 - ・歯車装置のトラブルシューティング手法と事例に関する調査研究
 - ・歯車及び歯車装置の使用限界向上技術の調査研究

- ・歯車設計・製造に関する最新技術の情報収集と分析
- 3. 全体分科会を下記の通り開催した。
 - 5月27日：第1回分科会（調査研究計画，技術講演「高品質歯車加工の課題と展開」）
 - 9月9日：第2回分科会
（工場見学：三菱重工業（株）汎用機特車事業本部，技術講演「三菱重工製過給機の動向」）
 - 12月16日：第3回分科会（技術講演5件，「歯車および歯車装置の最新測定技術事情」）
- 4. 運営委員会の開催
WGの調査研究の報告と討議，全体分科会の企画と実施，などを行う運営委員会を毎月（2月を除く）を開催した。
- 5. 次年度計画
 - ・次年度（最終年度）は，4回の分科会と11回の運営委員会を開催する予定。
 - ・調査研究進捗状況を議論する中間報告会を4月14日に実施する予定。

RC219 CG ベースのCAD/CAE 統合システムの開発とその適用に関する研究分科会：主査 萩原一郎 他24名，開催3回

1. 2005年4月設置
2. 2003年7月2日，第1回分科会並びに仕行会を開催した。主査による研究方針の説明のあと，「CAE・感性問題など」，「最適化，音振」，「機能モデル・TRIZ（発明的問題解決の理論）・針金モデルなど新技術開発と実製品への適用」，「CAD/CGに関する新しい展開」それぞれにつき研究者側から説明し討議を行った。
3. 2005年10月14日第2回分科会を開催した。（話題提供4件）
4. 2005年12月26日第3回分科会を開催した。（話題提供4件）

RC220 ディーゼル機関における均一および不均一現象を制御する燃焼物理と燃料化学に関する研究分科会：主査 新井雅隆 他54名，開催2回

1. 2005年4月設置
2. 研究分科会の活動方針：多忙な研究者が一同に会して討議することが重要なため，全員出席を前提とした会合を年間に2回実施した。またその際に研究協力者である若手研究者についても，旅費を支給して全国から召集した。
3. 発足会議（2005年6月13日-14日）：RC207の最終報告会との合同会議を実施した。燃料や可燃混合気の不均一性がディーゼル機関の特性に与える影響を確認し，本研究分科会の目的と意義の確認を行った。その後，研究者側委員より，個別研究についての計画が述べられ，これを承認した。（参加者約80名）
4. 研究経過報告会（2005年11月28日-29日）：燃料合成と熱分解のプロセス解析，着火および燃焼の化学反応，噴霧と燃焼特性，NO_xとPMの生成及び消滅のプロセス解析，排ガス処理方式の検討，の各項目について今年度の研究進捗状況の報告を行った。また3件の招待講演を行った。（参加者約75名）

RC221 第9期エンジントライボロジー研究分科会：主査 瀧口雅章 他29名，開催3回

1. 2005年6月設置。
2. 2005年7月15日に第1回研究分科会を開催。エンジン潤滑の研究雑誌について講演を行った。各研究グループ（マクログループ，ミクログループ，ナノグループ）の研究概要について説明を行った。
3. 2005年9月13日に第2回研究分科会を開催。ピストンリング油膜厚さ測定の可能性，ピストン摩擦力に与える各因子の影響，軸受潤滑について報告を行った。
4. 2005年12月2日に第3回研究分科会を開催。EHL摺動部の温度分布測定と油膜厚さに及ぼす粘性くさび作用の影響，The 2005 World Tribology Congress (WTCIII)の概要，エンジン騒音低減について報告を行った。

RC222 燃料と動力システムの最適化による環境負荷低減に関する研究分科会：主査 後藤新一 他32名，開催1回

1. 2005年6月設置。
2. 企業側委員の研究内容に対する要望調査と，研究者側委

- 員の対応可能な研究内容に対する調査をe-mailにより行い全体計画とのバランスにより，テーマの選定作業を行った。
- 3. 2005年11月25日に第1回分科会を産業技術総合研究所にて開催し，企業側委員からの自己紹介と，研究者側委員からの各研究テーマの概要説明を行った。
- 4. 2006年1月後半に第2回分科会を開催予定。企業側委員であるJFEホールディングスのDME関連施設に関する話題提供と施設見学を計画中（2005年12月現在）。

RC223 知識経済社会の共創型産業プロセスに関する研究分科会：主査 寺野隆雄 他33名，開催1回

1. 2005年6月設置。
2. 以後，参加企業を募っているが状況は芳しくなく現在のところ2社のみにとどまっている。
3. 2006年2月23日 第1回分科会会合『共創システムの動向』を開催し発表2件を行う。また参加委員の研究テーマについて報告する

1・14・4 会誌出版部会

会誌出版部会：部会長（委員長） 長南征二（編修理事），他23名，開催4回

1. 日本機械学会誌を発行した。（詳細1・11・1参照）
2. 特記事項
 - i) 新規の連載講座「新機械技術史講座」の企画を行い2006年4月号より掲載予定。
 - ii) 会誌付録としてタブロイド判形新聞を以下の内容で発行した。
 - 2005/3月号 機械系「21世紀COEプログラム」大集合シンポジウム開催
 - 2005/7月号 機械工学からみた愛・地球博の面白さ
 - iii) 部門ニュースレターを2005年5月号，2005年7月号，2005年10月号，2006年1月号に掲載した。
 - iv) 会長対談はメカライフ創刊20年記念として，編集委員会に關係のある方々と対談を行い，その記録を会誌2006年1月号に「会長対談 学会と社会のつながり」として掲載した。

メカライフ編集委員会：委員長 加藤千幸 他31名，開催4回

1. 日本機械学会誌の2005年3月，6月，9月，12月の各号を発行した。（詳細1・11・1参照）
2. 上記1.項の各号にグラビアページを企画し，掲載した。

1・14・5 論文集出版部会

論文集編集委員会：部会長（委員長） 堤 正臣（編修理事），編集委員27名，校閲委員1,029名，開催6回

1. 日本機械学会論文集A，B，C編各12冊を発行した。（詳細1・11・1参照）
2. 特記事項
 - i) 2005年1月～12月までの投稿件数は1,332件である。
 - ii) 校閲委員へ規定のより徹底した周知のため校閲委員会議を東北，九州，関東の3地区で開催した。
 - iii) 「論文校閲」感謝状贈呈者 87名を決定した。
 - iv) 新たな論文のカテゴリーとして技術論文を設け，2005年4月1日より受付を開始した。（本年投稿数34件）また，技術論文の新設ともない，技術報告を2005年12月末日をもって受付けを終了した。
 - v) 和文論文誌の論文情報の流通やIFの取得を目指して，英文抄録の長さや引用文献の英文表記への変更等の執筆要綱の変更を行った。2006年4月号発行分よりすべての論文の記載方法を変更することとした。
 - vi) 執筆要綱の見直しにあわせてテンプレートファイルの整備，ホームページ内のQ&Aの更新，基準キーワードの見直しを行った。
 - vii) 論文集の編集方針について検討を行い，エディター制の導入を2006年4月より開始することとし，論文集の判型の変更，掲載料の改定などの検討を行った。
 - viii) 総目次の本誌への掲載を廃止し，ホームページでの掲載することとした。

Journal編集委員会：委員長 木村文彦 他29名，開催2回

1. 英文論文集 (JSME International Journal) を発行した。
(詳細・11・1参照)
2. 特記事項
 - i) 2005年1月～12月までの直接投稿論文 (original) の投稿数は、国内より277件、海外より135件である。
 - ii) 日本学術振興会科学研究補助金費 (研究成果公開促進費) の交付を受けた。(550万円)
 - iii) 部門英文Journal (電子Journal) 発行に向けて準備委員会を設け検討を行い、8誌13部門が来期の創刊を決定した。
流体工学部門と熱工学部門ではシステムの検証を兼ねて先行移行を行っている。
 - iv) 2006年12月で冊子体の発行は終了し2007年1月より全面的に上記多分野毎の電子Journalに移行する。
 - v) 科学技術振興機構で学術情報 (論文) の電子アーカイブ事業が行われることになり、本会JSME Int. Journalが応募したところ、選定誌になった (全74誌)。今後、創刊号よりアーカイブされ、J-STAGE上に掲載されることになる。

1・14・6 出版事業部会

出版事業部会：部会長 高柳 格 他17名、開催3回

1. 直営出版物の発行
 - i) 機械工学便覧
基礎編 α1「機械工学総論」、α3「材料力学」、α4「流体工学」、α8「電気・電子の基礎、化学の基礎」、α9「単位・物理定数・数学」
デザイン編 β4「機械要素・トライボロジー」、β7「生産システム工学」
応用システム編 γ3「熱機器」、γ5「エネルギー供給システム」、γ8「情報・メディア機器」
 - ii) JSMEテキストシリーズ
「伝熱工学」、「流体力学」、「振動工学」
 - iii) 発電用原子力設備規格 維持規格 (2004年版)
発電用設備規格 配管減肉管理に関する規格 (2005年版)
発電用原子力設備規格 設計・建設規格 (2005年版) <第I編 軽水炉規格> <第II編 高速炉規格>
2. 新規直営・委託出版の企画
新規の委託出版での企画2件を承認し、次期において分科会を設置することとした。
3. 特記事項
 - i) 機械工学便覧 (改訂版全29冊) の早期発行を推進し、販売促進を行った。
 - ii) JSMEテキストシリーズ (全14冊) の早期発行を推進した。

計算力学ハンドブックシリーズ出版分科会：主査 三好俊郎 他7名、開催0回

1. 1992年3月設置
2. 第1巻 (構造編) は1998年7月発行
3. 第2巻 (差分法・有限体積法：熱流体編) は全て作業終了。2006年3月発行。
4. 第3巻 (原子/分子・離散粒子のシミュレーション) は執筆依頼をし、数編を除き脱稿、編集作業を行っている。

熱・流体ビデオライブラリー出版分科会：主査 吉田英生 他6名、開催0回

1. 1993年6月設置
2. 乱流レクチャーシリーズ (全5巻) は1995年3月に発行した。
3. 「燃焼工学入門 燃焼を見る 視る 観る 診る」をDVDで2005年1月に発行した。
4. 新規ライブラリーを企画中。

材料力学ハンドブック出版分科会：主査 西谷弘信 他11名、開催0回

1. 1993年12月設置
2. 応用編は脱稿し、1編を除き校正・調整・編集作業を進めた。
3. 2006年8～9月発行予定で原稿督促中である。

計測の不確かさ改訂出版分科会：主査 笠木伸英 他7名、開催0回

1. 1999年5月設置
2. 昨年度までにおおよそ1/2の最終原稿が完成しており、現在、残りの部分の文章の整合性をとりつつ、校正を行っている。
3. 2006年度中には最終原稿を完成予定。

新版機械工学便覧改訂出版分科会：主査 岡村弘之 他10名、開催2回

基礎編 (α編) 出版分科会：主査 白鳥正樹 他12名、開催0回
デザイン編 (β編) 出版分科会：主査 伊東誼 他10名、開催0回
応用システム編 (γ編) 出版分科会：主査 柏木孝夫 他12名、開催0回

1. 1999年11月設置
2. 今期はα8編「電気・電子の基礎、化学の基礎」、α9編「単位・物理定数・数学」、α3編「材料力学」、γ5編「エネルギー供給システム」、β7編「生産システム工学」、α1編「機械工学総論」、β4編「機械要素・トライボロジー」、γ3編「熱機器」、γ8編「情報・メディア機器」、α4編「流体工学」の10冊を発行した。
3. 来期初頭に、β2「材料学・工業材料」、β6「制御システム」、γ6「交通機械」などを刊行予定とし、引き続き作業の促進を行い、来期も10冊程度の発行を予定した。
4. 出版分科会 (幹事会) を2回開催し、進行状況の確認を行い、合本発行のため遅れている編の対応などを検討した。

JSMEテキストシリーズ出版分科会：主査 宇高義郎 他28名、開催4回

1. 2000年6月設置
2. 今期は、「伝熱工学」「流体力学」「振動工学」の3冊を発行した。
3. 今期、「熱力学」は5刷、「流体力学」は2刷、「伝熱工学」は2刷、「制御工学」は3刷を発行し、順調に売れ行きを伸ばした。
4. 来期は「機械工学のための数学」「機構学」「材料力学」などに加え、「演習 流体力学」「演習 伝熱工学」など、合計5冊程度の発行を予定した。

機械技術者のためのエネルギー工学出版分科会：主査 大八木重治 他4名、開催0回 (メール会議2回)

1. 2002年4月設置
2. 初期の編成案を修正する案について協議している。また執筆者の変更を協議した。
3. 一次原稿の完成は2006年3月の予定ですすめている。

自励的不安定現象に迫る出版分科会：主査 佐藤勇一 他3名、開催1回

1. 2002年5月設置
2. 2005年10月脱稿。現在、著者校正中である。
3. 2006年6月発行予定。

機械工学関連科学技術のバイオニア出版分科会：主査 吉田英生 他6名、開催1回

1. 2003年5月設置
2. 2003年5月の会議で編集方針について意見交換をした。
3. メール会議にてさらに意見交換を行い、取り上げる科学者・技術者の絞込み作業をしている。

伝熱工学資料 (改訂第5版) 出版分科会：主査 西尾茂文 他12名、開催0回

1. 2003年11月設置
2. 現在、8割脱稿し、委員査読中である。
3. 2006年夏発行予定。

歯車損傷図鑑出版分科会：主査 北條春夫

1. 2004年12月設置し諸準備を開始した。
2. 編集作業終了。2006年5月発行予定。

技術者倫理教科書出版分科会：主査 齊藤 忍 他8名，開催1回

1. 2005年2月設置し諸準備を開始した。
2. 現在，目次が完成し，執筆依頼中（2006年2月末締切り）。
3. 体裁：A5判ソフトカバー，150ページ前後。
4. 2006年8月発行予定。

委託出版分科会

超精密シリーズ委託出版分科会：主査 塚田忠夫 他6名，開催0回

「超精密シリーズ」は出版社である(株)コロナ社で残り1冊を発行準備中。

1. 「超精密システムの設計技術」は1996年3月発行。
2. 「超精密加工技術」は1998年11月発行。
3. 「超精密環境制御技術」は未脱稿の著者へ督促中。
4. 「超精密形状計測技術」は1996年12月発行。

機械力学・計測制御の新技术融合シリーズ委託出版分科会：主査 谷順二 他10名，開催1回 出版社：(株)養賢堂

1. 1993年7月設置
2. 新技术融合シリーズは第7巻までとし，分科会を今年度で終了することとした。

コンピュータダイナミクスシリーズ委託出版分科会：主査 清水信行 他9名，開催2回 出版社：(株)コロナ社

1. 1996年5月設置
2. 「コンピュータダイナミクスシリーズ」は出版社であるコロナ社で編集。
3. コンピュータダイナミクスシリーズ 2「非線形系のダイナミクス -非線形現象の解析入門-」に関して，2005年11月11日付けで，全ての原稿提出完了。現在，コロナ社で頁割り付けや各章微修正などの編集作業中。2006年内中に発行予定。
4. コンピュータダイナミクスシリーズ 1「数値積分法の基礎と応用」は2003年7月に発行済み。
5. シリーズ 3の「マルチボディダイナミクス(1)-基礎理論-」は2006年4月発行予定。
6. シリーズ 4の「マルチボディダイナミクス(2)-数値解析と実際-」は執筆中。

高速鉄道物語改訂委託出版分科会：主査 佐藤芳彦 他9名，開催0回 出版社：(株)成山堂書店

1. 2001年8月設置
2. 出版社にて原稿検討中，追加改訂準備中。

気液二相流技術ハンドブック改訂委託出版分科会：主査 深野徹 他9名，開催0回 出版社：(株)コロナ

1. 2002年3月設置
2. 全13章のうち1章と他省の一部を除き原稿完成。
3. 原稿は出版社に全て送付済み。現在，出版社にて編集作業中。

フルードインフォマティクス委託出版分科会：主査 早瀬敏幸 他6名，開催0回 出版社：技報堂出版(株)

1. 2002年11月設置
2. 現在，執筆者からの原稿を取り纏め中である。

機械工学最前線委託出版分科会：主査 井門康司 他5名，開催2回

1. 2004年4月設置
2. 必要に応じて随時メール会議を行い，テーマ・執筆予定者を決定。
3. 「運動と振動の制御の最前線(仮)」「CFD最前線(仮)」「非破壊検査工学の最前線(仮)」「流体工学最前線(仮)」「柔らかなロボットへの挑戦(仮)」「自動車工学最前線(仮)」の6巻分について執筆依頼済みで一部第2稿依頼中。「MEMSの最前線(仮)」など2巻について執筆予定者への内諾中。また，加工関連分野，バイオ関連分野についてテーマ設定および執筆予定者を選定中。
4. 出版社は共立出版(株)を予定。

ものづくりの秘密委託出版分科会：主査 畑 俊明 他10名，開催0回

1. 2004年12月設置
2. 原稿はすべて脱稿。現在編集途中で3月末に原稿完成予定。
3. 出版社は技報堂出版(株)を予定。

機械設計のためのヒューマン・センタード・デザイン委託出版分科会：主査 福田収一

1. 2004年12月設置
2. 本のタイトルを「HCDハンドブック-人間中心設計」とした。
3. 目次を次のように設定した。1章 はじめに/2章 大きく変わる設計/3章 こころと設計/4章 うごきの設計/5章 かたちを与える設計/6章 コミュニケーションと設計/7章 PBLと設計/8章 ライフと設計/9章 アメリカの動向
4. 現在執筆依頼中で2006年6月発行予定。
5. 出版社は丸善(株)を予定。

1・14・7 会員部会

部会長 矢部 彰 他19名，開催2回

1. 若手技術者向け講習会，ジュニア会友向けイベントや遊べるホームページの開設，学生員増強功労者表彰の内規の見直し等を，ワーキンググループを設置して検討した。
2. 会長による学生員増強功労者表彰校訪問(39校)の際に各校で開催されたプレゼンテーションを活用した入会勧誘パンフレットの作成をおこなった。
3. 学生員委員会および学生会の運営を中心に学生員の活動活性化策について審議し，学生用ホームページを立ち上げた。
4. 拠点代表委員制度の発展的解消を検討し，理事会に上申した。

学生員委員会：委員長 吉澤正紹 他8名，開催2回

1. 学生員卒業研究発表講演会を学生会において開催した。
2. 第43回全国学生研修会(幹事：北海道学生会，開催地：札幌・室蘭 平成17年8月17日～19日)を開催した。なお，第44回全国学生研修会(幹事：九州学生会，開催地：福岡・熊本，2006年8月)が開催される予定。
3. 2007年より2009年度のメカライフ記事寄稿の担当地区を決定した。
4. 第84・85期学生員委員会委員長の推薦区は東海地区と決定した。
5. 学生員増強対策および学生会活動の活性化等について審議した。
6. 学生会活動の現状調査と将来計画作成費補助金支給を廃止，全国学生研修会参加費の補助を決定した。
7. 学生会会員校運営委員へ贈呈記念品を変更した。
8. 各学生会の機関誌を発行した。
9. 「メカライフの世界」展の開催に協力した。

1・14・8 工学教育センター

工学教育センター運営委員会：委員長 児玉敏雄 他9名，開催0回

1. 組織改革により，第84期(2006年度)から技術開発支援センターの資格認定事業と工学教育センターを一本化し，新たに能力開発促進機構を設ける。本機構の管理は運営・企画委員会でを行う。

企画委員会：委員長 飯野利喜 他8名，開催5回

1. 第84期能力開発促進機構予算案の検討を行った。
2. 本部組織の改革に伴い第84期より企画委員会は「能力開発促進機構 運営・企画委員会」に統合し変更するとともに，同規定変更が行われた。
3. 2005年度日本機械学会教育賞候補2名の推薦を行った。
4. 2006年度第84期年次大会併催事業として「大学院教育関係」の行事企画の検討を行った。
5. 関東支部と合同で技術者のための継続教育セミナー「JABEEのための技術者倫理」を企画した。
6. 委員長代行に久保田裕二君(幹事兼務)が任につくこと

となった。

JABEE対応委員会：委員長 岸本喜久雄 他7名 開催0回

1. 日本技術者教育認定機構 (JABEE)「機械及び機械関連分野審査委員会」へ委員を派遣し、審査及びそれらに関する運営、調査等に協力した。

また、JABEEの普及指導活動として、受審予定校への指導員派遣を行った。

2. 組織改革に伴ない、本委員会規定案を作成した。

教育支援関連事業部会：部会長 佐藤 勲 他6名 開催3回

1. 「テクノボランティア活動支援制度」の今後の有効活用、広報活動等について検討を行った。

2. インターンシップのあり方、本会の寄与などの検討を行った。

3. 経産省インターンシップ企画調査に協力した。

4. 組織改革に伴ない、本部会 (新：教育支援関連事業委員会) 規定案を作成した。

能力開発支援事業部会：部会長 山本 誠 他12名 開催3回

1. 日本機械学会「能力開発支援システム (CPD: Continuing Professional Development)」のポイント対象項目の再検討を行った。

2. 日本機械学会「能力開発支援システムCPDの啓蒙活動記事」を会誌 (2005年7月号) に掲載した。また、随時会誌で行事参加者に会員証持参のお願いをし、CPD登録遂行の呼びかけを行うこととした。

3. 本会特別員に「能力開発支援システム (CPDポイント) に関するアンケート」を実施し、回答結果を基に来期も引き続き普及活動を行うこととした。

4. 2005年度計算力学技術者認定事業「固体力学分野の有限要素法解析技術者認定試験 (1級, 2級)」および「固体力学分野の有限要素法解析技術者付帯講習 (技能編)」と「熱流体力学分野の解析技術者認定試験 (2級)」および「熱流体力学分野の解析技術者付帯講習 (知識編)」を実施した。

5. 計算力学技術者認定委員会において、2005年度計算力学技術者認定事業「固体力学分野の有限要素法解析技術者認定試験 (1級, 2級)」および「熱流体力学分野の解析技術者認定試験 (2級)」の①受験者の合否判定、②公認CAE技能講習者 (事業体) の認定を行った。

6. 組織改革に伴ない、本部会 (新：能力開発支援事業委員会) 規定案を作成した。

計算力学技術者基準と認定に関する委員会：委員長 吉村 忍 他20名、開催0回 (頻繁にメール審議を実施)

I. 計算力学技術者基準と認定に関する委員会 固体力学分野WG：主査 吉村 忍 他20名、開催0回 (頻繁にメール審議を実施)

1. 2004年度「計算力学技術者認定事業 (固体力学分野の有限要素法解析技術者) 認定試験」2級の合格者204名、同1級の合格者106名を2005年4月号会誌に掲載した。

2. 固体力学分野の有限要素法解析技術者 (2級) 及び (1級) の標準問題集の改訂を行った。

3. 計算力学技術者2級標準問題集 (固体力学分野の有限要素法解析技術者) 第3版を刊行した。

4. 計算力学技術者1級標準問題集 (固体力学分野の有限要素法解析技術者) 第2版を刊行した。

5. 認定事業に関わる事務作業を請け負う業者を選定した。

6. 申し込み入力及びデータ管理システムの構築を行った。

7. 公認CAE技能講習会の更新処理及び新規認定作業を行った。

8. 認定試験問題 (固体力学分野の有限要素法解析技術者 (1級), (2級) の作成・検討については、ワーキンググループを構成して、非公開で行った。

9. 固体力学分野関連の技術者を対象として計算力学技術者認定試験を会誌7月号 (HPに公開) で公募し、2005年12月17日 (土) に実施した。関東地区は慶應義塾大学矢上キャンパス、東海地区は名古屋大学工学研究科キャンパス、関西地区は大阪大学中之島センター、九州地区は九州大学伊都キャンパスにて実施した。

10. 組織改革に伴ない、本部会 (新：能力開発支援事業委員会) 規定案を作成した。

II. 計算力学技術者基準と認定に関する委員会 熱流体分野WG：主査 山本 誠 他14名、開催2回

1. 熱流体分野の2級認定試験の実施に先立ち、認定する技

術レベルについて議論し、これを決定した。

2. 2級標準問題集を作成するため、試験範囲とする分野およびキーワードを選定した。

3. 2級標準問題集用の問題作成を行い、委員会およびE-mail会議において、レベル、内容、解答、解説等に関して検討・修正した。

4. 2級問題集 (第1版) を2005年9月に刊行した。

5. E-mail会議により、ソフトベンダー等の講習会9件を公認講習会として認定した。

6. 認定試験問題の作成をワーキンググループにより実施した。

7. 認定試験問題の校閲を識者に依頼し、若干の修正後、認定試験問題を完成させた。

8. 2005年12月17日 (土) に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて付帯講習会 (知識編) を開催し、12月18日 (日) に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて第1回熱流体分野2級認定試験を実施した。

計算力学技術者認定委員会：委員長 大輪武司 他8名 開催1回

1. 「固体力学分野の有限要素法解析技術者 (1級) (2級)、熱流体力学分野の解析技術者 (2級)」の受験者の合否認定を行い、以下のとおり合格者 (認定者) を決定した。

固体力学1級合格者 (認定者)：97名 (申込者：162名、受験者：141名、合格率：68.8% (満点：150点、平均点：83.73点))

固体力学2級合格者 (認定者)：179名 (申込者：520名、受験者：468名、合格率：38.2% (満点：70点、平均点：45.02点))

熱流体力学2級合格者 (認定者)：89名 (申込者：113名、受験者：109名、合格率：81.7% (満点：70点、平均点：55.05点))

1・14・9 表彰部会

表彰部会：部会長 長島 昭 他18名、開催3回

1. 日本機械学会賞 (2005年度) 募集要項を決定した。
2. 日本機械学会賞委員会委員を理事会に推薦した。
3. 日本機械学会賞 (2005年度) の贈賞候補として学会賞委員会から推薦のあった日本機械学会賞 (技術功績) 3件、同 (論文) 16件、同 (技術) 8件、日本機械学会奨励賞 (研究) 20件、同 (技術) 17件、日本機械学会教育賞7件を理事会へ推薦した。
4. 日本機械学会船井賞 (2005年度) 贈賞候補として船井特別賞1件、船井賞3件を理事会へ推薦した。
5. 日本機械学会山賞 (2005年度) 受賞者として354名を理事会へ推薦した。
6. 日本機械学会三浦賞 (2005年度) 受賞者として164名を理事会へ推薦した。
7. 日本機械学会フェロー賞53件の報告を確認した。
8. 日本機械学会優秀製品賞を設置し、第1回の募集を行った。
9. 他機関からの受賞候補推薦について選考を行った。

日本機械学会賞委員会：委員長 辻 裕 他73名、開催2回、グループ会議13回

日本機械学会賞 (2005年度) 贈賞候補として技術功績3件、論文16件、技術8件、日本機械学会奨励賞 (研究20件、技術17件)、日本機械学会教育賞7件を表彰部会に推薦した。

日本機械学会船井賞選考委員会：委員長 小野京右、他2名、開催1回

日本機械学会船井賞の公募、選定、審査を行ない船井特別賞1件、船井賞3件の候補者を選考し、表彰部会へ推薦を行なった。

1・14・10 広報・情報部会

部会長 岸本喜久雄 他11名、開催4回

1. 課題により、広報活動および情報基盤の2つのワーキンググループを設置して部会の運営にあたった。

2. 広報活動に関するWG

・日本機械学会のリーダが気軽に話題を提供するWebコラム欄-JSME談話室「き・か・い」-の原稿執筆を本会

理事にお願いし、計12号をWebに掲載した。

- ・日本機械学会論文集に掲載された論文より、その著者が本会のホームページ『みみより技術情報』欄に掲載を希望するものを順次Webに公開した。(2006年2月現在A編:0件, B編:0件, C編:4件)
 - ・バナー広告の掲載をおこなった。(2006年2月現在7社)
 - ・愛知万博関連事業のオープニングイベント『メカノワールド-からくりからロボットへ[開催:2005年3月18日(金)~21日(月)]』の実施に協力をした。
 - ・愛知万博関連オープニングイベント「メカノワールド-からくりからロボットへ」, 会長就任, 日本機械学会賞, 通常総会企画シンポジウム・パネル討論「21世紀COEプログラムに見られる機械工学関連技術の新展開へのチャレンジ」, 国立科学博物館での展示会「日本の先端科学技術の紹介」, 会誌7月号タブロイド版「機械工学からみた愛・地球博の面白さ」, 2005年度年次大会等各種のプレスリリースをおこなった。
 - ・2005年度年次大会において先端技術フォーラム『日本機械学会賞(技術)受賞グループによる講演とフォーラム』, および特別企画『変わりつつある科学研究費制度-研究者に求められる役割-』を企画・実施した。
 - ・2006年度年次大会の広報活動を検討し, 来年度も継続して学会賞(技術)広報のための企画をおこなうこととし, 国際支部設立の行事企画も併せて提案することとした。
 - ・地方紙の広報網整備等について検討し, プレスリリース用データベースの更新をおこなった。
 - ・バーチャル海外支部システムとの連携から, 国際支部TGに協力した。
3. 情報基盤に関するWG
- ・事務局内部のデータベースサーバ(会員, 会計, 共有)の再構築をおこなった。
 - ・認証システムによる会員と非会員の差別化や, 事務局の省力化を柱とした「IT業務統合化システム」構築について理事会に上申し, 業者による調査をした上で進めることが承認された。
 - ・講演会受付システムの構築をし, 試験運用を開始した。
 - ・ホームページデザインコンペを実施し, 2件の応募があったが, 「IT業務統合化システム」に統合して進めることとした。
 - ・本会Webサーバ(現行システム)のSSL暗号化契約変更を検討実施した。

1・14・11 国際交流委員会

委員長 松本洋一郎 他8名 開催2回

1. JSME News Vol.16No.1 (Three Researchers in JSME Award in 2003特集号, 2005年6月), No.2 (Nano and Micro Machining Technologies and Their Application特集号, 2005年12月)の編集, 発行, および Vol.17No.1 (2006年5月発行予定)の編集を行った。
2. 大韓機械学会(KSME)が編集・発行担当のE-mail Newsletter "Engineering News in Brief" No.40 - No.51への本会からの提出原稿の編集を行った。
3. 2005年11月タイ工学会(EIT)と協力協定を締結した。
なお, 本会の国際交流活動に関連し, 本委員会として以下の事業の支援も行った。
4. 2005年9月デンマークにおいて世界機械系学会会長会議(ICOMES2005)が開催され, 本会からは田口会長, 笠木筆頭副会長が出席した。
5. 本会エンジンシステム部門とポーランドの内燃機関関連の会議(CONES)との間で相互友好協定が締結された。
6. 国際支部運営委員会の活動を積極的に支援した。

1・14・12 支部・部門活性化委員会

委員長 佐藤正明 他8名 開催3回

政策・財務部会傘下の委員会として,

1. 「法工学部門」の部門移行に関する審査を行い, その結果を政策・財務部会に答申した。
2. 分野横断的・新領域対応型研究活動組織の新設に伴い, 規定(案)等を作成し, 政策・財務部会に審議を依頼した。また, 同活動組織として設置申請された「法工学専門会

議」の審査を行い, その結果を理事会に上程した。

3. 部門の活動評価(2006年度評価実施に向けて)について評価方法や評価基準を検討し, 評価実施要領を作成した。
4. 部門評価点に関し, 付加の新設および一部改訂を行った。
5. 本部の組織改革(2006年度から)に伴い, 本委員会規定の見直しを検討した。

1・14・13 技術倫理委員会

技術倫理委員会:委員長 斉藤 忍 他16名 開催4回

1. 2005年, 年次大会(電通大)のワークショップ「技術者倫理をとりまく最近の動向」の実施
2. 2006年, 年次大会(熊本大)のワークショップ「企業倫理活動の現状と将来」の次第検討
3. 技術者倫理教育研修担当者養成ワークショップの次第検討
4. その他の話題(ヘルプライン, CSR, 科学における不正行為, 公益通報者保護法など)